

ISSN 2186-9146

中国言語文化学研究

第 11 号

大東文化大学大学院外国語学研究科
中国言語文化学専攻

2022

目次

講演

- (1) 馮夢龍と『平妖傳』、「三言」 佐藤晴彦 1
(2) 汉语双音复合词的意合机制 張 黎 7
(3) 語彙研究の方向性 岩本真理 21
(4) 「言志」「縁情」から「形似」へ—中国5世紀における詩歌観の変質とその波及—
..... 佐竹保子 35

文法研究

- (5) 汉语方言“什么”类疑问词列举用法的类型与分布 趙 葵欣 55
(6) 小释“谁管得了谁？” 胡 杰 69
(7) 日中両言語における場面描写について—話題と叙述に関するアンケート調査—
..... 洪 安瀾 79

中国語教育論

- (8) 「中日翻訳リテラシー教育」の取り組み—大学学部における翻訳教育の一環として
..... 板垣友子 91

中国語史研究

- (9) 《文選》五臣音注與《廣韻》《集韻》的關係 陳 小珍 103
(10) 『新刻官音彙解釋義音註』(乾隆十三年重鐫本)序文訳注をめぐって
..... 大島吉郎 111
(11) 『紅樓夢』前八十回と後四十回の比較研究—形容詞重疊式を中心に
..... 胡春艶・李永春 131

明治期漢語教科書研究

- (12) 書入れ版『官話指南』に所収された南北官話について
..... 孫 云偉 141
(13) 語会話教科書における清末北京語の特徴
..... 楊 璇 149

投稿規程 161

執筆者紹介 163

馮夢龍と『平妖傳』、「三言」

佐藤晴彦

目次

はじめに

1. 『平妖傳』のこと
2. 話本の話し
3. 「三言」の調査
4. Patrick Hanan 氏の研究

はじめに

中国文学を代表するジャンルとして、「漢文、唐詩、宋詞、元曲」ということがよく言われます。中国文学の代表的ジャンルを表していると同時にそれぞれの時代の特徴を表しているから、人々が繰り返し使ってきたのだと思います。しかし、この表現は残念ながら元代で終わっていて明代以降がありません。明代を代表する文学史のジャンルは何でしょう？

それは恐らく小説ではないでしょうか。

通俗小説の代表となれば、すぐ思い出されるのが『三国志演義』、『水滸傳』、『西游記』、『金瓶梅詞話』の 4 種の作品です。これは文学史上「四大奇書」と呼ばれていますが、この呼び方は清代前期の書坊が販売促進のために考案したキャッチフレーズと言われています。私も四大奇書に興味を惹かれましたが、それ以上に興味を惹かれたのが明代末に活躍した馮夢龍でした。

馮夢龍 1574(萬曆 2)～1646(順治 3)は小説の改編・創作や戯曲の改編・創作さらに民歌収集など文学の様々な分野で活躍した人物で文学の領域で大きな足跡を残しました。そうした馮夢龍の様々な改編・創作のうち、私は『平妖傳』及び「三言」(『喻世明言[又『古今小説』]』、『警世通言』、『醒世恒言』)に興味を覚えたのです。

なお、講演の際は話本の研究に大きな足跡を残した Patrick Hanan 氏に関してほとんど言及していなかったのですが、講演後で Hanan 氏に関する質問が出ましたので、本稿では若干補うことにしました。

1. 『平妖傳』のこと

『平妖傳』という物語、実は 20 回本と 40 回本の 2 種あります。この 2 種『平妖傳』は、

「馮夢龍が創作した前半 15 回」 + 「20 回本『平妖傳』を 25 回に改編」
⇒40 回本『平妖傳』

というように成立しました。だとしますと、当然のことながら、「原作 20 回分の言語」と「馮夢龍が加えた前半 15 回分+後半改編部分の言語」との間に差異が生じるはずで

しかし、太田辰夫先生は 40 回本『平妖傳』を翻訳された時、その解説で

「馮夢龍の増訂はかなり巧妙に綿密に行われているから、その内容・言語はともに統一あるものとなっていると称して大過ないであろう。」

と述べられています。

私は新旧両本『平妖傳』を読んだ時、直感的に新本『平妖傳』の馮夢龍増補部分と旧本の言語は何かが違うという印象を得ていましたから、太田先生のこの解説にはすぐには納得出来ませんでした。

というのも、旧本が仮に嘉靖年間の出版だとしても、その成立時期は明初の可能性がある一方、新本の出版は天啓年間です。とすれば両者には 200~250 年の時間差があることとなります。これだけの時間差があれば言語に当然変化があったはずで、とすれば、両者の言語差を根拠として「三言」の成立を探求するという方法があるのではないかと思いました。こうした自分の構想をある時太田先生に伝えました。先生の『平妖傳』の解説に異を唱えるわけですからこわごわでした。

私の構想を静かに聞いておられた先生は、少し考えられた後、「うん、正しいね。」と一言発せられました。この一言を聞いた時の私の興奮度を想像していただけるのでしょうか？この言葉を聞いて私は千人力の力を得た気がしたものです。同時に指導教授の役割というのはこういう事なのか。若い研究者が一步を踏み出せず迷っている時、「この道を行きなさい。」と歩むべき方向を指し示すのが。太田先生のこの言葉を聞いて早や 40 年という月日が流れていますが、私は今でもこの恩が忘れられないでいます。

その時私が導き出した新旧『平妖傳』における言語的差異とは次のようなものです。

A 類：馮夢龍が使った語彙・表現

B 類：馮夢龍が使わなかった語彙・表現

A 類/B 類	現代語
難道、終不然／終不成	難道
險些兒／爭些兒、爭些箇	差(一)點兒
東西／物事、(東西)	東西
適纔、適間／適來、(適間)	剛纔
恁般／恁地	這樣・這麼、那樣・那麼
左近／左側	左右

2. 話本の話し

『平妖傳』はこれくらいにして、次に話本のお話しをしましょう。まず話本というのはそれまであまり話題にならなかったもので、話本の発見からお話しします。

2.1 話本の発見

- (1) 1925(大正 14)年、鹽谷温が内閣文庫で『全像古今小説』40 卷、『喻世明言』24 卷、『二刻拍案驚奇』40 卷、帝國圖書館で『醒世恒言』40 卷、『拍案驚奇』36 卷を偶然発見。
- (2) 鹽谷温門下の辛島驍らが滿鐵大連圖書館の大谷光瑞寄託書から『警世通言』28 卷、『古今小説』40 卷、『醒世恒言』40 卷を発見。
- (3) 鹽谷温門下の長澤規矩也が尾州徳川家逢左文庫から『警世通言』40 卷を発見。
- (4) 同じ頃中国でも、馬簾氏蔵本『警世通言』や孔徳『警世通言』34 卷が発見された。

こうした相次ぐ話本の発見により宋以来の話本の全貌が徐々に明らかになってきました。

それまでの話本の研究といえば、「三言」から抜粋した『今古奇觀』を利用していました。が、「三言」発見以後は「三言」を利用することになります。そこで「話本研究の隆盛」とも言うべきブームが起り、1930 年頃から鄭振鐸、超景深、譚正壁、孫楷第、胡士瑩等錚々たるメンバーが持論を展開しました。ところがそうした論の大半が、「この巻はこれこれの筆記に基づいて書かれているからいつ頃の成立だ。」という状況証拠からの推論に終始していたのです。従って私はどうもそうした論の展開には納得出来ず、もっと確実な、説得性がある根拠はないものかと考えました。そこで先ほど述べました 20 回本『平妖傳』と 40 回本『平妖傳』の言語の差が応用出来ないかと考えたのです。

3. 「三言」の調査

3.1 『古今小説』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『古今小説』に当てはめてみると、次のような結果となった。ただ、表が大きすぎるので、残念ながらここでは割愛せざるを得ません。佐藤説の概要は P.Hanan 説を紹介する章でふれます。

3.2 『警世通言』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『警世通言』に当てはめてみると、次のような結果となった。ただ、表が大きすぎるので、残念ながらここでは割愛せざるを得ません。佐藤説の概要は P.Hanan 説を紹介する章でふれます。

3.3 『醒世恒言』の場合

対応する A 類、B 類の語・表現を『醒世恒言』に当てはめてみようとしたのですが、この頃から私の興味が『醒世恒言』と『石點頭』との関係に移ったため、『醒世恒言』における筆者と Hanan 氏説の相違の資料は残していませんでした。

4. Patrick Hanan 氏の研究

私が 20 回本『平妖傳』、4 回本『平妖傳』の言語的差異に興味を感じていた頃、話本に関して Patrick Hanan という先生がスケールの大きな研究をされていました。その関係論文は、

1967 *The Early Chinese Short Story A Critical Theory in Outline*(HJAS27)

1969 *The Authorship of Some Ku-chin Hsiao-shuo Stories*(HJAS29)

1970 *Sung and Yüan Vernacular Fiction: A Critique of Modern Method of Dating* (HJAS30)

1973 *The Making of the Pearl-sewn Shirt and the Courtesans Jewel Box* (HJAS33)

1973 *The Yün-men chuan : from Chantefable to Short Story Bulletin of the School of Oriental and African Studies*

などがあり、さらにこうした論文より遥かに深く体系化した書として、

1973 *The Chinese Short Story, Studies in Dating, Authorship, and Composition*: Harvard University Press

という本を出版されました。

Hanan 氏の研究をざっと見た限り、私とは方法論が異なっていました。自分の研究の途上で Hanan 氏の成果を取り込むとなると自分の研究の全体像も描けないと考えたものから、当時は敢えて無視することにしました。自分の研究が一段落した時、Hanan 氏の結

論とどこがどう違うのか論ずればよいと考えたわけです。

なお、Hanan 氏の研究については福満正博氏の書評「PATRICK Hanan's "The Chinese Short Story Studies in Dating, Authorship, and Composition"」が要領よくまとめられておられるので、大変参考になります。

4.1 『古今小説』における Hanan 氏説と筆者の説の共通点、相違点

問題を明確にするために Hanan 説と筆者の見解を一覧表にすると次のようになります。

巻数作品名	Hanan 説	筆 者	巻数 作品名	Hanan 説	筆 者
1 珍珠衫	馮 夢 龍?	馮 ₁ ?	21 錢婆留	馮 夢 龍	明人
2 金釵鈿	馮 夢 龍	馮 ₁	22 鄭虎臣	馮 夢 龍	馮 ₂ ?
3 新橋市	m 巻 26,38 と同じ	S ₁	23 張舜美	Hsiung	熊龍・張生
4 閒雲菴	Hung20	雨窗・戒指	24 楊思温	Group A	S ₁
5 窮馬周	馮 夢 龍	馮 ₂ ?	25 晏平仲	middle	元
6 葛令公	馮 夢 龍	馮 ₂ ?	26 沈小官	m 巻 26,38 と同じ	S ₂
7 羊角哀	Hung21	欵枕・半角	27 金玉奴	馮 夢 龍	馮 ₂ ?
8 吳保安	馮 夢 龍	馮 ₂ ?	28 李秀卿	late	馮 ₂
9 裴晉公	馮 夢 龍	馮 ₁	29 明和尚	middle	明人
10 滕大尹	馮 夢 龍	馮 ₁	30 明悟禪師	Hung13	清平・五戒
11 趙伯昇	Group C	S ₁	31 鬧陰司	馮 夢 龍	馮 ₂
12 柳七官	馮 夢 龍	馮 ₂ ?	32 胡母廸	馮 夢 龍	明人
13 張道陵	馮 夢 龍	馮 ₂	33 張古老	Group A	S ₁
14 陳希夷	馮 夢 龍?	明人	34 李公子	Hung27	欵枕・李元
15 史弘肇	Group A	S ₁	35 簡帖僧	Hung2	清平・簡帖
16 范巨卿	Hung22	欵枕・死生	36 禁魂張	M. Group A	S ₁
17 單符郎	馮 夢 龍?	明人	37 梁武帝	l.巻 1 と同じ	馮 ₂ ?
18 楊八老	馮 夢 龍?	明人	38 任孝子	m.巻 3,26 と同じ	元
19 楊謙之	l.巻 37 と同じ	S ₂	39 汪信之	馮 夢 龍	馮 ₁ ?
20 陳從善	Hung12	清平・陳巡	40 沈小霞	馮 夢 龍?	馮 ₁

1. Group A : Hanan 氏が 13 世紀末から 14 世紀初めに成立したとする巻。
2. Group B : Hanan 氏が Group A に近いが判定し難いとした巻。
3. Group C : Hanan 氏が 14 世紀末から 15 世紀初めに成立したとする巻。
4. middle(m.) : Hanan 氏が 1400 年から 1575 年の間に成立したとする巻。
5. late(l.) : Hanan 氏が 1550 年から 1627 年の間に成立したとする巻。
6. 馮夢龍 : Hanan 氏が by Feng Meng Long とする巻。(筆者の馮₁馮₂に相当)
7. 馮夢龍? : Hanan 氏が probably by Feng Meng Long とする巻。(筆者の馮₁?馮₂?に相当)
8. Hung : 洪楨編『六十家小説』所収の作品のうち、現存する作品とその番号。(筆者の清平、雨窗、欵枕に相当)
9. Hsiung : 熊龍峯によって出版されたもの。(筆者の熊龍に相当)
10. M : 一篇を「入話」「正文」に分けた時の「正文」部分。

4.2 『警世通言』における Hanan 氏説と筆者の説の共通点、相違点

問題点を明確にするために Hanan 説と筆者の見解を一覧表にすると次のようになります。

す。

巻数	作品名	Hanan 説	筆者の見解	巻数	作品名	Hanan 説	筆者の見解
1	兪伯牙	小説傳記	貴賤交情	21	趙太祖	late	馮 ₂
2	莊子休	late	馮 ₂ ?	22	宋小官	馮夢龍?	馮 ₁
3	王安石	馮夢龍	明人	23	樂小舎	Pm.?M馮?	明人
4	拗相公	馮夢龍	馮 ₁	24	玉堂春	late	明人
5	呂大郎	馮夢龍?	明人	25	桂員外	馮夢龍?	馮 ₂
6	兪仲舉	GroupC	S ₁	26	唐解元	馮夢龍?	馮 ₂
7	陳可常	middle	S ₂	27	假神仙	late	明人
8	崔待詔	GroupA	S ₁	28	白娘子	GroupC	S ₁
9	李謫仙	late	明人	29	宿香亭	GroupB	S ₂
10	錢舍人	GroupB	S ₂	30	金明池	GroupB	S ₂
11	蘇知縣	馮夢龍?	馮 ₁	31	趙春兒	馮夢龍?	明人
12	范鰲兒	馮夢龍?	明人	32	杜十娘	馮夢龍?	馮 ₁
13	三現身	GroupB	S ₁	33	喬彥傑	Hung18	雨窗・錯認
14	一窟鬼	GroupA	S ₁	34	王嬌鸞	late	明人
15	金令史	馮夢龍?	明人	35	況太守	late	明人
16	小夫人	GroupB	S ₂	36	皂角林	GroupC	S ₁
17	鈍秀才	馮夢龍?	馮 ₂ ?	37	萬秀娘	GroupA	S ₁
18	老門生	馮夢龍	馮	38	蔣淑眞	Hung14	清平・刎頸
19	崔衙内	GroupA	S ₁	39	福祿壽	GroupC	S ₂
20	計押番	GroupA	S ₁	40	旌陽宮	鐵樹記	鐵樹記

備考

- 1.GroupA : Hanan 氏が 13 世紀末から 14 世紀初めに成立したとする巻。
- 2.GroupB : Hanan 氏が GroupA に近いが判定し難いとした巻。
- 3.GroupC : Hanan 氏が 14 世紀末から 15 世紀初めに成立したとする巻。
- 4.middle : Hanan 氏が 1400 年から 1575 年の間に成立したとする巻。
- 5.late : Hanan 氏が 1550 年から 1627 年の間に成立したとする巻。
- 6.馮夢龍 : Hanan 氏が by Feng Meng-Lung とする巻 (筆者の馮₁馮₂に相当)。
- 7.馮夢龍? : Hanan 氏が probably by Feng Meng-Lung とする巻 (筆者の馮₁?馮₂?に相当)。
- 8.Hung : 洪樞編『六十家小説』所収の作品のうち、現存する作品とその番号(筆者の清平、雨窗に相当)。

ただ不幸なことに Hanan 氏は 2014 年 4 月 27 日に亡くなりました。享年 87 歳。可能なら Hanan 説と自分の結論のどこがどう違うか話す機会を得たかったのですが、その機会を失ってしまい、非常に残念であります。心から Hanan 氏のご冥福をお祈りしたいと思います。

汉语双音复合词的意合机制

The *Yi He* (意合) Mechanism of Disyllabic Compound Word in Chinese

张 黎

Zhang Li

要旨：本稿は中国語二音節複合語に関する先行研究を取り上げて論じたうえで、中国語二音節複合語の「意合」メカニズムの理論について検討する。中国語は「一音一義」型言語であるが、二音節複合語は 1+1=1 であり、その 1 と 1 の組み合わせにおいては様々な意味関係と意味類型が存在する。言い換えれば、このような意味関係と意味類型はあらゆるタイプの中国語二音節複合語に見ることができる。1+1 の意味関係と意味類型を考察することは中国語語彙論に関わるものだけでなく、中国語文法研究の最も基本的な内容でもある。

关键词：双音复合词 意合 一音一义 语义链 字场

目次

0 引言：“一音一义”型的语言

一 双音组合的先行研究

二 复合词的意合机制

三 意合机制和字场理论

四 余论

参考文献

0 引言：“一音一义”型的语言

1.1 本文以双音复合词的内部语义组合机制为研究对象。之所以如此，一方面是因为汉语双音复合词是汉语词汇的主要存在形态，另一方面也是因为汉语双音节复合词是汉语“一音一义”原则的最直接的扩展形式。我们曾反复指出，“一音一义”是汉语型语言同“多音一义”的形态型语言的根本不同之处。这是汉语型语言同形态型语言在言语文化基因上的不同。

关于汉语的一音一义性，先行研究有很多论述。李方桂(1951)，赵元任(1968, 1976)，丁邦新(2002)，徐通锵(1991, 1999)都有论述，而孙景涛(2005)讨论了词法中的“一音一义”

本文为 2021 年 7 月 25 日大东文化大学中国语学科第 21 回学术研讨会发言稿的一部分。感谢大东文化大学中国语学科的各位先生为我提供了这次宝贵的交流机会。

现象，论证了诸如重叠、借词、拟声词、儿化、连绵词等现象与“一音一义”的关系，认为这些现象不与一音一义定律相合不过是表面现象，它们实际上仍然根植于一音一义，都同汉语的“一音一义”有关。因此，可以认为，汉语是一音一义性的概念型语言。赵元任也认为，汉语是单音节语的说法并非神话。

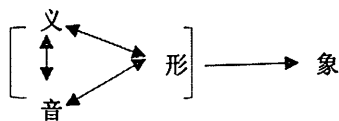
从历时角度看，古汉语(上古汉语)是单音节词占主导。周荐(1999)的统计，在赵诚(1988)的「甲骨文简明词典」中，单音节词占77.51%。在现代汉语中，单音节词也是最活跃，最有能产性的词。李如龙在《论汉语的单音词》一文中指出，即使在现代汉语中，单音词仍是词汇系统的核心和语法系统的基点。由此可见，一音一义是汉语之根，是汉语其他语言形式之源。正如老子在《道德经》所言，“道生一，一生二，二生三，三生万物”。汉语语法的历史衍生进程和其内在的逻辑构造证实着汉语和汉文化间的同构性。

1.2 汉语的“一音一义”体中的“义”指的是语言符号的所指，而且这种所指反映在具体的词语组合中指的就是词语在具体语境中的义项。比如，“情”这个字在《现代汉语词典》(商务印书馆)中共有如下义项：

- ①感情；②情面；③爱情；④情欲；⑤情形；情况；⑥情理；道理

这些义项是“情”族双音复合词产生的语义理据。“一音一义”中的“义”就是指这种具体的义项单位，而非笼统的词义。

1.3 徐通锵(2005)曾谈到汉语“形”、“音”、“义”的三位一体性。而我们则进一步认为汉语的具有“形”、“音”、“义”、“象”的“四位一体”性。“形”指的是文字形式，即汉字；“音”指的是语音形式；“义”指的是语言形式的所指，即词语的意义；而“象”指的是“形”“音”“义”三位一体共同在语言认知层面上所形成的意象。这种意象存在于人类的大脑中，是认知心理学，神经语言学或脑科学研究的对象。显然，汉语的“象”同英语或日语的“象”应该是不同的。另一方面，汉语的“形”、“音”、“义”、“象”四位一体的关系可如下表示：



这就是说，一个音义组合体对应于一个字，再由这个形音义三位一体的组合对应于一个心理意象。即： $[(1 \text{ 音}=1 \text{ 义}) < 1 \text{ 形}] > 1 \text{ 象}$ 。这一公式的语义解释为：(1)一音对映于一个义；(2)一个汉字统摄一个音义结合体；(3)由汉字所表征的音义结合体映射在心理认知层面上，构成一个心智意象。

汉语的这种“四位一体”的 $[(1 \text{ 音}=1 \text{ 义}) < 1 \text{ 形}] > 1 \text{ 象}$ 的属性，具有语言类型学的价值，是汉语型语言不同于形态性语言的根本之处。

一 双音组合的先行研究

1. 1 双音组合是汉语一音一义基因的最自然的拓展形式，也是通往汉语短语和句子乃至复句层面的必由之路。双音组合是汉语词汇的最大集。在现代汉语中双音词占主导。根据周荐(1999)的统计,《现代汉语词典》中的双音词占 67.625%。而在双语素词中,合成词占 98.625%。汉语的构词主要是用复合法,少用派生法。那么之所以会有如此现象,其原因就在于汉语的一音一义性。汉语每一个音都会有一个义,音和音的组合就是意和意的组合,也就是词法中的意合。

双音复合词的意合机制就是指双音复合词的理据,也就是双音复合词的内部形式,这也是语义透明度理论的研究对象。对于汉语复合词内部形式问题,学界已有相当多的研究。代表性的研究有:

(1) 传统语言学的描写。孙常叙在《汉语词汇》(1956)有详实的描写,可以说是传统描写词汇学代表作。王珏在《现代汉语名词研究》中从修辞学造词法角度讨论了名词的构词方式。

(2) 结构主义的研究。陆志韦 1957《汉语的构词法》用结构主义的方法对汉语构词的内部结构做了大规模的研究。对于复合词的构造,朱德熙曾说“汉语的句子的构造原则跟词组的构造原则基本一致”,“复合词的结构和句法结构式平行的”。而苏宝荣(2017)则认为上述说法一是具有片面性,有以偏概全的倾向;二是表面化,缺乏对深层语义结构的关注。

(3) 形式语义学的研究。朱彦《汉语复合词语义构词法研究》(2004)主要基于格语法理论,语义框架理论,运用述谓结构分析方法对复合词的语义结构进行形式化的分析。

(4) 转喻隐喻型研究。黄洁《汉语名名复合词语义认知研究》(2018)主要基于概念整合理论,隐喻和转喻理论对汉语名名组合进行了探索。

(5) 物性结构的研究。赵青青 宋作艳《现代汉语隐喻式双音节名名复合词研究—基于生成词库理论》(2017)运用生成词库学理论,特别是物性结构理论对汉语名名复合词进行了分析。另外,

(6) 基于构式语法理论的研究。刘玉梅《现代汉语新词语构造机理研究》(2015)等也借鉴构式语法和概念整合理论探讨了汉语新词新语的产生机制。孟凯在《汉语致使性动宾复合词的构式研究》中运用构式语法理论对汉语致使性动宾复合词进行了深入研究。

(7) 基于概念整合理论的研究。沈家煊(2006)基于概念整合理论提出了糅合和截搭的概念,用以解释汉语复合构式和复合词的构造机制。崔艳蕾(2019)运用概念整合理论探讨了致使性复合名词的组合规则。

上述研究反映了不同阶段汉语学界对复合词的探索。这些研究为我们进一步探讨这个问题提供了先行研究,揭示了汉语复合词内部的丰富内涵,是汉语复合词研究的进步。但是也有一些问题需要进一步探索。

(1) 概念整合理论的局限性:概念整合理论是认知语法研究的核心内容之一,对推动认知语法的研究起到了重要作用,而且,概念整合理论很适合汉语语法研究。不过我们认为,概念整合理论中的一些根本性的概念本身有待商榷。比如“概念”这一基本范畴,本是形式

逻辑学中的基本概念。概念,判断,推理是形式逻辑的基本范畴,有着严格的定义。把这一范畴应用于语言表达领域,一方面反映了概念整合理论的形式化语言学的追求,但另一方面也会给语言学和逻辑学的深入研究带来一些困惑。因为,词义并不等于概念,句子也并不能等同于命题,复句或句式群也不能简单的等同于推理。这就是说,词义大于概念,句意大于命题,复句意大于推理。因此从语言表达论出发,我们更倾向于使用意象或意念这种概念来表达词或句子所表达的含义。我们认为,意象组合就是意合,就是意象的强迫,压制,糅合和截搭。当然,汉语学界积极引进和借鉴西方语言理论是必要的,但同时我们也应面对汉语事实提出符合汉语的理论主张。我们认为,意合学说是汉语学的语义整合理论。

(2) 物性结构理论的局限性:简言之,物性结构理论是用来解释名物体的语义结构的形式化理论。包括:论元结构,事件结构,物性结构和词汇类型结构。而物性结构又包括构成特征(constitutive quale),形式特征(formal quale),功用特征(telic quale),施成特征(agentive quale)。近期理论又把名物概括为自然类,人造类和合成类。同时,物性结构理论还包含语义生成机制(generativemechanisms in semantics)。Pustejovsky(1995)提出了三种生成机制:类型强迫(type coercion),选择性约束(selective binding),协同组合(co-composition)。可以看出,运用物性结构理论探讨名物体的语义结构及其生成机制可能是有效的,但不能应用于动作,性状或事件。比如,像“漂亮”“温和”“热烈”之类的双音复合形容词的内在组合机制就不能用物性结构理论加以解释。而对于汉语复合词的内在机制,我们需要的是一种统一的理论模式和解释。也就是说,这种理论不仅能解说名物性复合词的内在机制,也应能解释动作,性质,状态和事件型的复合词的内在机制。

(3) 转喻隐喻理论的繁冗性。转喻隐喻理论揭示了一部分复合词的内在深层隐喻转喻的生成机制,但隐喻转喻理论也不能用统一的模式来解释各种各样的复合词,且有简单问题复杂化之嫌。比如,黄洁(2018)这样解释“球门”:

“球门”指足球、冰球等球类运动中在球场两端设置的架子,是射球的目标,建立“球”和“门”的语义关系以对“球”进行转喻识解和对“门”进行隐喻识解为基础。以“球”转指球类运动,涉及对象转指活动的概念隐喻。以“门”比喻球场上像门框的架子,涉及用一个具体事物比喻另一个具体事物的概念转喻,两个事物的相似性是外形。

显然,上述解释是对已然的结果的事后分析,并不能反映“球门”的在线生成过程或当下的认知机制。转喻隐喻理论揭示传统修辞学所描写的修辞现象中蕴含的深层思维机制,这为我们理解人类修辞活动中的思维机制提供了一个新的视角,加深了我们对语言活动中的隐喻和转喻的重要性的认识。不过,在语言活动中,并不是所有的言语行为都是在隐喻和转喻基础上形成的,更多的言语行为是在经验常识基础上形成的。比如,“大门”“后门”“门前”“门卫”等复合词,就是一种常识性的关联在语言结构中的自然体现,并不需要用转喻和隐喻来解释。而我们所需要的是,用一个统一的理论框架简单明快地解释各种复合词的在线生成机制。

1.2 关于汉语双音词产生的历时机制,董秀芳《词汇化—汉语双音词的衍化和发展》一书中认为有三种途径:“从短语降格而来;从由语法性成分参与形成的句法结构发展出来;从

本来不在同一句法层次上但在线性顺序上紧邻的两个成分所形成的跨层结构中脱胎出来。词汇化的发生要受到句法、语义和语用因素的制约。词汇化是一个连续渐进的过程，不同的形式可能具有不同的词汇化程度。”总的看来，董秀芳把双音词演进的过程看做是一种渐进的方式。我们姑且把这种看法叫做词汇化的渐变模式。对于这种渐变型模式沈国威在《汉语近代二字词研究—语言接触与汉语的近代演化》一书中提出了不同的意见。他基于近代日语汉字词在短期内产生了大量新词新语并给予汉语巨大影响的历史事实，指出了汉语双音词产生的突变现象，他认为这是渐变论所难以解释的问题。我们姑且把这种观点称之为词汇化的突变模式。董秀芳和沈国威基于不同的视角和语料，提出了汉语词汇化的渐变论和突变论，使我们能够更加全面深入地认识汉语词汇化机制。同时，我们认为，不论是渐变论还是突变论都没有在理论上说明汉语复合词产生的在线生成机制，也就是说没有解释构成双音复合词的两个语素之间的构造机制。

1.3 就双音复合词形成的理据而言，以下先行研究值得重视。

(1) 吕叔湘(1980, 2006:70-71)的“占据一点，控制一片”说。在《语文常谈》中，吕先生举例说：“比如‘布鞋’，这里不光有‘布’的意思、‘鞋’的意思，这是字本身的意义；还有‘是一种鞋而不是布’的意义，这是靠字序这种语法手段来表示的意义；还有‘用……做成的……’的意义，这是在概括的过程中被放弃了的那部分意义……语言表达意义，一部分是显示，一部分是暗示，有点儿像打仗，占据一点，控制一片。”

(2) 徐通锵的“控制两点，涵盖一片”说。在《汉语结构的基本原理—字本位和语言研究》一书中，他说：“字组的语义结构的特点基本上是‘控制两点，涵盖一片’，这‘涵盖’的一片需要说、听双方根据已有的知识去补充。比方说，‘探马’‘响马’‘驸马’之类的字组在斑马、川马、骏马……的字组系族中属于向心式的结构，但它们的语义却是转指式的，因为‘探马’‘响马’‘驸马’都不是‘马’，而是进行某种活动的‘人’。”

(3) 沈家煊“糅合截搭”说。沈家煊(2006)在讨论句法的糅合截搭时，也论及了复合词的糅合和截搭现象。他认为“墙脚”“炕头”是糅合造词，而“归侨”“外贸”是截搭构词。糅合是相似造词，截搭是相关造词。显然，这是概念整合理论在汉语复合词领域的应用。

(4) 王艾录(2014)的语义支点说。王艾录《汉语内部形式研究》一书对语义支点理论进行了深入的探讨，并认为，“语义支点的现象还大量表现在复合词层面”，比如，他认为如下简称都是语义支点词：

春节晚会→春晚

收集邮票→集邮

女子单打→女单

地下铁路→地铁

1.4 上述传统语言学的研究，以及基于各种西方语言理论的探索，部分地解释了汉语双音复合词的一些问题。但是很显然，如何用一种统一的理论简单而又合理地解释汉语双音复合词的内在理据是一个需要进一步探讨的问题。而要解决这一问题，就必须基于汉语的语言事实，提出适合于汉语的语言理论。

二 复合词的意合机制

2.1 双音词的类型

在讨论复合词的意合机制之前，有必要明确汉语双音词的类型。这主要包括：

外来语：坦克 沙发 可乐 的士 休克 ……（单纯双音）

连绵词：从容 匍匐 蜘蛛 骆驼 彷徨 ……（双声叠韵）

重叠词：悠悠 匆匆 历历 幽幽 大大 ……（半实+半实）

跨层词：然而 而立 与其 至于 用以 ……（关系+关系）

派生词：桌子 阿姨 作者 老师 外头 ……（虚+实）或（实+虚）

缩略语：人大 春晚 集邮 女单 北大 ……（实+实）

复合词：团结 国家 漂亮 点赞 截图 ……（实+实）

在这几种双音词中，外来语和连绵词是单纯双音词，双音字间无理据可言。重叠词双音字间有程度加深的关系。跨层词有间接的句法关系，但有些已不易判断。派生词的词根和词缀间有理据，一般来说词缀表达某种抽象的概括意义。缩略语也是一种复合词，而复合词的两个音节之间有理据关系，这是本文所探讨的对象。一般来说，英语那样的多音一义型语言多是派生构词，而像汉语这样的一音一义型语言又能产性的构词主要是复合构词。

从上述描写可以看出，除了连绵词和外来语这两种单纯语音构词外，其他类型构词都有理据可言。有实义和实义的组合，也有实义和虚义的组合；有关系间的组合，也有实体间的组合；有基本义的组合，也有附加义的组合。总之，汉语双音复合词都是意合的产物，所不同的只是组合的语义类型的不同。这正是我们试图以意合的理念统一探讨各类合成词的内在机制的重要原因。

2.2 复合词的意合机制

上述研究，使我们认识到汉语双音复合词的理据至少包括如下要素：

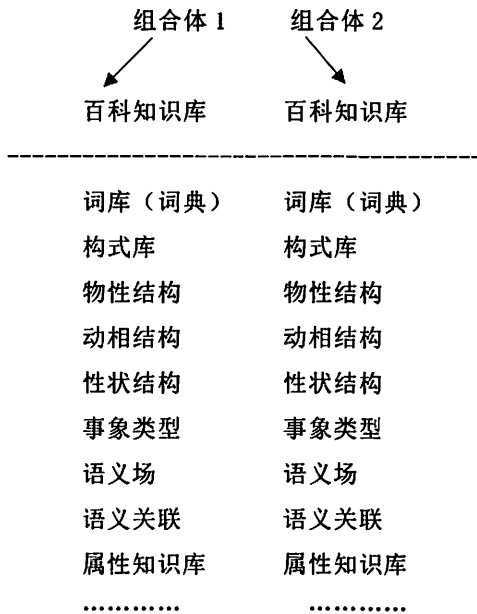
a 双音复合词是意象整合的产物。

b 双音复合词不仅仅是两个语义单位的加合关系，而是一个语义场景的显现。复合词的两个组成单位只是语义场景中突显的前景信息，其背后关涉语义场景的百科知识系统。

c 双音复合词的两个单位在语义上各司其职，有着丰富的语义内涵。

d 每一个单位都是一个 ID，即语义芯片。当然，每类语义芯片的构造是有所不同的。

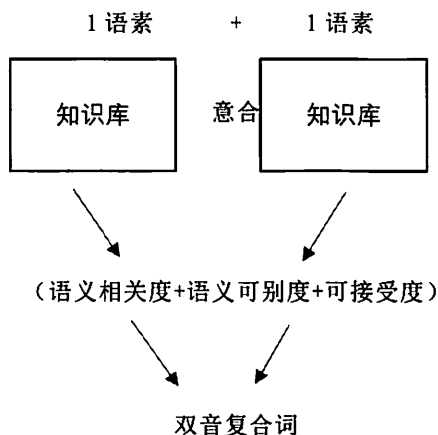
上述思想启发我们运用意合语法的理念建构汉语双音复合词的内在机制。为此，基于意合语法理念，我们提出如下意合底库模式，用以解释汉语各层级语言单位（包括双音节合成词）的意合机制。



组合体指一个复合型语言单位的构件，包括语素组合，词的组合，短语的组合以及句子间的组合。对于合成词来说，就是指两个语素的组合。百科知识库，即百科知识系统。包括词库，构式库，物性结构知识库，动相结构知识库，性状结构知识库，事象类型库，语义场知识库，语义关联知识库，属性知识库，等等。其中词库就是词典；构式库主要指各种句式的总和；物性结构指对名物的语义描写。动相结构指对动作的各种状态的语义描写（即时体特征）。性状结构指对各种性质和状态的描写。语义关联则是指对各种语义关联的描写。语义场知识库指词义的聚合性和组合性的语义网络。属性知识库则是指对一个词的常识性知识的描写。我们认为，以上意合底库可以使我们用统一的框架描写和刻画不同层次的语言单位间的组合规则。

2.4 双音词意合微观模式：1+1=1 模式

汉语双音合成词是典型的 1+1 的意合结晶。1+1 的含义就是两个音义体之间的加合关系。两个音义体之间只要有某种被该言语社团认可的语义关联的话，就可以合二为一，意合成词。



一般说来，复合词是两个语素间的语义属性的组合。从上图可以看出，由两个语素形成合词成时要经过一个意合过程。这个意合过程包括：语义相关度，语义可别度和语义可接受度的甄别和接洽。

语义相关度是指复合词的两个成分在人类常识知识系统中的关联程度。人类的常识知识是以一个潜在的、系统化了的形式存在的。在这个系统中，语义范畴或语义属性有层次之别，也有类别之分。一般来说，在同一个层次内的，或同一类别内的语义范畴或语义属性关联度高的，进行组合的可能性就大；关联度低的，进行组合的可能性就小。比如，有“飞机”“飞鸟”“飞人”的组合，却没有“飞水”“飞土”“飞饭”的组合。这是因为在常识只是中“机”“鸟”“人”可“飞”，而“水”“土”不能“飞”。当然可以有“飞沙”“飞沫”之说，这也是由于在我们的常识认知中认定某种动力使之然的结果。

语义可别度是指两个成分在语义场景中的指称度。一般来说一个复合词背后有一个语义场景，可别度要求成词成分能最大限度地涵盖和代表场景信息。比如“谢幕”表达的是演出结束后，表演者对观众表达感谢时的场景。在这个场景中会涉及很多因素：演出很精彩，观众很兴奋，掌声阵阵，大幕降下又升起，喝彩声此起彼伏，等等。这一切都是“谢幕”所表达的完型场景。但是只有“谢”和“幕”这两个语义支点的结合体最能简明地在双音节的结构中表达上述场景的丰富内涵。

语义可接受度是指两成分的组合要符合语言系统表达习惯和规约。比如在新冠肺炎肆虐情况下，日语中出现了“默食”“默浴”的新词语，虽然是汉字词语，但对不懂日语的人很费解。而在日语的汉字词语系统中却是很自然的组合，意为“默默地就餐”“默默地入浴”，即“请就餐时不要大声说话”，“请入浴时不要大声喧哗”。本来日语的汉语词中有“默哀”“默悼”“默认”“默读”等词语，是一种有意为之的沉默行为，但在在新冠肺炎肆虐这种特殊情况下，由“默一”词语槽产生了上述新词。这在日语的汉字词系统中是可接受的。但这种新词在汉语的系统中却是难以出现、难以接受的词语。这说明语义可接受度是说复合词的两成分的组合要符合该语言的表达习惯和该语言的结构制约。

2.4 语义链

语义链是百科知识系统在语言上所形成的语义链条。一个语义链由若干个语义节点和语义关系构成。比如：

动作链：施事-动作-对象；工具-动作-对象；场所-动作-对象；方式-动作-对象……

属性链：属性-事物；质料-事物……

事件链：原因-结果；前提-结论……

在百科全书知识系统中语义链是以离散状态存在于语言社团的集体意识中的。而当语言表达一个具体事象时，这种离散的语义链条、或曰知识链条（常识链条）就会呈现出一种有序的完型结构。在语言形式上就表现为一个语言构式，一个语言格式，或一个合成词形式。

汉语复合词表达的是一个语义场景。这个语义场景是由若干百科知识的范畴，事件和关系形成的。语言表达是以线性方式表达多维语义场景的。因此在语言表达中，语义场景就会以语义链的形式呈现出来。同时，语言结构也不可能反映出语义场景的全部信息，语言结构

只提供理解语义场景的必要信息。对于双音复合词来说，就只能以两个字单位涵盖这个语义场景。这样，在复合词成词过程中，截取语义场景中的哪一部分用以形成复合词就是一个十分重要的问题。当然这就涉及两个单位间的语义相关度，语义可别度和语义可接受度。

一般说来，语义场景所具有的百科知识系统中的常识关系决定着复合词语义相关度的不同类型。这种类型大体可分：

(1) 直接型语义链接：指在常识结构中直接关联的语义节点的链接。如：工人，凡人，超人。“工”“凡”“超”是“人”在不同语义层面上的直接属性，两个语义节点在知识结构中是直接相关的。或者说“工”“凡”“超”是“人”的下位分类。

(2) 间接型语义链接：指在常识结构中间接相关的语义节点的链接。如：网购，光控。在常识结构中，“网”和“购”不直接相关，而是在“在网上购物”（方式+动作行为）这样的语义结构中实现的。

(3) 多层型语义链接：指同一语义场景内的不同层次，不同事件间的语义节点间的链接，如：谢幕，养病，躺枪。这类组合的两个语义节点不在同一个事件结构中，而是一个语义场景中代表不同事件的语义节点间的组合。“谢幕”中的“谢”和“幕没有直接的语义关联，而是“感谢观众”和“落下帷幕”这两个事件中具有突显意义的成分的组合。

(4) 隐喻转喻链接：指通过隐喻或转喻而形成的组合。如：下海，充电，拉黑，山寨，内卷，躺平等。这种组合所表达的意义并不是字面意义，而是通过转喻或隐喻所形成的意义。“下海”比喻“经商”，“充电”比喻“养精蓄锐”。

(5) 跨界关系链接：指双音组合的两个语义节点代表着不同界面的事件间的语义关联。如：因此，然而，对于，关于等。“因此”中的“因”和“此”是不同界面的语义节点，反映着不同界面间的语义关联。

2.5 意合流程

意合流程是说一个词语产生过程。这主要包括如下步骤。

(1) 需求驱动：这是词语产生的源动力。主要包括：

a 文化的交涉。如：历史上的佛教传入和翻译以及日制汉语词的传入。（突变）

b 现实生活的需要，新事物的产生，表达的精细化。比如：点赞 截频 截图（渐变）

(2) 目标锁定：指锁定需要表达的词语范畴，如：事件，名物，动作，性状，关联等。

(3) 特征扫描：指选择表达对象的具有区别性特征的语义节点。

(4) 对接定做：指通过语义相关度，语义可别度，可接受度选定语言材料。

(5) 框架激活：指利用语言材料表达锁定目标。如利用语族框架槽，形成如下词语：

a 用“……领”槽构成“白领 蓝领 红领 黑领 金领 粉领”。

b 日语的“……活”槽构成“就活 恋活 部活 终活”。

c 日语的“默……”槽构成“默哀 默悼 默食 默浴”

2.6 “对内相关，对外相别”原则

我们认为，双音复合词的生成要遵守“对内相关，对外相别”原则。所谓“对内相关”是说构成复合词的两个语言单位在意义上要有语义相关性。比如定中结构，动宾结构的两个

单位要有论元结构的关联，动补结构应有动相结构的关联，并列性形容词间应有属性间的关联。所谓“对外相别”是说构成复合词的两个语言单位间应有与同类词语相别的成分，也就是说应有起“区别性特征”的成分，以使其不跟同类词语相混淆。

另一方面，一个复合词整体上表达的是一个完型场景中具有统领作用的两个语义支点的组合。所谓完型场景就是在百科知识系统中被认可的一个事件或一个事物及其相关的常识性的知识系统。比如“谢幕”表达的是演出结束后，表演者对观众表达感谢时的场景。在这个场景中会涉及很多因素，比如演出很精彩，观众很兴奋，掌声阵阵，大幕降下又升起，喝彩声此起彼伏，等等。这一切都是“谢幕”所表达的完型场景。但是只有“谢”和“幕”这两个语义支点的结合体最能简明地在双音节的结构中表达上述场景的丰富内涵。

三 意合机制和字场理论

汉语双音复合词 $1+1=1$ （语义节点+语义节点=复合词）是汉语语法的最初层级。在这一层级，字场是语义节点间的意合过程发生的载体。所谓字场，就是指一个汉字在形成复合词的过程中，正序和逆序的搭配组合。这里以“谢幕”为例说明。

“谢”和“幕”的正序和逆序的词场如下：

谢：正序：谢病 谢步 谢忱 谢词 谢辞 谢顶 谢恩 谢过 谢绝 谢客 谢幕 谢票 谢却
谢世 谢帖 谢孝 谢谢 谢意 谢罪

逆序：拜谢 称谢 酬谢 辞谢 答谢 代谢 道谢 凋谢 感谢 面谢 鸣谢 秃谢 婉谢 萎谢 致谢

幕：正序：幕宾 幕布 幕府 幕后 幕僚 幕墙 幕友

逆序：报幕 闭幕 揭幕 黑幕 开幕 内幕 屏幕 天幕 帷幕 谢幕 序幕 夜幕 银幕

以上词族是《现代汉语词典》所收的关于“谢”和“幕”的双音复合词群。我们可以把正序词群称之为该字的前场，而把逆序此群称之为后场。前场和后场构成了该字的字场。在《现代汉语词典》和《现代汉语逆序词典》中，这种字场是以音序排列的，因此难以看出字场内的语义关联。为此，有必要根据语义关联对离散的单位加以整理。这里，我们以“热情”为例，根据语义间的关联整理如下：

对于“热”的义项，《现代汉语词典》归纳如下：(1)热(2)温度高(3)使热(4)发烧(5)情意深(6)急切(7)有人气(8)气氛浓(9)一热(10)放射性强(11)姓。我们根据语料重新对其义项整理，并根据义项对词群分类如下：

a 精神：热爱 热忱 热诚 热恋 热络 热情 热望 热心 热衷
亲热

b 程度：热爆 热场 热潮 热火 热和 热辣 热烈 热闹 热切 热土 热吻 热舞 热孝
白热 炽热 火热 酷热 狂热 炎热 灼热

c 频度：热播 热炒 热传 热词 热买 热卖 热拍 热捧 热购 热钱 热线 热销 热议 热映

d 物理：热层 热炒 热带 热度 热风 热敷 热管 热乎 热机 热浪 热泪 热力 热量 热流
热能 热气 热容 热身 热天 热学 热血 热饮 热源 热战 热障

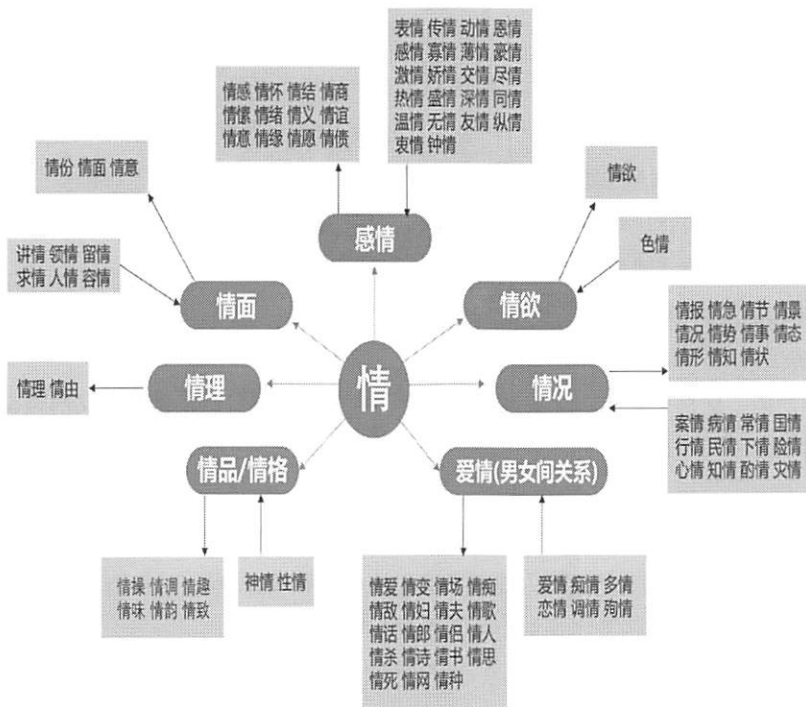
地热 发热 寒热 冷热 闷热 溽热 暑热

e 人气：热货 热门 热点

f 其他：热狗 热函 热键

通过以上以语义关连为标准的分类，原来离散的词群内的语义网络得以明确。同时，这种语义网络也可图示为（“情”的双音复合词的语义网络）：

“情”的义项：（1）感情（2）情面（3）爱情（4）情欲（5）情况（6）情理（7）情品



我们认为，这种语义网络是存在于汉语言语社团内的集体智能结构中的。这种语义网络既是汉语的知识结构的具体表征，也是汉语双音复合词形成的根本所在。

四 余论

以下问题值得进一步讨论：

（1）语素词性问题。汉语是否存在形态化了的词类？如果不存在，那么如何看待对语素的形态化的分类？陈昌勇，端木三（2016）在《双音节复合词内部语素的词性标注和统计分析》的研究中，对 32092 个双音复合词按内部构成语素的词性进行了统计和分析。姑且不论其研究结论如何，仅就其研究前提而论就是可以商榷的。语素是否可以用词性范畴来描写，这本来就是有争议的。因为汉语词本身是没有形态标记的。一般人所说的词类，也是一种功能类或者语义类。而沈家煊先生的“名动包含”说实际上是否定汉语有形态类。“名动包含”就是指称和陈述的关系。

（2）在新词语形成的过程中，词语的词性，结构关系和语义关系起着什么样的作用？具有

怎样的关系？苏宝荣 2017 认为“汉语的句子的构造原则跟词组的构造原则基本一致”，“复合词的结构和句法结构式平行的”的观点一是具有片面性，有以偏概全的倾向，二是表面化，缺乏对深层语义结构的关注。这种看法对于推进复合词内部形式的研究是有积极意义的，但也有失偏颇。因为复合词内部的结构关系，语义关系以及整体功能都是理解复合词的组成部分。从复合词生成的意合流程看，这几种因素具有如下关系：

整体功能→结构关系→语义关系

这里的整体关系指事件，名物，动作，性状和关系。结构关系指主谓，偏正，联合，动补，动宾关系。而语义关系指诸如皮鞋（材料-名物），火灾（原因-事象）这样的常识性语义关系。这就是说，双音复合新词产生流程是：

- （1） 确认整体功能：是名物，动作，性状，事件或关系的哪一类？
- （2） 根据整体功能调整句法关系
- （3） 根据句法关系确认语义类别
- （4） 最后形成新词语

因此，整体功能，结构关系和语义关系都是复合词意合的必要过程，都是广义的语义范畴，只是抽象的程度不同而已。

参考文献

- 陈昌勇 端木三 2016 双音节复合词内部语素的词性标注和统计分析，《汉语学习》。
- 董秀芳 2011 《词汇化—汉语双音词的衍化和发展》，商务印书馆。
- 董志翘 2020 汉文佛典中虚词复音化现象—以介词复音化为例，汉语史研究集刊，第 28 辑。
- 黄 洁 2018 《汉语名名复合词语义认知研究》，复旦大学出版社。
- 亢世勇 刘海润 2009 《现代汉语新词语词典》，上海辞书出版社。
- 吕叔湘 1963 现代汉语单双音节问题初探，《中国语文》第 1 期。
- 1980 《语文常谈》，北京：三联书店。
- 1984 《语文杂记》，上海：上海教育出版社。
- 刘玉梅 2015 《现代汉语新词语构造机理研究》，中国社会科学出版社。
- 陆志韦 1957 《汉语构词法》，科学出版社。
- 李如龙 2009 论汉语的单音词，《语文研究》第 2 期。
- 梁晓红 1994 《佛教词语的构造与汉语词汇的发展》，北京语言学院出版社。
- 孟 凯 2016 《汉语致使性动宾复合词构式研究》，北京语言大学出版社。
- 孙常叙 1956 《汉语词汇》，吉林人名出版社。
- 苏宝荣 2017 汉语复合词结构与句法结构关系的再认识，《语文研究》第 1 期。
- 宋作艳 黄居仁 2018 《生成词库理论与汉语研究》，商务印书馆。
- 沈国威 2019 《汉语近代二字词研究—语言接触与汉语的近代演化》，华东师范大学出版社。

施春宏 2017 汉语词法和句法的结构异同及相关词法化、词汇化问题,《世界汉语教学》第 2 期。

苏定芳 黄洁 2008 汉语反义复合词构词理据和语义变化的认知分析,外语教学与研究。

王艾录 2014 《汉语内部形式研究》, 电子工业出版社。

吴琳 2018 《动补式复合词的词法理论与应用研究》, 上海交通大学出版社。

徐通锵 2005 《汉语结构的基本原理—字本位和语言研究》, 中国青岛海洋大学出版社。

徐朝红 2017 《汉语连词语义演变研究》, 湖南师范大学出版社。

尹会霞 2019 认知和类型视角下汉语复合形容词的强势词法模式分析,《语言教学和研究》第 5 期。

杨吉春 2007 《汉语反义复词研究》, 中华书局。

赵青青 宋作艳 2017 现代汉语隐喻式双音节名复合词研究—基于生成词库理论,《中文信息学报》第 31 卷第 2 期。

朱彦 2004 《汉语复合词语义构词法研究》, 北京大学出版社。

张成进 2020 《汉语汉语双音介词的词汇化与语法化研究》, 南京大学出版社。

张金竹 2015 《现代汉语反义复合词式的语义和认知研究》, 世界图书出版社。

张黎 1987 谈谈“意合法” — 兼论汉语语法特点,《北方论丛》第 2 期。

张黎 2017 《汉语意合语法学导论-汉语型语法范式的理论建构》, 北京语言大学出版社。

語彙研究の方向性

岩本真理

目次

- 0 はじめに
- 1 岩本1989b「『南山俗語考』の語彙的特徴」の問題点
- 2 竹越孝・斉燦・余雅婷・陳曉2021
- 3 語彙研究とは
- 4 『岩波中国語辞典』の「意味による索引」
- 5 太田辰夫1963『『兒女英雄伝』語彙調査』
- 6 具体的検討—動詞“拿”を例にとって
- 7 今後に向けて
- 注
- 参考文献

0 はじめに

本稿は、拙稿1989bの問題点を指摘し、語彙研究における陥穽を明確にして、今後の研究への一つの視座を提供することを目的とする。

1 岩本1989b「『南山俗語考』の語彙的特徴」の問題点

拙稿1989bは、薩摩藩第25代藩主、島津重豪の命により編纂された『南山俗語考』（文化9年1812年）の収録語彙を対象とした初歩的な分析である。この直前に発表した拙稿1989aでは、稿本から刊本への変更箇所、とりわけ語彙の配列位置の変更と語彙の差し替えに多くの記述をおこない、語彙についての言及は、貿易実務ならではの交易品等に限定していた。

その後に発表した拙稿1989bは、語彙的特徴の解明を企図しながらも、その記述は、以下のように、文法的特徴と一部方言語彙との一致・不一致という記述に終始する。

- ①太田1965にある北京語の文法上の指標に基づき、北京語との距離感が明らかになる
- ②授与動詞“把”のふるまい
- ③否定詞“不曾”が優勢 “未” “未有” “没有”の少数例への言及
- ④方向補語“落来” “落去”が優勢で、“下来”はごく少数

⑤結果補語“掉”、“脱”の存在

⑥有+動詞 閩南語的要素の混入か

⑦親族名称 概ね南方的だが一部、該当地域が検出できないものが含まれる

⑧その他 個別語彙には、呉語と重なるものが相当数みられる

以上は、佐藤 1973、佐藤 1979、日下 1974 などによりつつ、南北差に着目した論点ではある。大半を文法的なふるまいが濃厚な語彙を抽出して得た結論である。数年後に発表した拙稿、岩本 1993 は、『南山俗語考』の唐音カナ表記の状況に依拠して、稿本から刊本に至る過程で、音系を「南京音」から「浙江音」へと変更したと断ずる。音韻においては、中古音の体系にあてはめ、配列しなおした上での考究ができ、個別の現象を体系の中に位置づけて判断を下すという方法が確立している。しかしながら、語彙の研究の場合は、一部の語を取り上げ、それを資料の特性を判別するためのいわばトマス試験紙のようにあつかうことがある。一部語彙の抽出で当該資料の「語彙的特徴」を論じることは断じて避けるべきであろう。拙稿 1989b は『南山俗語考』の所収語彙全般を理解したうえでの論述とはなっておらず、さらには同時代資料、近似するとみなしうる資料との対照もなされず、極めて不十分な内容と言わざるを得ない(注1)。

2 竹越孝・斉燦・余雅婷・陳曉 2021

現在の議論を異なる資料によって前に進めたい。2021年に刊行された『満漢合璧版『古新聖經』の研究』をとりあげる。同書は著者4名の共同研究の成果が出版されたもので大いに刺激を受けた。テキスト編と論考編からなり、「満州語語彙索引」は竹越氏により全語彙を網羅して作成された労作である。一方、「漢語語彙索引」は、人名・地名と一般語彙とに分けている。本稿の筆者が注目したいのは、一般語彙索引の編纂方針である。「虚詞および口語を中心に収める」方針によっており、収録語彙は、虚詞に重点がおかれ、実詞については、口語すべてが網羅されているわけではない。また文語を排除することで、資料中の語彙の体系だった特徴を見極めることが難しくなっている。「漢語語彙索引」は何のためにあるのだろうか。

ついでながら、同書の論考編所収の陳曉 2021「『満漢合璧版『古新聖經』の漢語語彙の様相」についても、言及しておこう。人名・地名、創造主の訳語というバイブルならではの語句を先に扱い、その後一般語彙を分析する。まず、太田 1969の北京語の七指標により、文法面からの分析を加えた後に、代名詞・名詞、動詞・助動詞、形容詞、介詞、副詞、文末助詞にわけ、数語ずつが用例とともに挙げられる。例えば、“使得”の項は、満漢合璧資料に常用される語とし『清文啓蒙』『清文指要』の用例と対照させる。その一方で、定型表現としての“定不得”(ひょっとしたら…かもしれない)は、『兒女英雄伝』『紅樓夢』の例とともに挙げており、他の満漢合璧資料での出現については言及がない。このように扱う語ごとに、対照させる資料が異なる場合が多く、性格の近似する資料内の語彙全般との比較がなされたのかは本文からは見出しがたい。もちろん、限られた時間内で、論考にまとめられた功績は大きいのだが、もどかしさが拭えないのである。

なお、同論文は文末助詞“麼”が多く用いられ“嗎”が出現しないことを根拠として、18世紀末か

ら19世紀前半の状況の反映であると述べる。この結論に至る議論はおく。語彙の調査が、資料の成立時期を確定するための一つの基準となりうるのは理解できるが、主に時期の判定のために用いられ、それで事足りるとする傾向に本稿筆者は強い不満を感じる。例えば、当該資料の“A”という語は、同時代の他資料においては、その同義語“B”が多数用いられるという現象があるならばその指摘や、或いは、より砕けた言い回しの“C”が当該資料のどの部分では多用される、あるいは同時期の資料では常用される、などの言及が必要であると筆者は考えるのである。また“A”という語をめぐる意義の広がりや、同義語・類義語の輪への論及、あるいはフォーマルな表現か、砕けた表現かという位相にまで視野を広げ資料内の語彙のありようを解明してこそ、語彙の諸相を示したといえるのではないかと。

3 語彙研究とは

本節では、田島統堂2004《比較語彙論—構想と目的の概要—》によって、語彙研究が遅れた点をまず振り返っておきたい。

…そもそも語彙論は、言語学の他の分野に比べて、文字通りの語彙が研究の対象にされることが長らく放置されてきたという極めて特異な偏頗な発達をしてきています。その単位であるところの個々の語の研究は早くから進んでいました。人々が言葉について関心をもったとき最初に個々の語の意味用法が関心の的であったろうと思います。

…語彙全体、文字どおり語の集合としての語彙は、人々の関心を引きませんでした。

…意味分野別構造分析法…何らかの基準によって分割された意味分野にコードを与え、語彙を構成する個々の語をその属する意味分野に配当し、そのコードを与えた後、コード毎、あるいは、いくつかのコードにまとめて集計し、いかなる分野にどれだけの語があるか、つまり、意味分野別の語彙構造を観察する分析法であります。さらに、その実際の手順を含めていけば、そのコード付けには国立国語研究所編『分類語彙表』（1964）を基準にしています。

個別の語の研究ではなく、体系性をもった集合体としての語彙は、長らく着手されることなく放置されてきた分野である。しかし意味分野ごとに配置しなおして、体系性の中で、構造としての語彙を探求する方法があるとの主張がここにはある。

では、日本語学において実践された成果を紹介しよう。『分類語彙表』の体系に即して編まれた宮島達夫1971年『古典対照語彙表』があり、さらに改訂増補された宮島達夫・鈴木泰・石井久雄・安部清哉2014『日本古典対照分類語彙表』が出版されている。「万葉集」、「竹取物語」など17作品を取り上げ、すでに出版されていた個別作品の索引から、同一の枠としての『分類語彙表』の体系に語彙を位置づけしなおしたものであって、意味分野ごとの比較、作品間の比較も可能となっている。ただし、『分類語彙表』の意味分類自体に問題のある箇所もあり、とりわけ現代の価値基準とは大きく乖離する箇所や、そもそも解釈が確立していない語は未詳として扱わざるを得ないなどの限界はある。

4 『岩波中国語辞典』の「意味による索引」

本節では中国語学における語彙研究の先駆的業績として《岩波中国語辞典》を挙げておきたい（注2）

まず、この辞書の特徴を数点にまとめておく。

①親字方式をとらず、ピンイン表記による配列を採用。

形音義のうち、音を最優先し、耳で聞いてわかることばを収録という方針を徹底させている。

②品詞の明示。

③語の固さ、柔らかさの表示をおこない、11 ランクに区分。

④意味による索引：意味による索引は、類書（義により配列した語彙の集成）に転用しうる。

このように旧来の字典、辞典の編纂方針にとらわれない革新的な辞書である。

③は以下のような区分により、位相の差を示している。編纂当時のネイティブスピーカーの判断が反映されている。

上の5	古典のなかのことばが、たまたま耳で聞くことばの中に引用されて現れるもの ⁵
上の4	古典のなかのことばではあるが、耳で聞くことばの中にも混用されているもの
上の3	学術その他の専門のことばで、一般には広く使用されていないもの
上の2	文学作品などに現われることば
上の1	ラジオ・テレビ・講演などで現れることば
0	きわめて普通なことば 注記では普通話とする
下の1	ややくだけた言いかた（いわゆる北京語）
下の2	北京の下町ことば、スラングなど 注記では北京土話とする
下の3	特殊な社会で使用される仲間ことば、隠語など
下の4	他人に対する悪口のことば
下の5	北京以外の方言から流入して、いちおう北京でおこなわれていることば

ここで特に紹介したいのは、巻末の「意味による索引」である。辞書本文内の語彙を意味によって分類排列している。意味による配列という方式は先述した日本語の「分類語彙表」と同じである。大見出し、中見出し、小見出しという三段階からなり、小見出しには、同義語が併置されるという構図である。

【大見出し】 指示詞 数詞 量詞 名詞 動詞 形容詞 副詞 介詞 助詞 接続詞 間投詞
擬音語擬態語

【中見出し】 例) 大見出し「動詞」の中における、中見出し：目に関する動作 耳に関する動作 鼻に関する動作 口に関する動作 首から上について 主として手による動作、主として動詞による動作 身体全体の動作 …… 交際・儀礼について、政治について、……

【小見出し】例 中見出し「主として手による動作」の中における、小見出し：指さす、指をおる、指ではかる、はじく、そろばんをはじく、指でおす、ベルをおす、指のはらですりつぶす、かく…

例えば 小見出し「かく」には、挠 抓 抓破 抓坏 抓乱 抓痒痒儿 搔痒 咯吱などがあがる。
この同義語群を③の基準で配置しなおすと、以下のようになる。

上の4	搔痒
0	挠 (ひっかく) 抓 抓破 (ひっかいて傷つける) 抓坏 抓乱
下の1	挠 (かゆいところをかく) 抓破 (相手の顔をつぶす) 咯吱

意味という基準に即して配列したゆえに、複数の同義語の存在が明らかとなり、さらに辞書本文内にもどって語のランクづけを参照することで、同義語グループ内での様相が明らかになる。誠に興味深いことに、“挠”、“抓破”は、「0」と「下の1」のそれぞれに収まる。意味の広がり、あるいは特定の目的語との結束に固定化し意味が縮小した場合は、より北京語色の強い「下の1」になるという現象が観察できる。巻末の意味による索引と、辞書本体部分の両者をつきあわせることで、所収語彙というこの語彙世界の構造的な把握が、かなり可能となっているのである。

5 太田辰夫 1963 『『兒女英雄伝』語彙調査』

本節では、太田 1963 『『兒女英雄伝』語彙調査』を先駆的業績として紹介する。『兒女英雄伝』にみられる語彙を、『方言詞彙調査手冊』（1955）の枠組み、すなわち、17 部門 見出し語 329 語により、分類している。その一例を以下に示す。

17-21 放 (如放在桌子上) (4.24) 一搁 (5.25) 摆 (7.9)

17-22 休息 一歇 (4.6) | 歇息 (13.20) 歇乏 (14.12) 歇着 (14.25)

- ・冒頭の数字は分類項目である。
- ・各項の冒頭語放 (如放在桌子上)、休息は、『方言詞彙調査手冊』の見出し語で、この同義語が“一”のあとに並ぶ。
- ・出現頻度にはこだわらず、一度でも出現した語が、採取される。また資料中最初の箇所だけが、()内の数字で示される。『兒女英雄伝』中の回と行を示す。
- ・“|”の右側の語は、『方言詞彙調査手冊』原文にはなく、『兒女英雄伝』で出現した語である。

整理しなおした次の表で再度確認しておきたい。

『方言詞彙調査手冊』見出し語	『兒女英雄伝』
放（「机の上に物をおく」）の意味）	放 搁 摆
休息	歇 歇息 歇乏 歇着

『方言詞彙調査手冊』の見出し語“放” “休息”は、『方言詞彙調査手冊』編纂時点での標準的な語との認識がある。『兒女英雄伝』では、“放”以外に、同義語“搁” “摆”が使用されていることがわかる。これらの出現頻度や、使用状況、同義語とはいえ、意味の違いによる使い分けについては、全用例から再度確認する必要がある。一方、見出し語“休息”の項では、『兒女英雄伝』中“休息”の出現はなく、“歇” “歇息” “歇乏” “歇着” のバリエーションが認められる。これらの位相の差や、出現状況についてはやはり全用例を調べ直してこそ結論をえることが可能となる。

ここで『岩波中国語辞典』のランク付けを加えて、再度検討する。

『方言詞彙調査手冊』見出し語	『兒女英雄伝』中の語
“放” 0	“放” 0 “搁” 下の1 “摆” 0
“休息” 上の1	“歇” 下の1 “歇息” 上の1 “歇乏”は『岩波中国語辞典』に収録がない。

『岩波中国語辞典』の編纂時点と『兒女英雄伝』の成立時点の時間の開きがあり、『岩波中国語辞典』位相の差を『兒女英雄伝』にそのまま適合させることはふさわしくなく、また目的でもない。むしろ『兒女英雄伝』から『岩波中国語辞典』に至る推移のなかで、当該意味項目のなかで、どの語が淘汰されたのか、あるいは、意味・用法の棲み分けが進んだ結果、どの語が代表語としての地位を得るまで意義・用法が定着したのか、などの疑問を解明する糸口となるのではないだろうか。

以上の点から『方言詞彙調査手冊』にみられる意味分類の枠にいったん、語彙を振り分けただうえで、複数の資料を対照させる方式をとることが、語彙の消長や、層をもった語彙の実態を明らかにするうえで、有効であると主張したい（注3）。

しかし、『方言詞彙調査手冊』自体のもつ限界ももちろん考慮すべきであろう。以下数点にわたって課題とすべき事項を検討していく。

・基礎語彙、基本語を対象とした調査に依拠するゆえに、意味分類の枠から漏れ落ちる語が大量にある。文学言語の場合、とりわけその傾向が強くなる恐れがある。仮に『方言詞彙調査手冊』の後継となる方言調査語彙表によるとするならば、より細かな意味区分になっているとはいえ、基礎語彙・生活に密着した語彙重視の方針には変わりはなく、当該資料の語彙のごく一部しか掬い取れない嫌いがある。

・同一の意味分類枠内にあると判断する「同義語」の選別が恣意的になりがちである。線引きの困難な場合にしばしば齟齬し、作業は迅速には進めたい。

・多義語の場合には、一語であっても、複数の意味分類枠に配置するよう配慮が必要である。この確定をおこなうためにも、何より、当該用例の正確な意味解釈が作業遂行の大前提となる。

・文学言語を対象とする場合、地の文か会話文か、という区別や、会話内とすれば、公的なやり取りの場面か、砕けた場面か、という差異への配慮、さらには登場人物の出身地域や、教育レベルといった特徴をふくめて、多面的な分析を加えていく必要がある。

・成書過程が複雑な場合、特定の章回に他と異なる特徴が見られる可能性がある。調査対象とするテキストの選定にも慎重さが必要となる。

以上の諸点から、意味分類を基準とした枠を設定したうえで、複数の資料の語彙を分析する手法により語彙の実態解明への期待を述べ、ならびにその困難さ、および克服すべき課題について確認してきた。

回り道のように思える分析方法ではあるが、発音順配列の索引では見落とされる特徴、すなわち語彙の階層性や同義語との棲み分けなどにも目を向けるために、必要な手法であると考ええる。

昨今はテキストの文字検索機能により、瞬時にして字の有無はわかるようになった。誠に便利ではあるが、字ではなく語としての認定は読み手に委ねられ、多義語の場合、どの意味であるのかといった判断は、読み手が十分に読みこんだ上での正確な解釈なしには、成り立たない。長年にわたって当該資料とつきあってこそ、ようやく出発地点に立てるのではないだろうか。『醒世姻縁伝』の研究を続けておられる植田均氏は、『东北方言概念・词典』の意味分類枠に即し、『醒世姻縁伝』の語彙調査に着手しておられる(注4)。

すでに研究を進めておられる先人に追いつくべく、筆者もわずかな歩みであっても前に進めたいと考えている。

6 具体的検討—動詞“拿”を例にとって

本節では動詞、“拿”を例にして、いくつかの研究成果を振り返っておきたい。『岩波中国語辞典』汪维辉 2018、相原茂 2017 の三者を順に紹介する。

6-1 『岩波中国語辞典』

親字方式によらないため、補語付きの語もそれぞれが独立した扱いで、異なる箇所に掲載される。同じ見出し語で、複数の意義がある場合、意義項目ごとにランクが付される。以下の表は、ランク付けに応じて配列しなおしたものである。

ランク	傘	傘+～
上の1		“傘権” 権力をにぎる “傘定” どこまでも堅持する
0	手に持つ、手に取る ／持っていく、運ぶ ／手に入れる、にぎる、と る、もらう	“傘住” 手でしっかりとにぎる “傘不定” しっかりときめられない：～主意
下の1	つかまえる、とりおさえる ／さしだす、くれる、納める	“傘住” つかまえる：黒旋风～了 “傘得住” (人間を) 自由にあつかえる (家計を) 掌握する “傘不着” (つかもうとしても) うまくつかまらない い “傘不住” もったままでいられない、つかまえてい られない 这块冰, 我～ “傘不住” 自由にあつかえない、掌握できていない
下の2	たかる、ゆする、しぼる/ (態度を) とる、(権限を) にぎる、(心を) つかむ ／人の弱みにつけこむ、足元 を見る、弱点をつかむ、もっ たいをつける ／ちょうどよい時機をみはか らう	“傘得住” (たしかなものを) つかんでいる、おさ えがきく：他～劲儿, 走得慢了 “傘不住” (抽象的にいって) 持っていられない： ～钱 (宵越しの金をもてない) ～人, 当不了头目 (人におさえがきかないようじゃ、親分になれな い)

表への注記：介詞“傘”と、2音節動詞“傘捏”などはこの表では対象外とする。

補語付きの語には“傘不起”“傘不了”などもあるが、この表では煩瑣になるゆえ除外している。

さて、この表により、最も基本的な位置づけである「0」ランクから、「上の1」ランクでのやや硬くフォーマルな使用場面が想定される語、さらに「下の1」、「下の2」ランクにある、より生活場面に密着した語までを一堂に会して比較することが可能となっている。注意を引くのは、「下」のランクであるからといって「下卑た表現」というわけではなく、むしろ抽象度の高い語も含まれている点である。「傘不住钱」「傘不住人」のような例は、具体的な事物を現実の手の中に収めている姿を描写してはいない。こういった例における抽象的な語義に言及があることは、本辞典を再読したゆえの、新たな発見でもあった。「上」のランクに現われる古典語、文言語彙にみられる硬さとは異なる側面から、

日常語の中における抽象的意義についてもないがしろにはしていない 編纂態度に改めて敬意を覚える次第である。

6-2 汪维辉 2018 『汉语核心词的历史与现状研究』

多くの研究成果をあげておられる汪氏の著作の中から、古今の対照を行っている部分を以下に引いておきたい。ここでは、“拿”を取り上げる。

古今词义对照表

現代	古代
拿	拿 (拏)
①动词。用手或其他方式抓住(东西)。	①用手取：握在手里
②动词。用强力取：捉。	②用强力取：擒捉；捕捉
③动词。掌握。	③把握：掌握
④动词。刁难：要挟。	④制服：刁难
⑤动词。装出：故意做出。	⑤矜持：装模作样
⑥动词。领取：得到。	
⑦动词。强烈的作用使物体发生变化。	
⑧介词。引进所凭借的工具、材料、方法等。意思跟“用”相同。	⑥介词。引进所凭借的工具、材料、方法。相当于“用”。
⑨介词。引进所处置或所关涉的对象。	
⑩介词。跟“来说”、“来讲”搭配使用，引进要说明的事情或情况。	
	⑧捉摸。
	⑨拔，擻。指把脚从地面提起。
	⑩擒拿。拳术的一种。

この対照表では、左側の『現代汉语词典』の意義項目の配列順にあわせて右側に古代の意義項目を対比している。一瞥してわかることは、『現代汉语词典』の⑥⑦の意義項目は、新しい語義であること、介詞用法の内、⑨⑩は新たな用法であること。古代での意義項目⑧⑨⑩は現代に継承されていないこと。この3点である。さらに意義項目の配列順に着目するなら、おおむね原義から派生義への展開を踏まえているかと思われる。①の「手でつかむ」という具体的な動作から、②「つかまえる」③「掌握する」への展開は、特定の対象物への特化や、抽象化により生じた転義で、これは、古代の意義項目の展開、つまり①から②③への展開をおそらく継承していると推測できる。

同書は“拿”類として同義語“執 持 秉 握 將 把 捉”も論述している。一例として“秉”の対照表を引用する。

現代	古代
秉	秉
	①禾束：禾把。
①《書》拿着：握着。	②拿：執持。
②《書》掌握：主持。	③主持：掌握
③ ^量 古代容量單位。一秉合十六斛。	④量詞。十六斛。
④ ^名 姓。	⑤姓。
	⑥隨順。
	⑦保持：堅持。
	⑧依據：準則。
	⑨通“稟”。承受。
	⑩通“柄”。權柄。
	⑪通“謗”。

“秉”は名詞が原義で、2番目の意味項目において具体的な動作を表す動詞となり、より抽象度の高い③⑦などへと展開している。“拿”に比べて、現代での活躍の場は少なく、①②の意義として書面語内での出現に限られることがこの対照表からはわかる。興味深いことに、古代の②から③⑦の展開、すなわち具体的動詞から抽象度の高い動詞への展開は、“拿”のそれと同様の転義の筋道をたどっている。同義語グループにおける意義展開に見られる共通性を示してもいる。

汪維輝 2018 は、同義語グループ“拿”類の通時的変化について詳述する。以下に簡単にまとめておく。

先秦 “執”が最も使用頻度が高い。“持” “秉” “操” “把” “握” もあり。

兩漢 “持”の頻度が“執”に優る。

魏晉南北 “持” “捉” “執”が常用される。

唐五代 “把”が優勢。“捉”は、拿類から「逮捕」の意義へと転換。

“拈” “擎”が増え始める。

宋金 “把”と“將”が拮抗。執” “持”はほぼ退出。

元 “將” “拿”が優勢。

明清 “拿”が“將”にとってかわる。

極めて簡略に示したが、時代の推移とともに同義語グループ内で新たに優勢な語が生まれ、別意義に展開して別グループへ移行する例があることをふくめ、仔細に示されており、誠に興味深い。同義語グループというひとつの括りのなかで通時的な変遷を追っていく方法は、手堅い手法であると思う。

このほか、同書は現代方言 42 地点での使用状況を示しており、42 点中 14 地点は、“拿” と他の動詞を併用し、共存していることが明示されている。通時的観点と、現時点での地域差という観点の両方を備えた稀有な著書であると思われる。

6-3 相原茂 2017 『中国語学習シソーラス辞典』

本節では、学習者向けに編纂された『中国語学習シソーラス辞典』を取り上げたい。まずは「序」の引用により、本書の編纂方針、意義を確認しておこう。

…本書がいう「シソーラス (Thesaurus)」とは単語の上位/下位関係、部分/全体関係、同義関係、類義関係などによって単語を分類し、体系づけた類語辞典である。…中国語の広い意味での類義表現全体を見渡せるマップが必要なのである。…

単語を分類し、体系づけた類語辞典の重要性について、本稿筆者は深く同意するものである。前述した『岩波中国語辞典』の「意味による索引」の編纂目的と通底していることが期待される。

以下に「凡例にかえて」より引用し、その編纂方針を確認しておこう。

①似た意味をもつ語のゆるやかな集合をめざす。

②日本語の五十音順記列

③類義語内は、ピンイン順記列

④親字の重要度について、マークで表示

最重要語★/重要語★★/次重要語* 三区分別によって示す

①の方針、つまり「ゆるやかな集合」については、納得できるものである。厳密な意義分類に依拠すると、かえって混乱を招きかねない。

②の方針、日本語の五十音順による配列することで、意味分類としての体系性が失われるのみならず、近似した意味の語が、離れた位置に収録され学習者には気付かれぬ。序に示された「全体を見渡せるマップ」の構造には、なりえない。

③の方針、類義語内での配列はピンイン順によることで、典型語、代表語たる最上位の単語であれ、下位にある語であれ、発音順の原則で配置される。

④親字の重要度について、マークで表示される。最重要語/重要語/次重要語の三区分別は頻度に依拠するかと推測されるが、③の方針により発音順記列となった欠点を補うべく設定したものである

う。問題は、異なる箇所、異なる意味で複数回、収録されている語に関して、当該の意味が、最重要・重要・次重要ということなのか、不明である点である。

具体例として、“拿”の収録箇所をあげよう。“拿”は同書において4か所に収録されている。簡便にするため、原文の用例と解説部分は省略する。

p. 530	とる	手に取る	: 递 接 拿 取 收 握 执 抓
p. 556	にぎる	握る	: 把 把握 操 持 揪 拿 捏 握 抓 攥
p. 626	ひろう	拾う	: 拣 捡 拿 拾 拾取 挑 摘 找
p. 725	もつ	(手で) 持つ	: 抱 持 端 拿 捧 提 握 抓

編集方針③にある通り、ピンイン順の配列によるため、「(手で)持つ」動詞の典型的な語で、代表的な地位にあるべき“拿”が、先頭には来ず、上位・下位の関係は不明瞭である。また、口語での使用は極めて限定的な“执” “操”が他の語と同じ平面上にあげられる点にも違和感が拭えない。

さらに加えると“拿”のように、日本語の表現により複数箇所収録される場合、相互参照の頁が記されていないのは、不親切な扱いといえよう。総じて、本書の実態から判断すると、「序」で述べられた「中国語の広い意味での類義表現全体を見渡せるマップ」は現実化してはいない。語彙の体系性を失うことなく学習者にわかりやすく提示する類語辞典の出現にはまだ何段階もの工夫が必要であろう。

7 今後に向けて

本稿は、体系性をもった語彙の研究を提唱するべく執筆したものである。意味分類に基づいた先学の研究成果の再評価と、最新の研究成果を紹介してきた。多くの学ぶべき事例と、克服すべき課題を確認することができた。簡単に表にまとめておく。

	階層性	地域差	通時的分析
岩波中国語辞典 「意味による索引」	辞書本文部分に記述 にあり	ほぼみられ ない	
儿女英雄伝語彙調査	口語に限定せず採録		
汉语核心词的历史与现状研究	現代の記述部分で書 面語と明示	○	○
学習シソーラス辞典			

『汉语核心词的历史与现状研究』の総合的な記述には、感服するしかないが、個々の研究者には一体何ができるのだろうか。短期間に通時的分析をめざすことには困難がたちはだかる。一人一人の研究

者が、個別の資料・作品と向きあい、いったん、意味分類の枠組みのなかで、それぞれの体系だった語彙世界を把握し、明示すること、同一資料内における諸相の解明を含めて、研究成果を蓄積していくことを提唱したい。そのうえで、共通の意味枠組のなかで、異なる資料・作品との比較対照を通じて、語彙の変遷、消長、交替を浮き彫りにすることが、語彙史の解明につながるであろう。

振り返れば、40数年前に『南山俗語考』という資料と出会ったことが、今回の執筆の契機となっている。当初は薩摩藩で編まれた一唐話資料としか考えておらず、まずは、稿本『南山考講記』との対照のために、カードを取りピンイン順記列へという作業に着手した。しかし所収語彙を発音順にすることで、『南山俗語考』自体のもつ分類語彙辞典としての最大の特色を消し去ってしまうという徒労感と罪悪感が募るばかりであった(注5)。その解決方法を探り続けた40年であったともいえる。

今、原点にもどり、先学の研究業績から多くの学びを得て、改めて叱咤激励されているように感じられる。

注

1 語彙については2017年に『『南山俗語考』翻字と索引』を出版し、他資料との全般的な対照がようやく容易となった。岩田憲幸2020の出版とあいまって、近似性の高い資料同士を調査する基盤が整いつつある。ただし発音順の索引が語彙の体系性の把握に直結するというわけではない。

2 編纂に従事された宮田一郎先生が当時を述懐されている記述が、講演録(宮田一郎2018)にある。

老舎の『離婚』の語彙の担当となり、意味・用法の仔細な違いに至るまで、一例たりともないがしるにせず徹底的に調べあげる手法がその後の研究の土台になったという。

3 見出し語の統一のもと複数の資料を対照させた研究では、坂井健一・木村晟1975があり、「日本風土記」・「日本寄語」・「日本館譯語」・「琉球館譯語」・「朝鮮館譯語」・「日本一鑑」の寄語を配置して提示している。昭和49年度科学研究費補助金による『近世中国における日本語資料の集取整理と語学的研究』の成果報告である。

4 筆者と植田均氏との私信による。『东北方言概念词典』は、“Chinese Concept Dictionary 中文概念词典”に基づいており、分類は非常に細微となっている。

5 拙論、岩本2010は、『南山俗語考』の分類項目名の選定には、『清文鑑』の項目名が背後にあり参照されたと述べる。

参考文献

相原茂2017『中国語学習シソーラス辞典』朝日出版社

岩田憲幸2020『『三字唐話』の研究 基礎資料篇』白帝社

岩本真理1989a「『南山俗語考』のこぼれ」『鹿兒島経大論集』30-1

岩本真理1989b「『南山俗語考』の語彙的特徴」『人文研究』41-5

<https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/contents/osakacu/kiyo/DBd0410502.pdf>

(以下にあげる『人文研究』所収論文も同じコンテンツ内に収蔵される)

岩本真理 1991 「『南山俗語考』の唐音について (1)」 『人文研究』 43-11

岩本真理 1992 「『南山俗語考』の唐音について (2)」 『人文研究』 44-5

岩本真理 1993 「『南山俗語考』の唐音について (3)」 『人文研究』 45-5

岩本真理 2010 博士論文『『南山俗語考』の研究』 大阪市立大学第 5567 号

https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/file/meta_pub/detail

岩本真理 2017 『『南山俗語考』 翻字と索引』 中国書店

太田辰夫 1963 「『兒女英雄伝』 語彙調査」 『清末文学言語研究会会報』 第 3 号 (白帝社から復刻版の刊行がある)

太田辰夫 1965 「北京語の文法特点」 『久重福三郎先生・坂本一郎先生還暦記念中国研究—経済・文学・語学』

日下恒夫 1974 「清代南京官話方言の一斑—泊園文庫蔵《官話指南》の書き入れ—」 『関西大学中国文学会紀要』 5

倉石武四郎 1963 『岩波中国語辞典』 岩波書店

国立国語研究所 2004 『分類語彙表 増補改訂版』 国立国語研究所資料集 14 大日本図書

坂井健一・木村晟 1975 『「日本風土記」・「日本寄語」・「日本館譯語」・「琉球館譯語」・「朝鮮館譯語」・「日本一鑑」 寄語対照手冊』

佐藤晴彦 1973 「《正音咀華》のことば—近世白話史の一資料—」 『人文研究』 25

佐藤晴彦 1979 「琉球写本官話課本のことば」 『中国語学』 262

竹越孝・斉燦・余雅婷・陳曉 2021 「漢語語彙索引」 『満漢合璧版『古新聖經』の研究』 好文出版

田島統堂 2004 「比較語彙論—構想と目的の概要—」 『語彙研究の課題』 和泉書院

陳曉 2021 「『満漢合璧版『古新聖經』の漢語語彙の様相」 『満漢合璧版『古新聖經』の研究』 好文出版

宮島達夫・鈴木泰・石井久雄・安部清哉 2014 『日本古典対照分類語彙表』 笠間書院

宮田一郎 2018 「中国語 77 年」 『高等学校中国語教育研究会会報』 27

汪維輝 2018 《汉语核心词的历史与现状研究》 商务印书馆

尹世超 2010 《东北方言概念词典》 黑龙江大学出版社

「言志」「縁情」から「形似」へ
—中国5世紀における詩歌観の変質とその波及—

佐竹保子

目次

- 一 儒学經典の「詩言志」説とそれを受けた「詩縁情」説
 - 二 5世紀に出現した変化——「形似」の詩句の登場——
 - 三 5世紀の変化の原因は？ ——仏教哲学に由来する「情」認識——
 - 四 「詩言志」「詩縁情」の詩歌と「形似」の詩歌
 - 五 まとめ
- 引用文献

一 儒学經典の「詩言志」説とそれを受けた「詩縁情」説

今に残る文献を見る限り、中国では遅くとも紀元1世紀に、文学観・詩歌観が示されています。それも権威ある儒学の經典に記されてあるため、以後の文学観を規定します。たとえば、下の1の儒学經典である『尚書』には「帝曰く」と、伝説の聖なる皇帝である堯帝の言葉として、「詩は志を言い、歌は言を永くする」とあります。

1. 『尚書』（紀元前2世紀以前？）舜典

帝曰「夔、命汝典樂、教胥子。……詩言志、歌永言。……」

孔穎達（574～648）正義：帝呼夔曰「我令（今）命女典掌樂事、當以詩樂教訓世適長子、……教之詩樂、所以然者、詩言人之志意、歌詠其義、以長其言。樂聲、依此長歌爲節。律呂、和此長歌爲聲。八音皆能和諧、無令相奪道理。如此、則神人以此和矣」。……作詩者、自言己志、則詩是言志之書、習之可以生長志意。故教其詩、言志以導胥子之志、使開悟也。作詩者直言、不足以申意。故長歌之、教令歌詠其詩之義、以長其言。

1の下には、唐代の孔穎達の解説も付しました。傍点部分に「詩は、人の志意を言う」、
「詩を作る者は、自らおのれの志を言うので、詩とは志を言う書である」と説明されています。

次の2は、やはり儒学の經典である『毛詩』巻頭の序文です。傍点部分に「詩とは、志が

ゆく所である。心に在れば志であり、言葉に発すれば詩となる。情が中に動いて言葉に現れる」とあります。

2. 「毛詩大序」（紀元前2世紀～前1世紀?）

詩者、志之所之也。在心爲志、發言爲詩。情動於中而形於言、言之不足、故嗟歎之、嗟歎之不足、故詠歌之、詠歌之不足、不知手之舞之足之蹈之也。

次の3も儒学經典の『礼記』で、傍点部分に「詩は其の志を言うのである」とあります。

3. 『礼記』（紀元前1世紀?）楽記

徳者、性之端也。樂者、徳之華也。金石絲竹、樂之器也。詩言其志也、歌詠其聲也、舞動其容也。三者本於心、然後樂器從之。是故情深而文明、氣盛而化神、和順積中、而英華發外、唯樂不可以爲僞。

4も儒学經典の『春秋左氏伝』で、ここには、鄭国の領主が、晋国の貴族である趙孟をもてなした話が記されてあります。趙孟は、鄭国の領主に随従してきた七人の貴族に、『詩経』の詩を詠じるように頼みます。これは当時の外交の習慣で、異なる国の貴族同士が『詩経』の詩を詠じて自分の心を伝える、という儀礼があったからです。趙孟は、傍点部分にあるように「武（趙孟の自称）も、七人のかたがたの志を観たいのです」と言います。3世紀の春秋学者の杜預は、これに「詩はそれで志を言う」と經典の言葉を引用して解説しています。

4. 『春秋左氏伝』襄公二七年（魯の襄公は前6世紀中頃の諸侯とされる）

趙孟曰「七子從君、以寵武也。請皆賦以卒君祝。武亦以觀七子之志」。……（「七子」のひとりの）伯有賦「鶉之賁賁」。……

杜預（227～284）注：詩以言志。

4の省略した点線部分には、次のようにあります。趙孟に儀礼上請われた鄭国の七人の貴族は、外交上の席ですから、それぞれにめでたい詩を詠じました。ところが七人のうち伯有という貴族が詠じた「鶉の賁賁」に、趙孟は不忠の心を感じとってしまいます。趙孟は、この詩を詠じた人は将来殺されるのでなければ亡命するだろうと、伯有の運命を予知します。その予知は当たります。やはり詩は、隠してはいても志が表れるものだったのです。

以上が、儒学經典に記された「詩言志」説のおもなものです。このためかどうか、当時の詩歌は、詩人の心の中をうたうものがほとんどです。例として5に、『毛詩』の巻頭に掲げられる「閔雎」の詩を、6に、曹操（155～200）の「短歌行」を挙げました。傍点部分が、心の中をうたっています。

5. 『毛詩』国風・周南「閟雎」 『毛詩』卷頭の詩

關關雎鳩、在河之洲。窈窕淑女、君子好逑。
參差荇菜、左右流之。窈窕淑女、寤寐求之。
求之不得、寤寐思服。悠哉悠哉、輾轉反側。
參差荇菜、左右采之。窈窕淑女、琴瑟友之。
參差荇菜、左右芼之。窈窕淑女、鍾鼓樂之。

6. 曹操「短歌行」 蕭統（501～531）編『文選』所収

對酒當歌、人生幾何。譬如朝露、去日苦多。
慨當以慷、憂思難忘。何以解憂、唯有杜康。
青青子衿、悠悠我心。但爲君故、沈吟至今。
呦呦鹿鳴、食野之苹。我有嘉賓、鼓瑟吹笙。
明明如月、何時可掇。羣從中來、不可斷絕。
越陌度阡、枉用相存。契闊談讌、心念舊恩。
月明星稀、烏鵲南飛。繞樹三匝、何枝可依。
山不厭高、海不厭深。周公吐哺、天下歸心。

5は、「窈窕たる淑女」すなわち深窓に育ったしとやかなレディを、「君子」のパートナーとして寝ても覚めても求める心をうたっています。

6は、憂いは酒でなければ解消できないが、ここにはいない「君」を求めるあまり憂いをたちきれない、とうたっています。6の最後の一行は、山と海と周公のことを言っているようですが、実は、私は山のような、海のような、周公のような大きな人間になりたい、という心です。どちらも詩言志説に当てはまる詩歌です。

ただ、6の曹操の息子の曹丕（187～226）のころから、作品に対する分析が進んで、ジャンル論が盛んになります。7の曹丕は、「詩と賦（長編韻文）は麗しくあろうとする」と書いています。また8の陸機（261～303。三国呉の陸遜の孫）は、「詩は情によりそって綺麗でなければならない」とします。詩の美しさへの自覚が高まるのですが、しかし、「縁情」情によりそう、は、「言志」志を言う、と似ていて、どちらも心の中をあらわすことです。

7. 曹丕「典論論文」 『文選』所収

夫文、本同而末異。蓋奏議宜雅、書論宜理、銘誄尚實、詩賦欲麗。此四科不同、故能之者偏也。唯通才能備其體。

8. 陸機「文賦」 『文選』所収

體有萬殊、物無一量。……詩緣情而綺靡、賦體物而瀏亮。

李善（7世紀）注：善曰、詩以言志、故曰緣情。賦以陳事、故曰體物。綺靡、精妙之言。瀏亮、清明之稱也。

この「詩言志」説と「詩縁情」説は、日本にも伝わります。日本の古い文学論である9の古今集真名序(905)は、2の毛詩大序の影響を受けているとされ、「和歌は、その根を心という地面に託す」、「感動が志から生まれ、詠じて言葉にあらわす」、「誰もが和歌によって情を通じさせる」と書かれてあります。ただ、中学や高校の教科書に出てくるのは、9の真名序よりも10の仮名序ですが、ここにも「やまとうたは、人のこころをたね(種)として、よろづのことは(言の葉)とぞなれりける」とあります。

9. 紀淑望(きのよしもち。9世紀~919)「古今集真名序」

夫和歌者……託其根於心地。発其華於詞林者也。人之在世。不能無為。思慮易遷。哀樂相變。感生於志。詠形於言。是以逸者其声楽。怨者其吟悲。可以述懷。可以發憤。……其後雖天神之孫。海童之女。莫不以和歌通情者。

10. 紀貫之(きのつらゆき。870頃~945頃)「古今集仮名序」

やまとうたはひとのこころをたねとしてよろづのことの葉とそなれりける 世中にある人ことわさしけものなれは心におもふことを見るものきくものにつけていひたせるなり

9や10に先立つ実作のほうも、確かに「こころ」をことばにしています。11の柿本人麻呂(660頃~724頃)の歌をご覧ください。傍点部分がこころを詠じています。

11. 『万葉集』の柿本人麻呂の歌

サ、ハ ノ シ カ ノ カラサキクアレトオオミヤヒトノフ子マ チカネツ
樂浪之思賀乃辛崎雖幸有大宮人之船麻知兼津 (巻一の30番歌)

サ、 ノ ハ 、 ミ ヤ マ モ サ ヤ ニ ミ タ レ ト モ ウ レ ハ イ モ オ モ フ カ レ キ レ ハ
小竹之葉者三山毛清爾亂友吾者妹思別來禮縻 (巻二の133番歌)

ア フ ミ ノ ウ ミ ヲ フ ナ ミ チ ト リ ナ カ ナ ケ ハ コ、ロ モ シ ノ ニ イ ニ シ ヘ オ モ ホ ム
淡海乃海夕浪千鳥汝鳴者情毛思努爾古所念 (巻三の266番歌)

「さざ波の 志賀の辛崎 幸(さき)くあれど 大宮人(おおみやびと)の 船待ちかねつ」、「笹の葉は 深山(みやま)もさやに 乱れども 吾は妹(いも)思う 別れ来ぬれば」、「淡海(おうみ)の海 夕波千鳥 汝(な)が鳴けば こころもしのに いにしえ 思おゆ」とあります。

じつは「こころが言葉になる」というのはもっとも素朴な詩歌観なので、どこであっても自然発生的に出現した可能性があります。その自然発生的な実感が、1から4のような儒学経典によって、確固たるテーゼとしてのお墨付きを与えられたわけです。私が小学生であった頃も、詩や文章を書くとき、先生がたに「こころに思ったことを書きなさい」と指導されました。その意味で、紀元前の儒経の詩歌観は、現代日本の義務教育にまで影響していると言えるかもしれません。

二 5世紀に出現した変化——「形似」の詩句の登場——

ところが本家の中国では、5世紀に変化が起こります。その変化については、5世紀から7世紀にかけての文献にさまざまに書いてあるのですが、一番まとまっているのが、下の12と13の『文心雕龍』です。12には「劉宋の初めの文章は、そのスタイルに变革があった。莊子や老子を詠みこむことが退いて、山水が多くなってきた」、そしてその際は「内容は必ず、極力物の姿を写すようにする。言葉は必ず極力新しさを追う」とあります。13には「近代以来、文は、形似、すなわち形を似せることを貴ぶようになった。実情を風景の上に窮め、姿を草木の中に追究するのだ」、「物をかたどることをすばらしいとし、成功は対象にぴったり密着することにある。だから巧みな言葉で対象に切りこみ、はんこを印肉に捺すようにする」とあります。実線を引いた部分をご覧ください。

12. 劉勰（5C後半～6C初期）『文心雕龍』明詩篇

宋初（*中国六朝の劉宋のこと。420～479）文詠、體有因革。莊老（*『莊子』『老子』。老莊思想）告退、而山水方滋。儷采百字之偶、爭價一句之奇。情必極貌以爲寫物、辭必窮力而追新。此近世之所競也。

13. 劉勰『文心雕龍』物色篇

自近代以來、文貴形似。窺情風景之上、鑽貌草木之中。吟詠所發、志惟深遠。體物爲妙、功在密附。故巧言切狀、如印之印泥。不加雕削、而曲寫毫芥。故能瞻言而見貌、即字而知時也。

つまり、この頃の詩には「山水」を描く句が多くなり、しかも「山水」という対象をそっくりに写し取ろうとするようになった、ということです。とはいえ「そっくりに写しとる」ことなどできるはずがないので、では具体的にはどういうものなのか、というのが、14と15の実例です。要するに、旧態依然たる古い言葉を使わずに、それまでに使われたことのない新しい言葉を用いて精緻に叙述する、それが描かれた山水を、今までよりも「そっくりに写」したように見えたわけです。14と15はすべて謝靈運（385～433）の詩です。5世紀の変化が謝靈運から起きた、あるいは謝靈運詩に典型的に現れている、ということは5世紀以後の文献で一致しているので、彼の詩を挙げました。

14. 謝靈運「登江中孤嶼」 李善注本系『文選』卷二六

江南倦歷覽、江北曠周旋。懷新道轉迴、尋異景不延。亂流趨正絕、孤嶼媚中川。
雲日相輝映、空水共澄鮮。表靈物莫賞、蘊眞誰爲傳。想像崑山姿、緬邈區中緣。
始信安期術、得盡養生年。

15. 謝靈運詩から、山水詠の形似詩句のみを抜粋

「永初三年七月十六日之郡初發都」秋岸澄夕陰、火旻團朝露。

「鄰里相送方山」析析就衰林、皎皎明秋月。

「過始寧別墅」巖嶺嶺稠疊、洲禁渚連縣。白雲抱幽石、綠篠媚清澗。
 「初往新安至桐廬口」既及冷風善、又即秋水駛。江山共開曠、雲日相照媚。
 「七里瀨」石淺水潺湲、日落山照曜。荒林紛沃若、哀禽相叫嘯。
 「晚出西射堂」曉霜楓葉丹、夕曠嵐氣陰。
 「登永嘉綠嶂山」澗委水屢迷、林迴巖逾密。眷西謂初月、顧東疑落日。
 「登池上樓」初景革緒風、新陽改故陰。池塘生春草、園柳變鳴禽。
 「登上戍石鼓山」日末澗增波、雲生嶺逾疊。白芷競新苔、綠蘋齊初葉。
 「游南亭」時竟夕澄霽、雲歸日西馳。密林含餘清、遠峰隱半規。
 「初去郡」野曠沙岸淨、天高秋月明。憩石挹飛泉、攀林攀落英。

14 は、「江中の孤嶼に登る」という題名の詩です。最初の四句は「江南はうんざりするほどめぐり見た、江北ははるかにめぐりゆこう。目新しさを慕えば道はますます続き、珍しさを尋ねれば日脚は伸びない」。

次の四句の実線部分が、いわゆる「形似」の山水句です。「流れを渡ってその流れが正に絶ちきれる所に趨くと、ぽつんとそびえる島が川の半ばにうるわしい。雲と太陽が輝いて映えあい、空と水がともに澄んであざやかだ」。この部分は確かに、今に残るそれ以前の詩歌には使われたことのない言葉を用いて、川の中の島を描いています。

最後の六句が「靈妙さを表しても賞するものと無く、真実を包みもっても誰が伝えよう。想像するのは崑崙山のすがた、遠ざかりゆくこの世のえにし。始めて信じた、仙人安期生の術が、いのちを養う日々をまっとうさせることを」。この最後の傍点部分は、心の中を詠っているので「言志」の句だと言えます。しかしその前の実線部分は、「形似」の句です。

15 は謝靈運の詩から、14 の実線部分のような「形似」の句だけを抜き出したものです。上から順に訳しますと「秋の岸が夕影に澄んで、火の星の現れた空が朝露にまるい（まるく映る）」。「ざわざわと衰えゆく木々、皎皎と秋に明るい月」。「巖は険しく崖が重なりあい、中洲が巡りこんで渚がはるかに続く。白い雲がはるかな石を抱き、緑のしのだけが清いさざなみにうるわしい」。次は船遊びの様子で、「涼風が気持ちよく吹くの間にあったし、秋の流れの速さにも乗ずることができた。川と山がともにかかりと開け、雲と太陽が互いに美しく照らし合う」。その下は「石床は浅く水がさらさら流れ、日が沈んで山が照りかがやく。荒れた木々は入り乱れつややかで、哀しい声の鳥が叫びあう」。「あかつきの霜にかえでの葉は丹くなり、夕がたの落日に山の気は陰りゆく」。「谷川はうねうねと水はますます迷い、木々ははるかで巖はますます迫り来る。西を見ては出たばかりの月かと思ひ、東をふりかえっては落日かと疑う」。「初めてのひかりが最初の風を変え、新しい陽の気が古い陰の気を改める。池の岸に春の草が生え、庭の柳に鳴く鳥が変わる」。「日が暮れて谷川は波を増し、雲が生じて嶺はますますたたなわる。白いウドは新しいがくを競いあい、緑の水草は初めての葉を揃えている」。「季節が終わり夕方は澄んで晴れ、雲が帰って日が西に馳せる。密に生えた木々は残りの清らかさを含み、遠い嶺は半分の丸さ（太陽のこと）を隠

している。「野は広く砂の岸は清らかで、天は高く秋の月が明るい。石に休んでほとぼしる滝水を掬い、木々によりかかかって落ちた花を手取る」。

以上のように、自分の心の中ではなく、山水を新しい言葉で描く句は、『万葉集』にも見えます。16に挙げる山部赤人（724～736に活躍）の歌がその典型です。

16. 『万葉集』中の山部赤人の歌

タ コ ノウラニウチイデ、ミレハ マシロニソフ シノタカ子 ニユキハフリケル
田兒之浦從打出而見者真白衣不盡能高嶺爾雪波零家留 (318 番歌。卷三)

イニシヘノフルキツ、ミハトシフカキケノナキサニ ミクサオイニケリ
昔者之舊堤者年深池之澗爾水草生家里 (378 番歌。卷三)

ワカノウラニシオミチクレハカタヲナミ アシヘヲサシテ タツナキワタル
若浦爾塩満來者滄乎無美葦邊乎指天多頭鳴渡 (919 番歌。卷六)

ミヨシノノキサヤマキハノ コスエニハ ココタモ サワクトリノコエカモ
三吉野乃象山際乃木末爾波幾許毛散和口鳥之聲可聞 (924 番歌。卷六)

ヌハタマノヨノフクヌケハヒサキオフルキヨキカハラニチトリシハナク
鳥玉之夜乃深去者久木生留清河原爾知鳥數鳴 (925 番歌。卷六)

「田子の浦に うち出（い）でてみれば 真白にぞ 富士の高嶺（たかね）に 雪は降りける」。「いにしへの 古き堤（つつみ）は 年深き 池の渚に 水草（みくさ）生（お）いにけり」。「若の浦に 潮（しお）満ち来れば 滄（かた）を無（な）み 葦邊（あしべ）を指（さ）して 鶴（たづ）鳴き渡る」。「み吉野の 象山（きさやま）際（きわ）の 木末（こずえ）には ここだも騒ぐ 鳥の声かも」。「ぬばたまの 夜（よ）の更（ふ）けゆけば 久木（ひさぎ）生ふる 清き川原（かわら）に、千鳥（ちどり）しば鳴く」。

ただ、上の 16 の歌を書いた赤人の活躍は、先の 11 の「言志」に近い歌を書いた柿本人麻呂とほぼ入れ替わりで、一世代三十年も離れていません。これに対し中国では、2 の毛詩大序から 14 の謝靈運の登場までに、四百年から五百年の隔たりがあります。中国では詩言志から形似まで四世紀以上もかかっているのに、日本では三十年もかかっています。おかしいではないか、というかたが居られるかもしれませんが、これは、当時もつばら文化の受信地域であった日本畿内によく見られた現象で、発信地域では時代を隔てている様々なスタイルが、日本にはまとめて同時に入ってきます。そのため、古いのも新しいのも異なる思潮が並存し混在します。それで、それぞれの歴史的経過や因果関係などをきちんと把握しないまま並列的に議論する、というのが、20 世紀前半までの日本知識人社会のあるあるでした。20 世紀後半のインターネットの普及で諸思潮の混在は激化しているのですが、同時にそれぞれの歴史的由来についての情報も行きわたるようになったためか、却って相互の関係性や必然性にも注意が向けられてきているように見えます。

さて、16 の赤人のような歌については、折口信夫氏（1887～1953）が、百年近く前に言及しています。17 をご覧下さい。

17. 折口信夫「万葉集研究」（『折口信夫全集一』390 頁、中央公論社 1965。初出は『日本文学講座 19』1928）

人間以外に自然界の、詠歎の対象として認めた事は、極めて自然な展開ではあるが、漢文

学の叙景法の影響も考へねばならぬ。叙景に徹せず、抒情に戻る表現上の不確実性を、或点まで截り放つたのは、漢詩からの黙会である。

日本詩歌の「叙景に徹せず、抒情に戻る表現上の不確実性」がある程度無くなったのは、「漢詩」の影響だということです。とはいえ、折口氏のいう「漢詩」すなわち中国の古典詩に、一首すべてが「叙景」である詩など、ほとんどありません。14の謝靈運詩でさえ、「叙景」はありますがそれに「徹」してはおらず、最後は「言志」でしめくられます。「叙景」はあくまで、全体の一聯か二聯にすぎません。

ところが、日本の平安貴族たちは、その「漢詩」を受容する際、独特の方法をとっていました。「漢詩」の一首全体を覚えて訳して鑑賞するのではなく、18に挙げた選集のように、その中のすぐれた句だけを部分的に、一聯かせいぜい二聯だけを抜き出して楽しんだのです。

18. 大江維時(888~963)編『千載佳句』。藤原公任(966~1041)編『和漢朗詠集』。

18の『千載佳句』は、中国唐代の詩人一五三人の七言詩一〇八二首から、二句一聯を摘録した詩句集です。たとえば白居易(772~846)の長編「長恨歌」からは、「遅々鐘漏初長夜、耿耿星河欲曙天」の一聯のみが、「四時部・秋夜」に収められています。「地理部・山水」には、杜甫(712~770)の七言律詩「藍田崔氏莊」から「藍水遠從千澗落、玉山高對兩峯寒」が、「宴喜部・詩酒」には、白居易の七律「題仙遊寺」から「林間煖酒燒紅葉、石上題詩掃綠苔」が、「隱逸部・山居」には、同じく白居易の七律「香炉峯下新卜山居」から「遺愛寺鐘欹枕聽、香炉峯雪撥簾看」が、どれも二句一聯のみ摘録されています。18の『和漢朗詠集』は、唐詩に加えて、唐代の駢文や日本人の詩文や和歌をも収めています。これらの詩文もすべて二句一聯の摘録です。

平安貴族の中でも、たとえば菅原道真(845~903)やそのお父さんの是善(これよし)等は、謝靈運の詩が一番多く載っている『文選』をきちんと読みこなし、謝靈運に倣った漢詩も作っていました。でも道真や是善のような人はいつの世にも例外で、平安貴族の圧倒的多数は、いわゆる「漢詩」を、最初から最後まで余さず読んで理解する学識も根気もなかったように見えます。その彼らの部分的な鑑賞から、かえって16のような「叙景に徹して抒情に戻らない」詩歌が生まれる現象が起きたのかもしれない。

三 5世紀の変化の原因は？ ——仏教哲学に由来する「情」認識——

日本の状況は以上ですが、本家本元の中国に戻れば、ではなぜ中国5世紀に、「詩言志」「詩緑情」ではない、謝靈運詩のような「形似」が出現したのか、という問題になります。そこで謝靈運の詩文で、「志」や「情」という字がどのように使われているか、調べてみました。とはいえ「志」は少ないので、もっぱら「情」を調べることになります。

19の「石門山に新たに住む家を建てた。四方は高い山、めぐる谷川、石床の浅瀬、長い竹、

茂る木々」という長い題の詩をご覧下さい。

19. 謝靈運「石門新營所住四面高山迴溪石瀨脩竹茂林」『文選』卷三十

躋險築幽居、披雲臥石門。苔滑誰能步、葛弱豈可捫。嫋嫋秋風過、萋萋春草繁。
美人遊不還、佳期何由敦。芳塵凝瑤席、清醕滿金樽。洞庭空波瀾、桂枝徒攀翻。
結念屬霄漢、孤景莫與諼。俯濯石下潭、仰看條上猿。早聞夕飈急、晚見朝日暉。
崖傾光難留、林深響易奔。感往慮有復、理來情無存。庶持乘日用、得以慰營魂。
匪爲衆人說、冀與智者論。

李善注（7世紀後半）：言悲感已往、而夭壽紛錯、故慮有迴復；妙理若來、而物我俱喪、故情無所存。

『莊子』徐無鬼篇：黃帝將見大隗乎具茨之山、方明爲御、昌宇駟乘、張若・謔朋前馬、昆閻・滑稽後車。至於襄城之野、七聖皆迷、無所問塗、適遇牧馬童子、問塗焉、曰「若知具茨之山乎」。曰「然」。「若知大隗之所存乎」。曰「然」。黃帝曰「異哉小童。非徒知具茨之山、又知大隗之所存。請問爲天下」。小童曰「夫爲天下者、亦若此而已矣、又奚事焉。予少而自遊於六合之內、予適有瞽病、有長者教予曰『若乘日之車、而遊於襄城之野』。今予病少痊、予又且復遊於六合之外。……」

最初の六句は「険しい山を登って人知れぬ住まいを築き、雲を開いて石門山に横になる。苔が滑って誰が歩けよう、ツタは弱くてつかむことなどできようか。ざわざわと秋の風が過ぎゆき、青々と春の草が繁る」。「嫋嫋秋風過、萋萋春草繁」という二句は、その典故から、慕わしい人がここにはいない、という意味になり、それで次の八句に続きます。「美しい人は遊んだまま還らない、約束の時はいつ果たされるのか。かぐわしい塵は玉の座席で動かず、清い酒は金の器に満ちたまま。洞庭の湖が空しく波立ち、木蘭の枝がいたずらにひるがえる。結ばれた思いは天（あま）の川まで届くが、孤独な影は思いを忘れるすべもない」。

このあとの六句に、山水の「形似」の句があります。「うつむいては石の下の淵に洗い、ふりあおいでは枝の上の猿を見る。早くに夕方のつむじ風の激しい音を耳にし、おそくなってから朝日のまどかさを目にする。崖が傾いているので光が届きにくく、林が深いので響きが奔りやすいからだ」。

そのあとの波線の二句にご注目ください。「感情が動いて物思いがよみがえるが、理がやって来て情は存在しなくなる」。

そのあとの最後の四句は、19の下のほうに挙げた『莊子』徐無鬼篇を踏まえています。「願わくは（『莊子』に出てくるあの襄城の野の童子のように）太陽のはたらきに乗じて、あくせくと動くこの魂を慰めたい。（このことは）衆人のために話すことではない、ただ智者と語りあいたい」。

さてご注目いただいた「感往慮有復、理來情無存」は、当時でも大変難解な句だったようで、唐代の李善が解説を付けています。19の「李善注」をご覧下さい。「つまり、悲しい感情がす

でに往ってしまっても、命についての思いが千々に乱れ、それゆえ慮（おも）いはめぐり戻ってくる。だが玄妙なる理がもしやって来たら、物と我とがともに喪われ、それゆえ情は存在しなくなる」。ここで李善のいう「物我俱喪」とは、これも『莊子』を踏まえており、「物」すなわち対象と、「我」すなわち自分とが、ともに意識から消えて「物」と「我」の区分が消滅するという理想の境界をあらわしています。

20の「斤竹の谷川から嶺を越えて谷歩きする」も、深い山中を詠じています。これは最初の十四句がほぼ全部、山水詠の「形似」の句です。

20. 謝靈運「從斤竹澗越嶺溪行」『文選』卷二三

猿鳴誠知曙、谷幽光未顯。巖下雲方合、花上露猶泫。逶迤傍隈隩、蒼澗陟陁峴。

李善注：説文曰、隈、山曲也。爾雅曰、隩、隈也。郭璞曰、今江東呼爲浦。……爾雅曰、山絕曰陁、郭璞曰、連山中斷曰陁。……聲類曰、峴、山嶺小高也。

過澗既厲急、登棧亦陵緬。川渚屢逕復、乘流翫迴轉。蘋萍泛沈深、菰蒲冒清淺。

企石挹飛泉、攀林擿葉卷。想見山阿人、薜蘿若在眼。握蘭勤徒結、折麻心莫展。

情用賞爲美、事味竟誰辨。觀此遺物慮、一悟得所遺。

李善注：言事無高翫、而情之所賞、即以爲美、此理幽昧、誰能分別乎。淮南子曰、吾獨懷慷慨遺物而與道同出、是故有以自得也。郭象莊子注曰、將大不類、莫若無心、既遺是非、又遺其所遺、遺之以至於無遺、然後無所不遺、而是非去也。

「猿が鳴いたので本当に夜が明けたと分かるけれども、谷が深いので光はまだはっきり見えない。巖の下で雲が重なったばかり、花の上に露はまだしとど。うねうねと山奥のいりくんだ所に沿い、はるばると山あいをわたる。谷川を通れば激しい早瀬だし、棧道を登ればはるかに長い。川岸はしばしば進んだり戻ったり、流れに乗ってくるくる回るのを楽しむ。水草が川の深みに浮かび、マコモやガマが清い浅瀬をおおう。石の上につまさきだつてほとぼしる滝水をくみ、木々によりかかって巻かれたままの若葉を摘む」。

こののち19と同じように、慕わしい人に思いを馳せます。「思い浮かぶのは山の阿（くま）にいる人、（その人のまとう）ツルクサのころもが目の前にあるようだ。（その人に贈る）蘭を握るけれども思いはいたずらにむすぼれ、麻を手折るけれども心は麻のように伸びない」。

そして最後の四句にご注目ください。「情は賞（＝山水を理解し愛でること）によって美となるが、その事は見分ちがたく結局だれに分かるか。これを観て物思いをわすれ、ひとたび悟って棄てることができるのに」。「情用賞爲美」情が賞によって美となる、とは、裏返せばつまり、「情は賞によらなければ美とならない」ということです。このことを頭に置いて次の詩をよみます。

次の21「祖先の徳を述べる」詩は、謝靈運が曾祖叔父の謝安（320～386）と祖父の謝玄（343～388）の徳をたたえた作です。謝安は名宰相、謝玄も名指揮官で、当時の貴族中の傑物でした。21はその詩の最後の八句です。

21. 謝靈運「述祖德詩」二首其二 『文選』卷十九

賢相謝世運、遠圖因事止。高揖七州外、拂衣五湖裏。
隨山疏澗潭、傍巖藝粉梓。遺情捨塵物、貞觀丘壑美。

「すぐれた宰相であった謝安がこの世を去り、中原を恢復しようという遠大な計画は彼の死によって頓挫した。謝玄は気高く挨拶して治めていた七州の外に去り、衣を払って五湖（太湖）のほとりに隠棲した。謝玄は山づたいに深い淵を通し、巖に沿ってニレやアズサ（棺桶の材料）を植えた。彼は情をわすれて塵物を捨て、丘や壑（たに）の美をただしく観たのである」。

ここで「情」は、「塵物」と同列になっています。そして「情」を「遺」（す）て忘れてこそ「丘壑の美」を「貞」（ただ）しく「觀」（み）ることができるものとします。

さらに下の22、謝靈運の論文の「弁宗論」はどうか。下に引いた部分は『春秋左氏伝』成公二年の条にある物語を踏まえているので、まずその物語を簡単に申し上げます。楚の荘王が陳を滅ぼしたとき、荘王は、陳の靈公の愛妾だった夏姫を後宮に入れようとした。しかし荘王の臣下の巫臣は、もともと陳からの亡命者だったので、夏姫に関わる事実をよく知っており、それらを冷静に列挙して、夏姫は破滅のもとだと諫めました。ところが荘王の死後、巫臣は夏姫を自分のものにして晋に亡命しようとし、そのために一族が滅びました。

この話をもとに謝靈運はいいます。

22. 謝靈運「弁宗論」 大正新修大蔵経卷五二所収道宣（445～518）『広弘明集』卷十八

巫臣諫莊王之言、物賒於已、故理爲情先。及納夏姫之時、已交於物、故情居理上。
情理雲互、物已相傾、亦中智之率任也。若以諫日爲悟、豈容納時之惑耶。

「巫臣が荘王を諫めたことばは、（夏姫という）物が自分自身から遠かったので、理が情に先行した。（巫臣自身が）夏姫を納れようとした時は、自分が物と交錯したので、情が理の上に居座った。情と理がいりまじり、物と自分が傾け合うのも、中途半端な智慧のなせるわざだ。もしも（巫臣が荘王を）諫めた日に（巫臣が）悟っていたとするなら、（巫臣自身が夏姫を）納れた時の惑いがどうしてありえようか」。

以上挙げた四例で、「情」はどういうものとされているでしょうか。

19では、「情」とは、存在すべからざるもの（「無存」）で、「理」の対立物とされています。20では、「情」は「賞」によらなければ「不美」であるもので、「一悟」や「得遺」の障害です。21では、「情」は「塵物」と同列で、「情」を「遺」ててこそ、山水の美を「貞觀」できます。22では、「情」は「理」の上にあると「惑い」となるものです。

謝靈運のこうしたネガティブな「情」認識は、いったいどこから出ているのか。そこでまず、謝靈運の周囲に居て、彼の敬意の対象だった人々を探し、彼らの言説を検討してみます。

一人目は、23の慧遠（334～416）です。

23. 釈慧遠（廬山（江西省）に住した高僧）と謝靈運

謝靈運「仏影銘」 『広弘明集』巻十五

自作序文に「法顯道人至自祇洹、具說佛影偏爲靈奇。……廬山法師（＝慧遠）聞風而悅、於是隨喜幽室、即考空巖、北枕峻嶺、南映彪澗、摹擬遺量、寄托青采。……道乘道人遠宣意旨、命余制銘、以充刊刻」とあり、慧遠の要請で「仏影銘」を製作したと分かる。慧遠自身にも「佛影銘」あり、同じ『広弘明集』巻十五に所収。

謝靈運「廬山慧遠法師誄」 『広弘明集』巻二三

釈慧皎（497～554）『高僧伝』（519年成立。大正蔵巻五〇所収）巻六「慧遠伝」に「陳郡謝靈運、負才傲俗、少所推崇、及一相見、肅然心服。……終、春秋八十三矣。……謝靈運爲造碑文、銘其遺徳」。

慧遠には、謝靈運との関わりを証明する一次資料が二つ残っています。23に挙げたように、一つ目は謝靈運作の「仏影銘」です。序文に、慧遠が廬山の山肌に仏の像を画かせたとき、慧遠の意向を受けて自分が「仏影銘」を作った、とあります。二つ目も謝靈運作の「廬山の慧遠法師への誄」で、これは慧遠が亡くなったときの哀悼文です。

23には、6世紀初めの慧皎『高僧伝』の慧遠伝も挙げました。これは一次資料ではなく二次資料で、しかも慧遠の伝記なので慧遠を褒めた部分をそれほど信用することはできないのですが、ただそこには「陳郡の謝靈運は、才能を自負して俗人を見下し、ほとんど人を尊敬しなかったが、慧遠を一目見ると、肅然と心服した。……慧遠は、八十三歳で死んだ。……謝靈運は彼のために碑文を作り、その遺徳を記した」とあります。謝靈運の子孫は6世紀にも存在していましたから、その先祖について、事実と大幅に違うことは書けなかったはずですが、

その慧遠の著作が、24から26までです。

24. 慧遠「沙門不敬王者論」第三章「求宗不順化」 大正蔵巻五二所収『弘明集』巻五

有靈則有情於化、…（中略）…有情於化、感物而動、動必以情、故其生不絶。其生不絶、則其化彌広、而形彌積、情彌滯、而累彌深。其爲患也、焉可勝言哉。……夫生以形爲桎梏、而生由化有。化以情感、則神滯其本、而智昏其照。……

24には「靈が有れば変化に対して情が生じる、…（中略）…変化に対して情が生じれば、外物に感じて動き、動くのは必ず情によるから、その生は絶えることがない（＝輪廻をくりかえす）。その生が絶えることがなければ、その変化はますます広がり、形（＝肉体）がますます積み重なり、情がますますとどこおり、かくて累（＝煩惱）がますます深くなる。その患（わずら）いたるや、どうして言い尽くせようか。…（中略）…そもそも生は形（＝肉体）を桎梏とするが、その生は変化によって生じる。変化が情によってはたらけば、神（＝精神）はその本質を滯らせ、そして智慧はその光を暗くする」とあります。つまり「情」は、「累」や「患」をまねき、「生」や「化」のもととなる、というのです。「生」「化」とは輪廻転生のことで、

そこに滞っては涅槃に至れないのです。

25は、どうでしょうか。

25. 慧遠「沙門不敬王者論」第三章

是故、反本求宗者、不以生累其神。超落塵封者、不以情累其生。不以情累其生、則生可滅。不以生累其神、則神可能冥。冥神絶境、故謂之泥洹。

「だから、本質に返りおおもと（である仏道）を求める者は、生によってその精神を煩わせない。塵封（＝俗世）を超脱する者は、情によってその生を煩わせない。情によってその生を煩わせなければ、生は滅しうる（＝輪廻転生から脱しうる）。生によってその精神を煩わせなければ、精神は暗く静まることができる。精神を絶境（＝彼岸）に暗く静まらせる、ゆえにこれをねはんという。「泥洹」とは「涅槃」のことです。「情」によって「生」を「累」らわせなければ、「生」は「滅」し「神」は「冥」し、涅槃に至る、というのです。次の26も同じ事を言っています。

26. 慧遠「答何鎮南難袒服論」 『弘明集』卷五

超落世務者、不以情累其生。不以情累其生、則生可絶。

謝靈運と関わりの深い二人目は、27の竺道生（355頃～434）です。

27. 竺道生（一時慧遠のもとに居た、学識ある僧）と謝靈運

竺道生の唱えた新学説である「頓悟説」と「一闍提成仏説」に、謝靈運「弁宗論」「仏影銘并序」が全面的に賛同。

謝靈運「弁宗論」に「有新論道士（＝竺道生）以爲、寂鑒微妙、不容階級、積學無限、何爲自絶。……自許竊謂、新論爲然」。

謝靈運「仏影銘序」に「飛鶻有革音之期、闍提獲自拔之路。當相尋於淨土、解顔於道場。聖不我欺、致果必報」。

謝靈運「仏影銘」に「弱喪之推、闍提之役、反路今睹、發蒙茲覩」（＝闍提であっても、仏影を見れば正しい道に返り、蒙を啓く）。

竺道生「答王衛軍書」（『弘明集』卷十八）に「究尋謝永嘉（＝永嘉太守謝靈運）論、都無間然。有同似若妙善、不能不以爲欣」（竺道生も謝靈運の「論」を賞賛している）

27に記したとおり、竺道生は「頓悟説」つまり「悟りは一気にやってくるのであり、段階を経て到達するのではない」という説と、「一闍提成仏説」つまり「仏法を信じない極悪人でも仏になれる」という説を唱えました。この二つは、当時中国で翻訳されていた仏典には書かれていなかったため、竺道生は異端者として責められました。

しかしインド仏教の経や論は、初めからすべてが中国に伝わったわけではありません。インドから中国まで、長い距離と時間を経て、少しずつ伝わっては翻訳されるという形をとりました。だから頓悟説も一闍提成仏説も、当時はまだ伝わっていなかっただけで、その後伝わった仏典には、両方ともちゃんと書いてあったのです。

つまり竺道生は、当時伝わった部分的な記述をもとに考えを詰めていって、当時はまだ伝わっていなかったことまでをも論理的に推察した、非常に頭のいい人です。

そして注目されるのは、竺道生がまだ異端扱いされていた時に、謝靈運も同じように論理的に考えを詰めていって竺道生と同じ結論に達し、竺道生に賛成していることです。そのことは、上の27に挙げた謝靈運作の「弁宗論」と「仏影銘序文」に書かれてあります。竺道生も謝靈運を褒めていたことが、同じく27に挙げた竺道生の「王衛軍に答えた書簡」から分かります。謝靈運の仏典への理解力と論理的思考力は、竺道生の知己となりうるほどでした。ついでながら、竺道生の二つ目の「一闍提成仏説」は、日本に入ると鎌倉仏教の親鸞の「善人尚おもて往生をとぐ況んや悪人をや」になります。

28は、その頭のいい竺道生の見解です。

28. 竺道生の、維摩詰経弟子品「法無衆生、離衆生垢故」に対する、注

情不從理、謂之垢也。若得見理、垢情必盡。（大正蔵卷三八所収僧肇『注維摩詰經』所引）

「情が理に従わないこと、これを垢という。もしも理を見ることができれば、垢である情は必ず消滅する」。これは、先の19に挙げた謝靈運の「石門に新たに住む所を営む、四面は高山・迴溪・石瀨・脩竹・茂林なり」という長い題の詩にあった、「理来情無存」とまったく同じ認識です。

謝靈運と関わりの深い三人目は、29の宗炳（375～443）です。

29. 宗炳（在家信者で慧遠の高弟。山水画論「画山水序」の作者）

宗炳「明仏論」（『弘明集』卷二）に「昔遠和上（＝慧遠）澄業廬山、余往憩五旬。高潔貞厲、理學精妙、固遠流也」

沈約（441～513）編『宋書』卷九三隱逸伝宗炳伝に「妙善琴書、精於言理、每游山水、往輒忘歸。……乃下入廬山、就釋慧遠考尋文義」。

宗炳は山水画家で、謝靈運と直接交渉があった形跡は文献に出てきませんが、慧遠を媒介として謝靈運と繋がっています。30はその宗炳の残した「明仏論」という論文の一部です。

30. 宗炳「明仏論」

夫生之起也、皆由情兆。…（中略）……況今以情貫神、一身死壞、安得不復受一身、生死無量乎。

「そもそも生が起きるのは、すべて情からはじまる。…(中略)…ましていま情で精神を貫いていると、一つの肉体が死んで壊れても、どうしてさらにもう一つ肉体を受けて、生と死が限りなく続かないことがあり得ようか」。つまり「情」があると、死ねば再び「一身」を受け、「生死」という苦しい輪廻転生を「無量」につみ重ねなければならない、というのです。

31 も、同じ論文からの引用です。

31. 宗炳「明仏論」

識能澄不滅之本、稟日損之學、損之又損、必至無爲。無欲欲情、唯神獨映、則無當於生矣。無生則無身、無身而有神、法身之謂也。…(中略)…今以悟空息心、心用止而情識歇、則神明全矣。

「識が不滅の根本を澄ませ、日々に損するという学びを受けることができれば、損してさらに損し(=ひたすら損し続けて)、必ずや無為に至る。欲を欲する情が無くなり、精神だけが映(かがや)くので、生に当たるものが無くなるのである。(輪廻する)生が無くなれば肉体が無くなり、肉体が無くなって精神が存するのが、法身のことである。…(中略)…いま空を悟り心を息ませることによって、心のはたらきが止まり情と識とが歇(や)めば、精神の明るさが完全なものとなるのである。「生」が「無」と「身」が「無」く「神」のみ「有」る、これが「法身」だというのは、輪廻転生から脱したことを意味します。そして「空」を「悟り」「心」を「息」(や)ませれば、「心」のはたらきが「止」み「情」「識」がなくなり、「神明」が「全」くなる、これは涅槃の境地です。

さて、以上は、謝靈運に関係する人々の論文や書簡から彼らの認識を見たのですが、彼らのうち僧侶たちは、仏典の翻訳家でもあります。そこで32では、彼らの訳した仏典を見ます。そこには何が書いてあるか。なお「彼ら」の中には、仏駄跋陀羅(359~429。北インド出身の僧)と鳩摩羅什(344頃~413頃。父がカシ米尔人、母が亀茲人。来中して長安の仏教界を指導)も含めました。仏駄跋陀羅は、慧遠のもとにいた僧で、謝靈運と直接交渉がありました。鳩摩羅什は、慧遠さえもが教えを請うた、当時の大学者です。どちらも、当時仏教学に造詣のあった知識人には、看過できない大物です。

32. 竺道生・仏駄跋陀羅・鳩摩羅什の漢訳仏典

竺道生等訳『弥沙塞部和醴五分律』卷十五第三分之五衣法上に「於是世尊從鹿苑、漸漸遊行、到娑羅林、在樹下坐。去林不遠有一園觀、時有同友三十人、各將其婦於中遊戲、……方欲極情肆樂」(大正藏卷二二 P107)、「時彼衆中有一摩納(=青年婆羅門)、名賓祇耶、從坐起、偏袒右肩、胡跪合掌、白佛言『我欲以偈讚歎世尊』。佛言『隨意』。即便說之『……佛慧無不鑒、消滅陰謀情。能施世間眼、決斷諸疑惑』」(同 P135)。

仏駄跋陀羅訳『大方広仏華嚴經』卷五に「爾時覺首菩薩、以偈答曰『……眼耳鼻舌身、心意諸情根。因此轉衆苦、而實無所轉。法性無所轉、示現故有轉。於彼無示現、示現無所

有。眼耳鼻舌身、心意諸情根。其性悉空寂、虛妄無眞實。……」(大正藏卷九 P427) 同『達摩多羅禪經』卷上に「佛滅度後、尊者大迦葉・尊者阿難・尊者末田地・尊者舍那婆斯・尊者優波崛・尊者婆須蜜・尊者僧伽羅叉・尊者達摩多羅、乃至尊者不若蜜多羅、諸持法者、以此慧燈、次第傳授。我今如其所聞而說是義『……觸彼五境界、發動五情根。一切悉奇特、皆是快樂因。諸天共器食、隨福有差別。見此異色時、心則生憂惱。如是極愁慘、猶如地獄苦。……』(大正藏卷十五 P312)、また同經卷下に「佛說、無明爲初因、種三種業。……業起已、從是生識。……從識相續、起名色。……說爲名色二相、諸根既開、名爲六入。諸根始開、未有所作、於觸愚癡不知適與不適、如雨滲注水、水則泡起。情塵生觸、亦復如是。外刺刺身、觸從中起、亦如然燈油炷所成」(同 P323)。

同『摩訶僧祇律』卷三五に「佛住舍衛城、……佛言『從今日後、乞食法應如是。云何如是……應默然而立。不得左顧右視、使人生疑謂是賊細作。當攝六情、觀於無常。亦不得久住。……』」(大正藏卷二二 P512)、「佛住舍衛城。爾時諸比丘禪坊中坐禪、低仰而睡。……佛言『從今已後、應行禪杖。……行杖人不得隨瞋愛而求其過、當攝六情、一心思惟。若有睡眠者、應與彼取杖人、不得嫌恨、當作是念「彼今與我除陰蓋、益我不少」。……』」(同 P513)

鳩摩羅什訳『小品般若波羅蜜經』卷一「佛告須菩提『菩薩學阿耨多羅三藐三菩提、當如幻人學。何以故。當知五陰即是幻人。所以者何。說色如幻、說受想行識如幻、識是六情五陰』。『世尊、新發意菩薩聞是說者、將無驚怖退沒耶』。佛告須菩提『若新發意菩薩隨惡知識、則驚怖退沒。若隨善知識聞是說者、則無驚怖退沒』」(大正藏卷八 P538)

同『禪法要解』卷上「行者初來、欲受法時、師問『五衆戒淨已。……即應思惟「……我今學道、除剃鬚髮、被著法衣、盡其形壽、五欲情願、永離永斷。云何還復生著、甚非所宜、即令除滅、如賊毒蛇不令入室。……』」(大正藏卷十五 P287)、同要解卷下「若方便初習其門則有十事。……五者遠離。因此遠離、成不放逸。若近、五欲諸情開發。先常：身離聚落、次心遠離不念世事」(同 P294～295)

竺道生が訳した『彌沙塞部和醯五分律』は戒律書です。波線部分から分かるように、「情」は、女性を連れて淫らな遊びをする「三十人」が「極」めようとしている悪しきものであり、「仏の智慧」によって「消滅」させられるものです。

仏駄跋陀羅が訳した『大方広仏華嚴經』には、「眼・耳・鼻・舌・身や、心意という諸情の根となり、これによってすべての苦しみが転回する」、しかし「その本質は空で、虚妄で眞実ではない」とあります。

また『達摩多羅禪經』には、「五情の根を發動させると、……福によって差別があるのを見て、心に憂い悩みが生じる。このようにして愁慘を極め、ちょうど地獄の苦しみのよう」とあり、また「情と塵から触が生じるのも、このようであり、外のとげが身を刺し、触が中から起こり、灯油を燃やし灯心が作られるように止むことがない」とあります。

次の『摩訶僧祇律』は戒律書で、「六情を収斂して、無常を觀ぜよ」、「六情を収斂して、

一心に思惟せよ」とあります。

鳩摩羅什の訳した『小品般若波羅蜜經』には「六情五陰などの識は、幻のようなものだ」とあります。同じく『禪法要解』には「五欲情願は、永遠に離し断て。……賊や毒蛇を部屋に入らせないように」とあり、「情」は毒蛇扱いです。

最初に申し上げたように、もともと中国における「情」は、儒学の經典を拠り所として、詩歌に詠じるべきものとされてきました。しかしインドから入り、とくに5世紀以後貴族知識人の間に行きわたった仏教哲学のもとでは、「情」は塵や垢同然で、患いを生みだし、果てしなく苦しい輪廻転生のもととなり、涅槃に至ることを妨げる虚妄のもの、滅却すべきものとされました。この仏教の考えを一因として、中国に、「情」を詠じない「形似」の山水詠が生まれたと考えられます。

四 「詩言志」「詩緣情」の詩歌と「形似」の詩歌

唐代に入ると、33と34の王維(699~759)の作が注目されます。それらは、「志」や「情」をあらわす言葉を織りこまず、ただひたすら景のみを、五言四句20字に詠じています。

33. 王維「鹿柴」 『王維集校注』巻五

空山不見人、但聞人語響。返景入深林、復照青苔上。

34. 王維「辛夷塢」 同上

木末芙蓉花、山中發紅萼。澗戸寂無人、紛紛開且落。

33の「鹿柴」は「空山に人は見えない。ただ人の言葉が響くのが聞こえるだけ。夕日が深い林に入り、ふたたび青い苔の上を照らす」。34の「辛夷塢」は「こずえの芙蓉の花が、山の中で赤い萼を開く。谷川のほとりの家はひっそりと人もおらず、そこに紛々と開いては散る」。どちらも高校の教科書にも出てくる有名な詩で、17で折口信夫氏が指摘した、まさに「叙景に徹す」る作になっております。

王維は字が摩詰で、名前の「維」と合わせると「維摩詰」になります。「維摩詰」とは、仏典の維摩經に出てくる在家信者の名です。維摩詰は仏教に精通し、釈迦の弟子たちも彼にはかないません。その名前にあやかった王維は、熱心な仏教信者でした。

ただ唐代でも、王維のように「叙景に徹」した詩を書いた詩人はほとんどおりません。王維自身の詩でさえも、33や34のような「叙景に徹」した詩は、むしろ例外です。

では中国ではやはり、1から8に挙げたような、儒学經典から出た詩言志説や詩緣情説が主流で、12から15のような形似説はあだ花だったのか、というと、そうでもありません。35の杜甫(712~770)の詩をご覧ください。

35. 杜甫「曲江」二首其二 『杜甫詩注』第五冊

朝迴日日典春衣、每日江頭盡醉歸。酒債尋常行處有、人生七十古來稀。

穿花蛺蝶深深見、點水蜻蜓款款飛。傳語風光共流轉、暫時相賞莫相違。

吉川幸次郎氏の訳で読みます。「役所のかえりみち いつの日も春の上衣を質におき、毎日川っぶちで 酔いつぶれて帰る。バアの借り かねてよりいたるところにあれど、人間のいのち七十までは昔から稀。花くぐる胡蝶ふかぶかと見はるかされ、水つつくとんぼう ゆるゆると飛びたつ。風景よ きみへの頼みは一しょの流転、しばしの仲よし そつぽむけまじ」。尾聯の「伝語風光共流轉、暫時相賞莫相違」は、詩人の心を詠じた言志の句です。しかしその直前にあってこの詩の中核となっている「穿花蛺蝶深深見、点水蜻蜓款款飛」はどうでしょう。ここには情や志の言葉が織りこまれず、これまで用いられたことのない措辞で、描かれたことのない風景が詠じられています。新鮮で繊細で精緻で明媚な、まさしく「形似」の句です。5世紀に仏教思想によって生まれたと考えられる形似説は、このように部分的にしっかりと、中国文学の中に組み込まれました。

とはいえ、中国で「形似」の句が詩篇全体を掩うことはなく、飽くまでも部分的でした。これに対し、36のような、松尾芭蕉（1644～1694）に始まる江戸後半期の俳句を見ていると、むしろ日本で形似説が生きたのではないかと思われまます。

36. 松尾芭蕉と与謝蕪村（1716～1783）の俳句

芭蕉 ^{さみだれ} 「五月雨をあつめて早し最上川」	『芭蕉文集』所収「おくのほそ道」
同「古池や蛙 ^{かはつとび} 飛こむ水のをと」	『芭蕉句集』
蕪村「菜の花や月は東 ^{ひがし} に日は西 ^{にし} に」	『蕪村集 一茶集』

どちらにも「志」や「情」の言葉は詠みこまれず、「叙景に徹」しています。

では、日本の俳諧で形似説が生きたのは何故か。

第一には、儒学經典の影響力が、中国ほど強くなかったからでしょう。芭蕉も儒学はしっかり勉強していますが、しかし科挙という儒学經典の試験制度があった中国士大夫階層とは、勉強量がくらべものになりません。

第二に、日本の鎌倉時代から江戸時代にかけての武士階級には、仏教、とくに禅宗の影響が色濃く、それが往々儒学を凌駕していたせいでしょう。日本の知識人には、仏教とくに禅の発想がより身近だったのです。

第三には、日本の俳諧がきわめて短いためでしょう。中国古典詩の本流である律詩は、1篇が40字以上、しかも1字が1つの意味をあらわすので、きわめて密度が濃厚です。しかし俳諧は、わずか17音、しかも複数の音がやっと1つの意味となるので、言葉の密度という点では、律詩が上です。俳句の1首が中国の律詩の中の1句に当たるか、当たらないかというところでは、律詩が上です。

とはいえ、日本にも「詩言志」説の流れを汲む俳句があります。たとえば、37の小林一茶（1763～1827）。

37. 一茶「瘦蛙まけるな一茶^{これ}是^(すみか)に有り」 『蕪村集 一茶集』
同 「是^(これ)が^(すみか)まつひの 栖 か雪五尺」 同上

ただ日本では、詩言志説の流れを汲む俳句の方が、形似説の流れを汲む俳句よりも、どこかユーモラスな軽みを帯びている気がします。中国の詩言志説の詩歌は、そんなことはありません。これはなぜなのか、残念ながらまだ考察できておりません。

38 には江戸時代のあと、明治時代の正岡子規（1867～1902）の俳句と短歌を挙げます。

38. 正岡子規の俳句と短歌 「写生」説による。

子規「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」 『子規全集 第二巻』所収「寒山落木」巻四（明治二十八年秋）

同 「瓶にさす藤の花ぶさみじかければたゞみの上にとゞかざりけり」 『竹の里歌』（明治三十四年）

子規は芭蕉を批判していますが、彼の写生説は、形似説の流れを汲んでいると考えられます。その点で、子規と芭蕉は深いところで通じています。

五 まとめ

以上を簡単にまとめると、次のようになります。右端の算用数字は、以上に所掲の資料番号です。まとめの下に、引用文献リストを添えました。

ご静聴、まことにありがとうございました。お忙しい中司会の労を賜った丁鋒先生には、特に感謝申し上げます。

- 一 儒学經典の「詩言志」説とそれを受けた「詩縁情」説
 - 儒学經典の「詩言志」説 1～4
 - 中国での実例と「詩縁情」説 5～8
 - 日本への波及 9～11
- 二 5世紀に出現した変化——「形似」の詩句の登場——
 - 5世紀の「形似」説 12～13
 - 中国での実例 14～15
 - 日本への波及 16～18
- 三 5世紀の変化の原因は？——仏教哲学に由来する「情」認識——
 - 謝靈運の「情」認識 19～22
 - 謝靈運に深く関わる人々の「情」認識 23～31
 - 謝靈運に深く関わる人々が翻訳した漢訳仏典の「情」認識 32
- 四 「詩言志」「詩縁情」の詩歌と「形似」の詩歌

中国での実例 33～35

日本への波及 36～38

【引用文献】

『重栞宋本十三經注疏 附校勘記』、藝文印書館、1976年第6版。

『大正新脩大藏經』卷八・卷九・卷十五・卷二二・卷三八・卷五〇・卷五二、大正新脩大藏經刊行会、1960年～1975年。

『日本足利學校藏宋刊明州本六臣注文選』（宋版影印本）、人民文学出版社、2008年。

参照：『文選』（南宋尤袤刻文選李善注六十卷本影印本）、石門圖書有限公司、1976年。

顧紹柏校注『謝靈運集校注』、中州古籍出版社、1987年。

陳鐵民校注『王維集校注』、中華書局、1997年。

吉川幸次郎注『杜甫詩注 第五冊』、筑摩書房、1983年。

范文瀾註『文心雕龍註』、商務印書館香港分館、1960年。

佐佐木信綱編輯代表『校本萬葉集』二～四、岩波書店、1977年新增補版。

西下経一・滝沢貞夫編『古今集校本』、笠間書院、1977年。

『松平文庫影印叢書第18巻』所収松平黎明会編集「千載佳句」、新典社、1997年。

佐藤道生『三河鳳来寺旧蔵曆応二年書写 和漢朗詠集 影印と研究』、勉誠出版、2014年。

杉浦正一郎・宮本三郎・荻野清校注『芭蕉文集 日本古典文学大系46』、岩波書店、1959年。

大谷篤藏・中村俊定校注『芭蕉句集 日本古典文学大系45』、岩波書店、1962年。

暉峻康隆・川島つゆ枝校注『蕪村集 一茶集 日本古典文学大系58』、岩波書店、1959年。

正岡忠三郎編者代表『子規全集 第二巻』、講談社、1975年。

名著復刻全集編集委員会『正岡子規著「竹の里歌」俳書堂版』、ほるぷ、1981年。

折口博士記念古代研究所編『折口信夫全集 第一巻』、中央公論社、1965年。

汉语方言“什么”类疑问词列举用法的类型与分布
Types and Distribution of Enumerate Sentences with Interrogative Word in Chinese
Dialects

趙 葵欣
ZHAO Kuixin

要旨 趙葵欣(2020a)の研究により事物をたずねる疑問詞を用いる列举表現が、英語や日本語と比べ、Mandarinでは特によく使われることが分かった。本論は現代中国語方言に視線を向け、フィールドワーク及びアンケート調査のデータに基づいて、81種類の中国語方言における *what* 類疑問詞を用いる列举表現のタイプと分布を考察した。現代中国語方言では *what* 類疑問詞を用いる列举用法が幅広い範囲で使用され、その中40%の方言は疑問詞を列举項目の前に置く前置型と、疑問詞を列举項目の後に置く後置型の両者が用いられ、1つのタイプしかない方言では前置タイプが後置タイプよりよく使われる。また官話グループは他の方言より疑問詞を用いる列举表現をより使い、南方になるほどこのような表現は少なくなる傾向があると結論を得た。

关键词 列举表现 疑问词 什么 汉语方言 类型与分布

目次

一、研究背景及研究目的

二、调查内容、方法及相关资料

三、调查数据分析

四、相关问题讨论

五、小结

参考文献

附录一 追加调查问卷

附录二 《现代汉语方言大词典》(南京:江苏教育出版社,1993年~2003年出版)分卷目录

一、研究背景及研究目的

现代汉语普通话里询问事物或性质的疑问词“什么”在口语中可以用来表达列举,如:

(1) 什么花儿呀草呀，种了一院子。（《现代汉语八百词增订本》：484）

(2) 货架上放满了白菜、萝卜、柿子椒什么的。（同上）

这里的疑问词“什么”有两种句法位置，一种是居于列举项之前，如例（1）；一种是居于列举项之后，如例（2）。赵葵欣（2020a）将之分别称为前置型和后置型。前置型里“什么”和列举项之间没有语音停顿，也就是说不是“什么/滑冰啦，游泳啦，打乒乓球啦，他都喜欢”，而是“什么滑冰啦，/游泳啦/……他都喜欢”。如果在“什么”之后有语音停顿的话，“什么”应看作插入语，不在本文讨论范围之内。后置型列举用法一般需与“的”连用，构成“A、B……什么的”形式。这两种列举形式都有各自的句法要求，比如前置型中列举项必须是多项列举，而后置型允许单项列举等，赵葵欣（2020a）已有详细研究，此处不赘。

除了普通话以外，现代汉语方言中也有类似用法，如^①：

(3) 吃了好多菜，什么海参、虾仁、蹄筋……（《南京方言词典》：348）

(4) 上街买点萝卜、白菜、藕么事的。/桌子高头瓶子、茶壶、碗么事的一大堆。（《武汉方言词典》：108）

(5) 什毛煮饭、洗衣裳、做卫生，伊都会做。/依人们讲五月节屈原边搨水吼，着要去扒龙船什毛/就是唱歌、跳舞什毛。（《福州方言词典》：407）

(6) 么伢搞柴啊，割草啊，渠都做过。/搞饭，挑水，扫地，洗衣裳么伢的，一日忙到夜。（《绩溪方言词典》：280）

赵葵欣（2020a）曾就这种疑问词表列举的用法做过跨语言的对比研究，通过与英语、德语、意大利语、日语、韩国语等十五种语言的比较发现，用疑问词表列举的用法在汉语中更常用，且同时有前、后置两种类型也是很特殊的。为了更深入地了解汉语这一用法的特点，本研究将视线转向汉语方言，在现代汉语这一整体概念下，考察官话、晋语、吴语、粤语、闽语、湘语、客家话、赣语、徽语、平话这十大方言中“什么”类疑问词表列举的使用情况^②。由于各方言中相当于普通话“什么”的疑问词词形并不相同，如西南官话武汉方言中为“么事、么”；晋语灵石方言为“甚”；闽语海口方言为“乜”等，因此以下统称为“什么”类疑问词。

本文主要考察“什么”类疑问词列举用法在现代汉语方言中是否具有普遍性、在句法上是否也存在两种类型、各种类型在方言里的分布情况及特征。同时也希望了解汉语方言中“什么”类疑问词列举用法与该疑问词的其他派生用法是否存在相关性；前置型、后置型列举用法之间是否具有衍生关系等问题。这些问题的明了将会帮助解释“什么”类疑问词列举用法的来源，也会对完善疑问词语义系统发展的建构提供直接支持。

二、调查内容、方法及相关资料

2.1 田野调查

^① 例句中下划线部分为各方言中该当疑问词，下划线词典原文无，为笔者所加。这套词典原文为繁体字，本文引用时一律改为简体。下文同。

^② 关于汉语方言分区，传统分为七大方言区，分别是官话、吴语、湘语、赣语、粤语、闽语、客家话。但是随着研究的深入晋语、徽语和平话分别被独立出来，现在十大方言的分区结果已为学界公认，本文的研究采亦用这一分类结果。

为了研究“什么”类疑问词在各方言中的列举用法,笔者从2019年7月到2020年3月期间进行了两次调查。第一次为面对面口头调查,调查时间为2019年7月底-8月中旬,调查对象主要是高校教师和学生,年龄分布为二十多岁至五十多岁。调查的方言涵盖官话、晋语、吴语、粤语、闽语、湘语、赣语、客家、平话九大方言区,涉及六十三个方言点^③。

具体实施步骤如下:给被调查者看普通话里前置型“什么A、B……”和后置型“A、B……什么的”例句^④,询问在被试方言中的表达方式,如果被试显示出犹豫,调查者则放弃例句,重新设置情境请被试回答在具体语境下方言中如何表达多种事物的列举。并在最后将笔者的理解用语言表达出来,请被调查者进行最终确认。

2.2 问卷调查

第二次调查为追加调查,采用网络问卷形式,具体使用的是腾讯问卷系统,所用问卷见附件一。调查时间为2020年2月-3月。调查对象以第一次被试为主,但为了获得更详细的说明或旁证某些例句,也询问了相同方言点的其他被试。问卷调查年龄段包括七十岁以上的母方言者。

问卷调查的主要目的是扩展调查内容,对“什么”类疑问词在某一方言点中非疑问用法做更为全面的把握。关于“什么”类疑问词的功能,本文以现代汉语共同语普通话为参照,根据吕叔湘主编(1999:483-485)、刘月华、潘文娉、故鞲(2019:102-105)和《现代汉语词典》(第7版:1161)的研究和记录,将其整理为疑问用法、任指用法、特指用法、虚指用法和各种语气用法。具体说明及例句如下(例句引自吕叔湘主编1999:483-485):

疑问用法:你找什么?他喜欢什么工作?

任指用法:他什么嗜好也没有。/休息的时候最好什么也不想。

特指用法^⑤:准备了什么节目就演什么节目。

虚指用法:她手里好像擦着个什么。

语气用法^⑥:这是什么玩意儿!一用就坏了!/你在这儿乱翻什么!/什么!都九点了,咱们得马上动身了。

这些用法里,表语气的各种用法是超越句法的语用层面的问题,笔者认为跟本文讨论的列举用法关系不大,因此追加调查主要调查各方言点的“什么”类疑问代词是否有任指、虚指、特指用法,下文如无需具体区别这三者时统称为“什么”类疑问词的非疑问用法。

第二次调查共回收有效问卷二十四份,涉及方言及方言点如下:

官话:冀鲁官话石家庄方言

胶辽官话沂水、威海方言

兰银官话兰州、宁夏方言

西南官话成都、重庆、武汉、沙市方言

^③ 有的方言点比如泉州有四位被调查者,统计时按一个方言点统计。

^④ 调查例句为:①什么苹果、梨、桔子我都喜欢吃。②货架上放满了白菜、萝卜、青椒什么的。

^⑤ 吕叔湘主编(1999)将这种用法归在“表示任指”里,笔者将其独立列为“特指”用法,因为至少从句法来看,这种用法是一定要前后套用的,与任指用法明显不同。

^⑥ 语气用法里包括了吕叔湘主编(1999:483-485)里提到的否定、反驳、惊讶等用法。

江淮官话安庆方言

晋语：灵石方言、太谷方言

吴语：绍兴嵊州方言、温州方言

闽南语：潮汕片揭阳方言

客家话：江西瑞金方言

2.3 现有研究成果

除了以上两次调查获得的一手资料以外，本研究还利用了《现代汉语方言大词典》（李荣主编，江苏教育出版社）关于各方言“什么”类疑问词的用法描写和研究成果。《现代汉语方言大词典》涉及四十二种方言，具体目录及各方言归属详见附录二。

三、调查数据分析

两次调查及《现代汉语方言大词典》的记录补充共得到八十一个方言点的有效数据。这八十一个方言点具体如下表一。

表一 调查点方言分布统计表

方言区		方言点数目		方言区	方言点数目
官话	冀鲁官话	3	40	湘语	8
	胶辽官话	5		吴语	5
	西北官话	4		闽语	10
	东北官话	2		客家话	4
	中原官话	6		赣语	3
	西南官话	14		粤语	3
	江淮官话	6		徽语	1
晋语		6		桂南平话	1
				总计	81

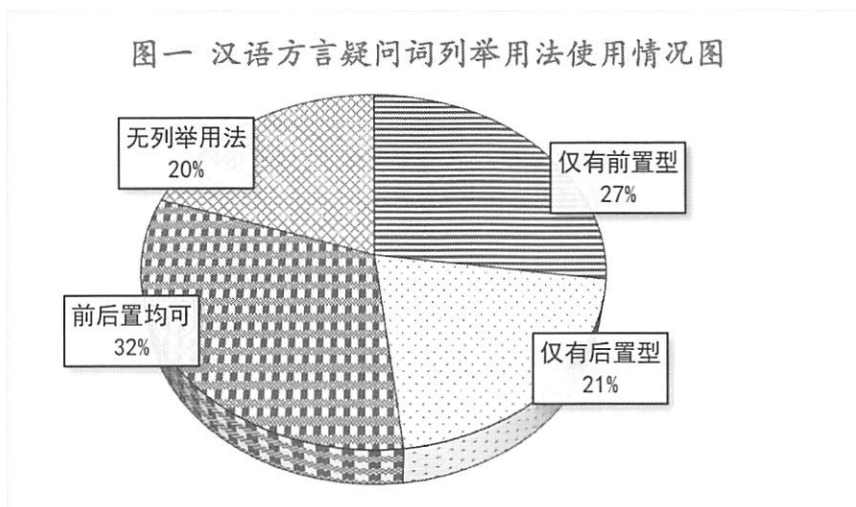
以下将首先从总体上对这八十一个方言点的数据进行分析，然后考察南北方言的差异，最后作几个个案分析。

3.1 总体数据分析

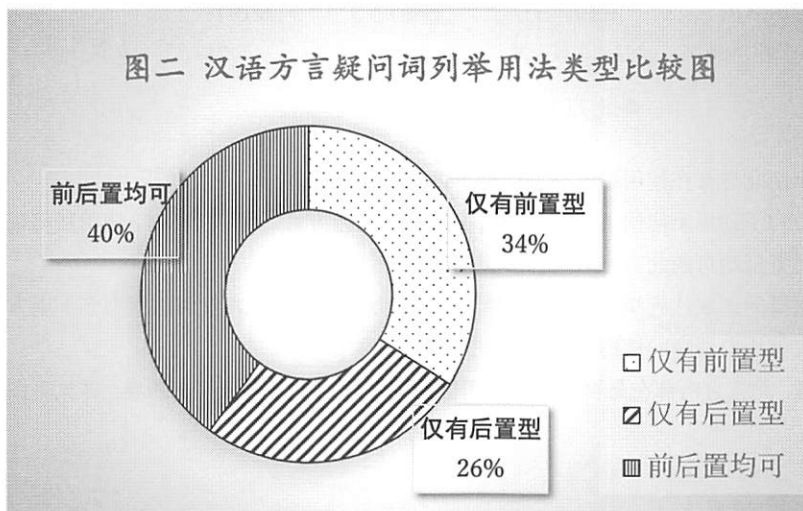
在调查的八十一种汉语方言中有六十五种方言里有疑问词列举用法，占80%。只有十六个方言点无疑问词列举用法，分别是：山东烟台（胶辽官话）、安徽庐江（江淮官话）、贵州遵义（西南官话）、广西桂林（西南官话）、山西太谷（晋语）、长治（晋语）、福建泉州（闽南语）、广东汕头（闽南语）、海南海口（闽语）、湖南岳阳临湘（湘语）、衡阳（湘语）、江西赣州瑞金（客家话）、福建上杭（客家话）、广东新丰（客家话）、广东梅州（客家话）、广西玉林（粤语）。

所有调查数据中无疑问词列举用法、仅有前置型用法、仅有后置型用法和前后置型均可的

比例情况见图一。



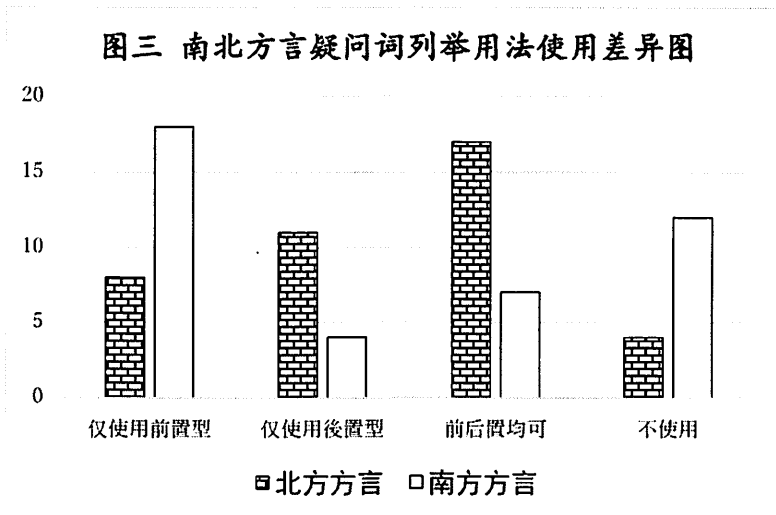
而在具有“什么”类疑问词列举用法的六十五种方言里，仅有前置型、仅有后置型和两种类型均有的方言点比例为图二。



从图二来看，在有疑问词列举用法的情况下，前置型和后置型均使用的方言占了近一半（40%），而如果只有一种疑问词列举用法的话，仅用前置型的方言点要略多于仅用后置型的方言点。也就是说，如果一种方言只有一种疑问词列举用法的话，使用前置型“疑问词 A、B……”的可能性更大一些。

3.2 南北方言差异

如表一所示,本次调查的有效数据虽有八十一个方言点,但各方言分区的方言点数目并不平衡,因此不适合作各方言间的比较。但是如果将官话方言作为一组,其余方言都看作另一组的话,方言点数目为官话方言四十,非官话方言四十一,基本平衡而有了可比性。基于这样的数据,以下考察官话方言与非官话方言在疑问词列举用法方面表现出的差异,主要包括: I. 是否能使用“什么”类疑问词来表达列举; II. 如果使用的话,是用前置型还是后置型,亦或两者皆可。为行文方便,以下将官话方言称为广义的北方方言,而将其对比组称为南方方言。考察结果如图三。

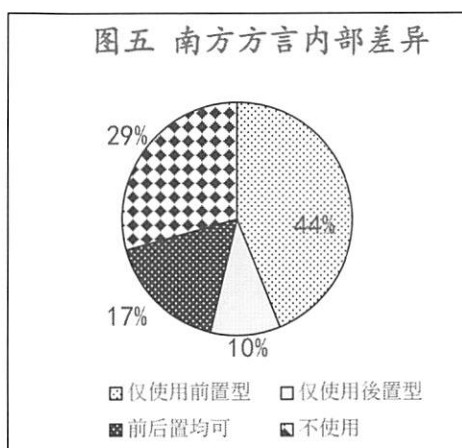
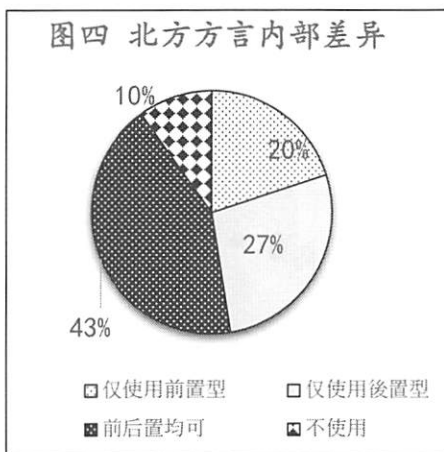


图三显示南北方言在使用疑问词表达列举方面确实存在差异,主要表现为:

- A. 南方方言不使用疑问词表达列举的情况远多于北方方言。而与之相对,使用疑问词表达列举且前、后置型均可的北方方言明显多于南方方言。
- B. 在使用疑问词表达列举,但仅有一种形式的情况下,北方方言仅用后置型多于南方方言,而南方方言仅使用前置型的情况远多于北方方言。

此外,南、北方言内部在是否和如何使用疑问词表达列举方面也存在差异,详见下图四和图五^①。

^① 图四、图五中的百分比是以南北方言各自所有方言点(官话方言四十,南方方言四十一)为基数的数值。如果官话方言和南方方言各自将不使用疑问词列举的方言点除去,那么北方方言中仅前置型、仅后置型与两可型比例为:22.2%、30.6%和47.2%。南方方言三种类型比例分别为:62.1%、13.8%和24.1%。



由图四、图五可知：

C. 本次调查的北方方言里 90%可以使用“什么”类疑问词表列举，而没有疑问词列举用法的方言仅为 10%。而且在有这种用法的方言中，前后置型均有的情况远远多于仅有前置或仅有后置型的方言。这说明北方方言总体上倾向于有疑问词列举用法，且有两种类型，既用“疑问词 A、B……”，也用“A、B……疑问词”。

D. 南方方言中不使用疑问词表列举的方言占了差不多 30%，而即使用疑问词表列举，也主要倾向于使用前置型，后置型非常少，前后置两种类型均可的方言点比例不足 20%。也就是说南方方言虽然也用“什么”类疑问词来表达列举，但不如北方方言普遍，而且主要类型为前置型。

综上所述，从总体上看汉语北方方言倾向有使用疑问词表达列举的用法，而且具有前、后置两种形式的情况普遍。如果仅使用一种疑问词列举形式时，南方方言倾向于使用前置型“疑问词 A、B……”，而北方方言倾向于使用后置型“A、B……疑问词”。由此可见，官话方言和南方方言在“什么”类疑问词列举用法方面确实存在显著差异。这也说明本文将官话方言与其他方言归为两类来进行比较是可行的。

最后将所有调查数据使用 ArcGIS Online 工具绘制成语言地图如下。

图六 汉语方言“什么”类疑问词列举用法类型及分布图



3.3 个案分析

下面进行几个简单的个案分析，主要是呈现一些例句以补充仅有数据的不足。根据前文的分析，现代汉语方言中“什么”类疑问词列举用法存在四种情况——仅用前置型、仅用后置型、前后型均可和前后型均不可。以下在这四种类型中各选择一个方言点作个案分析。个案分析中还将考察该方言中“什么”类疑问词的非疑问用法，即任指、特指和虚指用法的使用情况，以探讨这些派生用法与列举用法是否存在相关性。选择以下的方言点主要是因为文献资料描写全面或调查数据更完整，并不涉及典型性和代表性^⑥。

3.3.1 仅前置型：客家话江西瑞金方言^⑦

瑞金客家话“什么”类疑问词为“乜”，具体用法如下：

(7) a. 底个系乜[me⁴⁴] 这是什么？

^⑥ 是否具有典型性或有代表性需要对更多数据进行详尽考察，本文的八十一个方言点还不足以得出概括性结论。留待今后做更进一步的研究。

^⑦ 以下方言例句被调查者用同音字代替情况较多，引用时不更改。方言难懂例句在句末用小字标注普通话说法。

b. 底(个)系乜菜这是什么菜?

(8) 我班食多子乜再去看电影[θa²⁴] 我们吃点儿什么再去看电影吧。

(9) 有乜食乜, 让般都做得有什么吃什么, 随便。

(10) 冰箱坳乜(鬼)都毛休, 走去外头食冰箱里什么都没了, 去外面吃吧。

(11) 我欢喜食水果, 乜苹果、橘子、梨咁个我喜欢吃水果, 什么苹果、桔子、梨(啦), 都爱吃。

(12) 桌子坳乜(鬼)乱七八糟, 书、本子、笔放哩哪都系桌子上乱七八糟, 书、本子、笔什么的到处都是。

例(7)是一般疑问用法, 例(8)-(10)分别是虚指、特指和任指用法的例子。例(11)“乜”在列举项前表列举, 而例(12)调查例句是列举项后用疑问词表列举的形式, 但被调查者转述该句时并未用疑问词, 且表示方言中无类似表达。

3.3.2 仅后置型: 冀鲁官话河北无极话

无极话的“什么”类疑问词为“嘛”。具体用法有:

(13) a. 这是嘛? 这是嘛耶?

b. 这是嘛菜耶? 这是嘛菜焉?

(14) 我们吃点儿嘛再看电影去吧。

(15) 有嘛吃嘛(昂), 随便儿。

(16) 冰箱里嘛也没噠, 上外头吃去吧。

(17) 我好吃水果, 苹果、橘子、梨呀嘛哩, 都好吃。

(18) 桌(子上)烂七八糟哩, 书、本儿、笔呀嘛哩任哪都是。

例(13)是一般疑问用法, 包括作宾语和作定语。例(14)-(16)分别是虚指、特指和任指用法。最后两例(17)、(18)是列举用法。调查例句(17)的原句是前置型, 但被调查者使用了后置型来转述该句。这与对面调查的结果一致, 即该方言不用疑问词前置型表列举。

3.3.3 前后型均可: 西南官话武汉方言

武汉方言“什么”类疑问词为“么事、么”。“么”仅用于定语位置。具体用法有:

(19) a. 这是么事?

b. 这是么菜?

(20) 吃点么事再去看电影咧。

(21) 有么事吃么事, 随便。

(22) 冰箱窠里随么事都冒得了, 去外面吃去。

(23) 我蛮喜欢吃水果, 么事苹果啊、橘子啊、梨都喜欢吃。

(24) 桌子高上烂七八糟, 书啊、本子、笔么事的到处都是。

例(19)是典型疑问用法, 但是做定语时用“么”。“么事”还有虚指、特指和任指用法(例20-22), 同时也有列举用法。而且既可以前置(例23), 又可以后置(例24)。也就是说武汉方言的“么事”非疑问派生用法和列举用法均有。

3.3.4 前后型均不可: 闽南语海口方言

闽语海口方言“什么”类疑问词是“乜[mi⁵⁵]”, 具体用法有:

- (25) a. 者是乜这是什么?
 b. 汝问乜事你问什么事?
 (26) 伊依像谈论乜他们好像在谈论什么。
 (27) 乜种出乜秧什么种子出什么秧。
 (28) 伊乜都无惊他什么也不怕。

例(25)是一般疑问用法,例(26) - (28)分别为虚指、特指和任指用法。但是“乜”不能用来表达列举。

仅就这四个方言点的个案来看,在各方言里“什么”类疑问词都有三种非疑问派生用法,但是在是否有列举用法时,却表现出明显差异。由此可见仅就本次的调查数据,难以判断列举用法与“什么”类疑问词的其他派生用法有直接关联。

四、相关问题讨论

4.1 “什么”类疑问词表达列举时的功能差异

本次的调查显示,在有些方言里“什么”类疑问词表达列举时,即使是前置型也必须与其他语言成分共现。如吴语温州话、西南官话建始话、晋语灵石话等。例句如下:

- (29) 我爱吃水果,像着苹果啊、桔子啊、削梨啊,沃爱吃。(吴语瓯江片温州永嘉县)
 (30) 像么子苹果、桔子、梨,……。(西南官话建始方言)
 (31) 我喜欢吃水果,甚的苹果桔子梨了叭,都爱吃。(晋语灵石话)

例(29)、(30)的被调查者都特别强调疑问词前强制出现“像”,即“像+疑问词 A、B……”形式。例(31)的晋语灵石话很有意思,前置型“甚的”(疑问词定语形式)强制性的在列举项后出现“了叭”。“叭”是灵石方言里的一个后缀,比如“白白叭白白的、灰灰叭灰灰的、汤汤叭汤汤水水的”等(高晓莉 2015: 158-159),至于“了”笔者认为大致相当于普通话的“啦”。对于这些必须与疑问词共现的成分,被调查者都有非常明显的语感,即没有这些语言成分的话,仅仅“什么”类疑问词句子就无法成立。笔者认为,这种情况可以理解为疑问词本身并没有完全承担表达列举的功能,至少可以说表达列举的功能尚需由如“像、啦、的”等语言形式配合才行。这表明在这些方言里前置型疑问词列举用法还不成熟,很可能是发展过程中的一种形式。

4.2 后置型列举用法的倾向性共性

汉语方言中前置型疑问词列举用法在成熟后,可以不需要任何其他词汇手段即可用来表达列举,这是更多方言所表现的倾向。而后置型除了疑问词以外,各方言点一般都仍需要借助其他的词汇手段,即必须用“A、B……疑问词+其他词语”才能表达列举,如前例(4)、例(6)斜线后例句、例(17)、例(24)。不过其他词汇手段不一定都在疑问词后,如下面上海话的例子中“啫”居于列举项之后疑问词“啥”之前:

- (32) 菜、鱼、肉啫啥价比上海贵。(黄伯荣主编 1996: 513)
 (33) 绣花啫啥蛮灵个。(黄伯荣主编 1996: 514)

但无论如何,后置型疑问词列举形式需要其他词汇手段这一点在本次调查的各个方言点中表

现出相当的一致性。而赵葵欣(2020a)的研究也显示,在英语和日语的“什么”类疑问词列举用法中,后置型也都需要另外的词汇手段。比如英语要说 *and what have you; and what not*、日语のなど、なんか从语源上来说是由疑问词なに+と而来。这是一个很有意思的语言共性,尚需解释。

但是本次考察的数据里,有一个例外就是福州话,前文例(5)的后面一部分再引如下:

(34) 依人们讲五月节屈原[㊦]掉水吼,着要去扒龙船[㊦]什[㊦]。

(35) 就是唱歌、跳舞[㊦]什[㊦]。(《福州方言词典》:407)

这两例很特别,后置型是光杆疑问词“什[㊦]”,并无其他语言成分与之配合使用。但是目前这样的例子只确认到这一个方言点,尚需更多的调查和资料证明。

4.3 疑问词列举用法的其他表现

在南方方言粤语的一些方言点,能观察到用疑问词重叠来表列举的现象,如:粤语广州话,“什么”类疑问词“乜”可以用重叠式“乜乜物物”表示“这个那个的、等等”(《广州方言词典》p.443)。东莞话也有类似现象。疑问词“乜(嘢)”也可以重叠为“乜乜物物”,表达“这样那样、等等”的意思(《东莞方言词典》p.247)。例句如下^③:

(36) 佢唔想去啫,又讲佢肚痛,又脚痛,乜乜物物。《广州方言词典》

(37) 买敲猪肉、鱼、青菜,乜乜物物一大堆。《东莞方言词典》

这是否成为南方方言,特别是粤语中后置型列举用法更少见的一个原因,由于相关方言点的疑问词及更多关联性用法描写不够全面,尚无法得出可靠结论,仅作为观察到的一个现象列与此,期待有进一步的研究。

4.4 关于前后置型列举用法的相关性

从本次对八十一个方言点的调查结果来看,疑问词前置型列举用法与后置型并无直接相关性。也就是说并没有发现无前置型就必然无后置型,或与之相反的情况。这也说明用疑问词表达列举的前置型和后置型在发展上可能并无继承关系,因此认为“A、B……什么的”列举用法来源于“什么A、B……”的说法是不可靠的(卢惠惠2012)。前置型“什么A、B……”的产生及语法化过程,卢惠惠(2012)和赵葵欣(2020b)的研究已经基本清楚,但后置型“A、B……什么的”的来源尚需探讨。

五、小结

本文在田野调查并现有研究成果基础上,考察了现代汉语十大方言区八十一个方言点里“什么”类疑问词表列举用法的类型及分布情况。在被调查的八十一种汉语方言中80%的方言有用“什么”类疑问词表达列举的用法,不能用疑问词表列举的方言仅为20%。这说明使用疑问词表列举在现代汉语方言口语中具有普遍性。在使用疑问词表达列举的方言里,有近一半的方言点具有前置、后置两种类型,而在单一型方言中,前置型比后置型更加普遍。

^③ 下加点文字(词典原文为下加圈)表示该字非本字,为同音替代字。

官话方言和非官话方言在疑问词列举用法的分布和类型上存在明显差异，官话方言总体上更倾向于使用疑问词列举用法，且有两种句法形式，即疑问词前置于列举项或后置于列举项均可使用。而非官话方言有近三成不使用疑问词列举用法，特别从图六的语言地图来看，不使用疑问词表列举的方言越往南分布越多，表现出南方方言特别闽语和粤语少用疑问词表列举的倾向。另外，本次研究还观察到汉语方言中使用疑问词表列举时功能上有强弱之别，一些方言中前置型列举用法也需有其他词汇成分共现。而后置型用法一般均需有其他词汇手段辅助，这一点在各种方言之间表现出相当的一致性。

本次研究还考察了部分方言中“什么”类疑问词的其他非疑问用法——虚指、特指、任指的使用情况，但现有数据无法确认列举用法和其他这些派生用法之间的关联性，而且从本次研究的结果来看，前置型和后置型列举用法之间无衍生关系，所以关于后置型即普通话中“A、B……什么的”类列举用法的来源尚需探讨。

参考文献

- 高晓莉 2015.《灵石方言研究》，太原：北岳文艺出版社。
- 黄伯荣主编 1996.《汉语方言语法类编》，青岛：青岛出版社。
- 刘月华、潘文娉、故韡 2019.《实用现代汉语语法（第三版）》，北京：商务印书馆。
- 卢惠惠 2012.列举义构式“什么 X”与“X 什么的”来源考察，《语言研究集刊》第 9 辑：251-260 页。
- 吕叔湘主编 1999.《现代汉语八百词（增订本）》，北京：商务印书馆。
- 赵葵欣 2020b. 现代汉语“什么 A、B……”列举用法来源考——“什么”从反诘到列举的语法化，【中国言语文化研究】（9）：105-114 页。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2016.《现代汉语词典》（第 7 版），北京：商务印书馆。
- 赵葵欣 2020a. 疑問詞を用いる列举表現について—現代中国語の「什麼 shenme」を中心に—，『語学教育研究論叢』（37），1-14 頁。

附录一 追加调查问卷

What（什么）类疑问词用法调查

1. 您的方言点（如：西南官话武汉方言，也可仅填地名）：

2. 这是什么？

方言说法：_____

3.（看见一种不认识的蔬菜，问）这是什么菜？

方言说法：_____

下面这些句子也可以用上面相同的疑问词（什么）来表达吗？

可以请写出方言说法，不行请写“不”。

4. 我们吃点儿什么再去看电影吧。

方言说法：_____

5. 有什么吃什么，随便。

方言说法：_____

6. 冰箱里什么都没了，去外面吃吧。

方言说法：_____

7. 我喜欢吃水果，什么苹果、桔子、梨（啦），都爱吃。

方言说法：_____

8. 桌子上乱七八糟，书、本子、笔什么的到处都是。

方言说法：_____

附录二 《现代汉语方言大词典》（南京：江苏教育出版社，1993年~2003年出版）分卷目录

崇明方言词典	张惠英	吴语 太湖片
苏州方言词典	叶祥苓	吴语 太湖片
长沙方言词典	鲍厚星、崔振华、沈若云、伍云姬	湘语 长益片
厦门方言词典	周长楫	闽语 闽南片
娄底方言词典	颜清徽、刘丽华	湘语 娄邵片
西宁方言词典	张成材	中原官话 秦陇片
太原方言词典	沈明	晋语 并州片
贵阳方言词典	汪平	西南官话 昆贵片
南昌方言词典	熊正辉	赣语 昌靖片
武汉方言词典	朱建颂	西南官话 武天片
梅县方言词典	黄雪贞	客家话 粤台片
乌鲁木齐方言词典	周磊	兰银官话 北疆片

南京方言词典	刘丹青	江淮官话 洪巢片
丹阳方言词典	蔡国璐	吴语 太湖片
忻州方言词典	温端政、张光明	晋语 五台片
柳州方言词典	刘村汉	西南官话 桂柳片
黎川方言词典	颜森	赣语 抚广片
西安方言词典	王军虎	中原官话 关中片
扬州方言词典	王世华、黄继林	江淮官话 洪巢片
徐州方言词典	苏晓青、吕永卫	中原官话 徐淮片
金华方言词典	曹志耘	吴语 婺州片
海口方言词典	陈鸿迈	闽语 琼文片
银川方言词典	李树俨、张安生	兰银官话 银吴片
洛阳方言词典	贺巍	中原官话 洛徐片
哈尔滨方言词典	尹世超	东北官话 哈阜片
牟平方言词典	罗福腾	胶辽官话 登连片
上海方言词典	许宝华、陶寰	吴语 太湖片
宁波方言词典	汤珍珠、陈忠敏、吴新贤	吴语 太湖片
万荣方言词典	吴建生、赵宏因	中原官话 汾河片
南宁平话词典	覃远雄、韦树关、卞成林	平话
东莞方言词典	詹伯慧、陈晓锦	粤语 广府片
济南方言词典	钱曾怡	冀鲁官话 石济片
萍乡方言词典	魏钢强	赣语 宜浏片
雷州方言词典	张振兴、蔡叶青	闽语 雷州片
福州方言词典	冯爱珍	闽语 闽东片
温州方言词典	游汝杰、杨乾明	吴语 瓯江片
杭州方言词典	鲍士杰	吴语 太湖片
广州方言词典	白宛如	粤语 广府片
成都方言词典	梁德曼、黄尚军	西南官话 成渝片
于都方言词典	谢留文	客家话 于桂片
建瓯方言词典	李如龙、潘渭水	闽语 闽北片
绩溪方言词典	赵日新	徽语 绩歙片

小释“谁管得了谁？”

A Study of “Shui guan deliao shui?”

胡 杰

HU Jie

要旨：本稿では、①“疑問詞+都”を含む文における“疑問詞”の疑問義がなくなる理由、②“谁管得了谁？”を否定する時になぜ“也”または“都”が必要なのかについて論じた。その結果、①について、“疑問詞+都”を含む文における“疑問詞”の疑問義がなくなるのは“都”によるものだと分析した。②について、“谁管得了谁？”を否定することは、実際には“谁管得了谁？”の前提に否定操作を加えるのと等しい。前提を否定操作することで必ず“√”が得られる。故に、“谁管得了谁？”を否定する時に全称量化詞である“也”または“都”が必要となる。

关键词：全称量词 疑问句 反问句 全函数 前提

目次

- 1 引言
 - 2 关于“都”的性质及疑问义消失的问题
 - 3 “也”与“都”的不同
 - 4 关于“谁管得了谁？”
 - 5 结语
- 参考文献

1 引言

可能补语“动词+得了/不了”是一个在中级阶段需要学习的语法点。在教授可能补语“动词+得了/不了”的时候，作为常识我们一般会让学生认识到“动词+得了”的否定形式是“动词+不了”。但是有些句子似乎用我们的一般常识是解决不了的。例如，

(1)谁管得了谁？

这个句子可以理解为反问句也可以理解为疑问句。当我们把它看作是一个反问句，想知道这个反问句的真正的意思的时候，如果按照一般常识“动词+得了”的否定形式是“动词+不

了”，然后对“谁管得了谁”进行否定操作的话，就会得出“谁管不了谁。”这样的不自然的中文。当我们把他看它是一个疑问句，如果想回答「誰も人のことをかまってもらえないわ」的时候，最容易出现的回答也是“谁管不了谁。”。把“谁管不了谁。”改为符合汉语语感的句子的话，则必须表达为如下。

(2) 谁都管不了谁。

(3) 谁也管不了谁。

可以看出要想使句子成立，需要副词“都”或者“也”的加入。如果没有“都”或者“也”的出现(2)、(3)会依然表示疑问或者反问。在关于“都”的研究中，都会提到“都”与疑问词的连用问题，比如在董秀芳(2002)中强调：“当“谁”和“什么”表任指时，相当于“所有人”、“所有东西”，含有全称的意义在内，所以可以充当“都”的指向目标。这类指向目标也要求与“都”共现，如果“都”不出现，句子就不合法。”。但是为什么没有“都”整个句子就不合法呢？对于这一问题董秀芳(2002)却没有更加具体的描述。

本稿将从形式语义学的观点来讨论以下两点。

①为什么加入“都”、“也”以后，“谁管得了谁？”会变成陈述句？

②为什么像“谁管得了谁？”这样的句子在否定的时候需要“都”、“也”的加入？

2 关于“都”的性质及疑问义消失的问题

众所周知全称量词是形式逻辑和形式语言学研究的比较透彻的问题，“都”一直被很多语言学家认为是汉语中的全称量词，但是其中也有不同意见。徐烈炯(2014)就以““都”是全称量词吗？”为题，对“都”是否是全称量词提出了质疑。例如，

(4) 他们大部分人都在这儿。

(5) 天都黑了。

徐烈炯(2014: 499、504)

徐烈炯认为：(4)中“都”只是指“大部分人在这儿”而不能涵盖“他们”的全部，所以不能认为是全称量词。(5)中表示的是“时间晚到天都变黑了的程度”，而不是指所有的“天”都黑了，所以也不能认为是全称量词。

那么“疑问词+都”这样的形式中的“都”是全称量词吗？大多数研究者还是认为在“疑问词+都”这一结构中，“都”是可以被看作是全称量词的。董秀芳2002等，对“都”和疑问词连用有以下叙述。

在含有疑问词和“都”的句子中，“都”可以出现在疑问词之前也可以出现在疑问词之后。当疑问词在“都”之后时，疑问词会保持其疑问义，并要求疑问词必须是复数形式。例如，

(6) 你都读了哪些书？

但当疑问词出现在“都”之前的话,疑问词表任指,“都”则表全部。(史锡尧 1990、徐颂列 1993、董秀芳 2002、钟华 2021) 例如,

(8) 谁都去。

它的意思是“所有人都去”。

我们同意以上观点。因为以例(8)为例,句义是“所有人都去”,“都”总括所有的“谁”,所以把这里的“都”看作是全称称词是没有问题的。其中,徐颂列(1993)还认为“谁+都”这个结构中,“谁”给出了对象领域,也就是“人”这个领域,与“都”连用以后,“谁都去”不仅表示属于“人”这个领域的任意的“谁”都去,也起到了把“谁”的任指对象都总括起来的作用。徐杰(1985)认为表任指的疑问代词和含这种疑问代词的偏正结构可以充当范围副词的总括对象,而且总是位于范围副词之前。这种疑问代词可以充当总括对象是因为它们在这里都有所指,都表达概念,而且概念的外延是周延的。这里表任指的疑问代词的语义价值相当于一个名词性成分,可用相应的名词性成分来置换。

徐颂列(1993)和徐杰(1985)更加详细地说明了“谁”与“都”的关系及意义。但是二者的研究也只说明了“都”和疑问词的所表示的意义,却没有解释出“疑问词”、“都”和“谓语”三者之间的关系,为什么疑问词会有所指,也就是有外延呢?为什么疑问词后加“都”以后就会失去疑问义呢?这些问题都没有得到解决。接下来笔者将会用函数和集合,来试着解释这些问题。在疑问词出现在“都”前的句子中,疑问词表示任指并且会明确指出对象领域,“都”出现以后总括了对象领域中的每一个成员。(也就是先行研究提到的“任指总括”)。以例(8)为例,由于“都”的出现使我们知道,“谁”表示的其实是一个“人”的集合中的所有人。但笔者认为“都”的出现不仅总括了疑问词所表示集合中的每一个成员,同时也起到了预告后面将出现谓词性成分的作用,并且预示着“谁”这个集合中的成员都会拥有谓语所表示的属性。当谓词性成分出现后通过函数运算疑问词就会被赋予外延。以例(8)为例,当“去”出现以后,通过函数运算使“谁”集合中的所有的“人”得到自己的外延,因此我们可以知道“谁”的集合和与“谁”对应外延的集合其实是一一对应的。所以在含有“疑问词+都”得句子中,“都”即起到了总括对象领域的作用,又起到了引出谓语的作用,并且提示含有总括对象集合中的总括对象都会有外延。谓语出现的同时,含有总括对象集合中的所有总括对象的外延会被确定,外延确定那么整个句子的疑问义也会消失。以上的描述可能过于抽象,接下来我们用图来具体的解释一下例(8)中“谁”、“都”和“去”的关系。

我们假设要去的人有三人,分别是小张,小王和小李,用集合来表示的话,可以表示为图1,图1的左边是“谁”的集合,也就是定义域,右边则是通过函数运算以后得出的值域,也就是外延的集合。这里的函数就是“去’(x)”,“x”是一个变量,把集合中的A的任意成员例如,“人_i”带入x中,我们就会得到“去’(人_i)=小张”,也就是说可以得到“人_i”的

外延。图 1 值域 B 集合中的所有成员都对应一个 A 中的成员，同时 A 中的每一个成员都对应值域 B 集合中的一个成员，图 1 是一个一一对应函数，也可以说是全函数。而使“去’(x)”成为全函数、总括“定义域”中每一个成员、预示着每一个“人”都需要通过运算¹，拥有自己的外延（消除疑问义）的关键因素都是“都”。从下图也可以看出，正因为“都”，所以使 A 集合所有成员都拥有了“去’”的属性，那么在这里我们把“都”是看作是一个全称量词也是合理的。

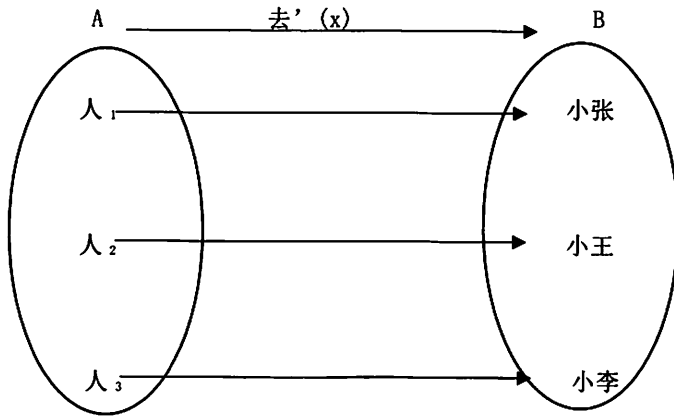


图 1

通过以上分析，我们可以把“谁都去。”的成立过程可以总结为如下。

①谁→表示疑问、虚指还是表示任指不能判断。

②谁都→“谁”表示“人”里的所有人，并且预告任意一个人都有一定的属性，a 逻辑表达式被输出。

a. $\forall x[\text{谁}'(X) \rightarrow$

③谁都去→“人”里的所有人都具有“去’”的属性，同时也可以通过以下的逻辑表达式导出外延。

b. $\forall x[\text{谁}'(X) \rightarrow \text{去}'(X)]$

如果在这里我们带入“人₁”的话，就可以知道外延。

¹ 在这里运算的作用其实就是赋予每一个“谁”一个“去’”的属性，并找出外延。

c. 谁' (人_i) & 去' (人_i) = 小张

随着疑问词后的“都”的出现，我们不仅可以判断“谁”表示任指，同时“都”也总括了“谁”所表示集合的所有成员，并起到了引出谓语的作用。当谓语被引出时“谁”的属性被确定，随之外延的集合也会被确定。既然外延的集合已经被确定，那么“谁都去。”中的“谁”自然不能表示疑问。在疑问词出现在“都”前的句子中我们可以判断“都”它是一个全称量词，并且起到了总括“疑问词”和引出谓词性成分消除疑问词疑问义的作用。

通过以上的讨论虽然我们不能保证任何句子中的“都”都是全称量词，但是至少当“都”出现在疑问词后时，它是可以被判断成为一个全称量词“ \forall ”的。

3 “也”与“都”的不同

我们先看一下例句。

(9) 谁都知道。

(10) 谁也知道。

(9)和(10)的句子中的“谁都”和“谁也”都表示全部的人²，也就是“都”和“也”都可以看作是全称量词。但是它们也有所不同。

先看例句(9)，如果“谁”的集合里有n个人，因为有“都”的存在，那么集合里的n个人都必须具备“知道”的属性，所以经过n次函数运算，让每一个“谁”都有“知道”的属性以后就可以结束运算。例句(10)的话，“也”一般表示“两事物相同或相似”，所以“也”的出现也就是意味着，在出现包含“也”的事物之前，已经有其他相同或相似的事物出现。反之，正因为后项事物与前项事物有着相同或者相似的属性，所以表示后项事物的句子中出现了“也”。我们也假设(10)中“谁”的集合里有n个人，那么“也”的运算则可以看作n次运算中的任意一次，伴随着这次运算的结束，“谁”的集合中的每个人便都会拥有“知道”属性，随之外延被确定，句子的疑问义自然也会消失。虽然(9)和(10)中的“谁都”和“谁也”都表示全部，但是它们的运算过程是不一样的。“都”是经过n次加合以后表示全部，而“也”则是通过一次加合就能表示全部。

笔者分别在BCC和CCL语料库中进行了“谁都v不了谁”、“谁也v不了谁”以及“谁都V得了谁”、“谁也V得了谁”的例句收集，一共搜索到了338个例句，其中“谁也v不了谁”形式的例句有311个，“谁都v不了谁”的例句有27个，“谁都V得了谁”、“谁也V得了谁”均为0例。根据笔者的语感“谁都V得了谁”、“谁也V得了谁”是可以成立的。例如，

² 例句(10)，在句义上我们可以推断“也”是表示全部的，但是它是否可以算是一个全称量词还有待证明，我们暂且在这里把它看作是全称量词。

(11) 谁都离得了谁。

(12) 谁也离得了谁。

那么为什么会搜索不到例句呢？这个问题很值得我们思考。但是从收集到的数据中可以看出在疑问词“谁都/也 v 不了谁”这样的否定形式中，表示全部的话，“也”还是比较占优势的。这是为什么呢？笔者认为可以从上文提到的运算中找出答案。因为“都”需要 n 次运算才能完成给总括对象分配属性，找出外延的工作。但是“也”的话只需要一次的运算就可以完成工作。根据经济性原则，“谁也 v 不了谁”的例句比较多也是理所当然的。

4 关于“谁管得了谁？”

接下来我们要来回答引言中提出的另一个疑问，即为什么对“谁管得了谁？”进行否定的时候需要“都”、“也”的加入？

“谁管得了谁？”既可以看作是疑问句也可以看作反问句。首先我们先分析一下把它看作疑问句的情况。如果“谁管得了谁？”是疑问句，在说出疑问句之前，问话人一定会有自己的前提，也就是“某人管得了某人”。“某人管得了某人”的逻辑表达式可以表示为如下。

d. $\exists x [人'(X) \& 管得了'(X, u) \& X \neq u]$

“谁管得了谁？”的回答如果是“小李管得了小赵。”的话，那么问答成立。但是还有一种回答是我们上面也提到过就是“谁都/也管不了谁。(誰も人のことをかまっていられないわ。)”如果是这种回答的话，那么就等于把发问人所持有的前提直接全面否定。相反我们也可以理解为“谁都/也管不了谁。”是通过对疑问句前提进行否定而得出的句子。为了得出“谁都/也管不了谁。”，首先要对疑问句前提进行否定，用否定函数将前提 d 的逻辑表达式进行否定的话，将会得到 e。

e. $f \neg \{ \exists x [人'(X) \& 管得了'(X, u) \& X \neq u] \}$

运用 f 的量词否定率进行运算，我们会得到逻辑表达式 g。

f. $\forall x \neg \phi(x) \leftrightarrow \neg \exists x \phi(x)$

(方立 2000: 197, n. 量词否定率)

g. $\forall x [人'(X) \rightarrow \neg 管得了'(X, u) \& X \neq u]$ (关于所有的 x，如果 x 是“人”，那么 x 管不了 u)

g 的逻辑表示式是“谁都/也管不了谁。”的最终逻辑表达式。“人'(X)”表示有“人”

的属性的集合，所以这里可以翻译成自然语言的“谁”，“ $\forall x$ ”表示所有的 x ，也就是表示总括所有 x 。在之前我们已经证明疑问词加“都”或者“也”中的“都”和“也”都可以看作全称量词，所以为了总括“谁”我们在这里自然就想起“都/也”，“ $\forall x[\text{人}'(X) \rightarrow \neg \text{管得了}'(X, u)]$ ”翻译为自然语言的话，那么就是“谁都/也”，“ $\neg \text{管得了}'(X, u)$ ”则表示所有的“ x ”，即“谁”都有“管不了 u ”的属性，那么这里的“ u ”呢，通过“ $X \neq u$ ”我们可以判断它的属性有可能和“ x ”一样，但如果属性一样的话，也就是说它也是一个“人”的集合，它和 x ，即“谁”，所指的必须不是同一个人。又因为这里的“ u ”不受“ \forall ”的制约，所以它是表示任指的。把“ $\forall x[\text{人}'(X) \rightarrow \neg \text{管得了}'(X, u) \& X \neq u]$ ”翻译为自然语言的话就是“谁都/也管不了谁。”

接下来我们讨论一下把“谁管得了谁？”看作是反问句的情况。想知道反问句真正所要表达的意义的時候，知道说话人说这句话时所持有的真正前提是很重要的。但是“谁管得了谁？”的疑问形式和反问形式是同形的。那么怎么判断他是疑问句还是反问句呢？朱德熙（1982）有以下描述。

朱德熙（1982：204）：“有的句子形式上是疑问句，但不要求回答，只是用疑问句的形式表示肯定或者是否定。这种疑问句叫反问句。”也就是说判断一个句子是疑问句还是反问句，我们的判断基准是有没有“要求回答”。在不知道说话人是否要求回答的情况下，因为疑问句和反问句同形，所以可以认为反问句的前提和疑问句的前提在形式上其实是一致的，即，“某人管得了某人”。逻辑表达式可以表示为如下。

$$h. \exists x [\text{人}'(X) \& \text{管得了}'(X, u) \& X \neq u]$$

但是如果说话人没有期待回答，那么我们就可以认为 h 这个前提其实不是反问句的前提，对于反问句来说它其实是一个“假”前提。用逻辑表达式可以表示为如下。

$$i. \exists x [\text{人}'(X) \& \text{管得了}'(X, u) \& X \neq u] = 0$$

如果想得知反问句的真正前提的话，也就是想知道反问句表达的真正意义的时候，我们则可以运用否定函数，即，

$$j. f^{-1} \begin{cases} (1) = 0 \\ (0) = 1 \end{cases}$$

（方立 2000：67）

把 i 进行否定话就可以得到 k 。

$$k. f^{-1} \{ \exists x [\text{人}'(X) \& \text{管得了}'(X, u) \& X \neq u] \} = 1$$

与上文相同运用否定率进行运算，就会得到 1 的逻辑表达式。

1. $\forall x[\text{人}'(x) \rightarrow \neg \text{管得了}'(x, u) \& x \neq u]$ (关于所有的 x, 如果 x 是“人”, 那么 x 管不了 u)

1 则就是反问句“谁管得了谁？”的真正前提的逻辑表达式。可以看出反问句的真正的逻辑表达式其实和对疑问句“谁管得了谁？”的前提进行全面否定的回答的逻辑表达式是相同的。表达式中都有“ \forall ”，所以在对疑问句“谁管得了谁？”的前提进行否定时，或者想知道反问句“谁管得了谁？”的真正前提时，句子中出现“都/也”也是自然而然的。

5 结语

在本文中我们首先讨论了“都”与疑问词以及为什么在“谁+都”形式中疑问词的疑问义会消失的问题，其次讨论了出现在疑问词后的可以被认为是全称量词的“都”和“也”的不同之处。最后在第 4 小结的分析得出，当“谁都/也管得了谁？”被认为是疑问句，它的回答如果是“谁都/也管不了谁。”的话，那么就等于是否定疑问句的前提，其实“谁都管不了谁。”是通过否定疑问句前提而得出的句子。进行了否定运算以后的前提的逻辑表达式中由于含有“ \forall ”所以“谁都/也管不了谁。”中出现“都/也”也是自然现象。当“谁都管得了谁？”被认为是反问句时，想要得到反问句的正真的前提，也就是反问句所要表达的真正含义时，也少不了对疑问句的前提进行否定，经过运算我们现在表示反问句的真正前提的逻辑表达式中也含有“ \forall ”，所以“谁都/也管不了谁。”中出现“都/也”也是自然的。

众所周知与“都”相似的副词还有“全”，但是为什么“谁都/也管不了谁。”可以说，但是“谁全管不了谁。”却不能说呢？以后我们还将继续考察。

参考文献

- 董秀芳 2002 “都”的指向目标及相关问题，《中国语文》第 6 期。
- 董秀芳 2003 “都”与其他成分的语序及相关问题，《世界汉语教学》第 1 期。
- 方立 2000 逻辑语义学，北京：北京语言大学出版社。
- 黄瓚辉 2004 量化副词“都”与句子的焦点结构，北京大学博士学位论文。
- 蒋严 1998 语用推理与“都”的句法、语义特征，《现代外语》第 1 期。
- 兰宾汉 1998 副词“都”的语义及其对后面动词的限制作用，《语言教学与研究》第 2 期。
- 吕叔湘主编 1980 《现代汉语八百词》，商务印书馆。
- 马真 1983 关于“都/全”所总括的对象的位置，《汉语学习》第 4 期。
- 牛长伟、程邦雄 2015 疑问词与“都”的相对位置分析，《语言研究》第 4 期。
- 潘海华 2006 焦点、三分结构与汉语“都”的语义解释，《语法研究与探索》(十三)，商务印书馆。
- 沈家煊 2015 走出“都”的量化迷途：向右不向左，《中国语文》第 1 期。

- 王 还 1998 再谈谈“都”《语言教学与研究》第 2 期。
- 徐 杰 1985 “都”类副词的总括对象及其隐现、位序,《汉语学习》第 1 期。
- 徐烈炯 2014 “都”是全称量词吗?,《中国语文》第 6 期。
- 徐颂列 1993 表总括的“都”的语义分析,《语言教学与研究》第 4 期。
- 袁毓林 2005a “都”的语义功能和关联方向新解,《中国语文》第 2 期。
- 袁毓林 2005b “都”的加合性语义功能及其分配性效应,《当代语言学》第 4 期。
- 袁毓林 2007 论“都”的隐性否定和极项允准功能,《中国语文》第 2 期。
- 袁毓林 2008 关于“每”和“都”的语义配合和制约关系,《汉藏语学报》第 2 期。
- 钟 华 2021 “都”字句中疑问代词的分配索引功能,《语言教学与研究科学》第 4 期。
- 朱德熙 1982 《语法讲义》北京:商务印书馆。
- 张谊生 2014 《现代汉语副词研究》北京:商务印书馆。

日中両言語における場面描写について
—話題と叙述に関するアンケート調査—
The Scene Descriptions in Chinese and Japanese
- A Questionnaire Survey about the Topic and Description -

洪 安瀾
Hong Anlan

内容提要: 目前关于语言主观性(subjectivity)以及说话人识解(construal)的研究成果丰硕,研究多集中精力讨论以下两方面的问题。其一是主观识解/客观识解的对立,其二是说话人焦点及视点设定的差异。但是目前的研究多基于语料库等对译的语言资料。语言表征的相近不能代表发言动机的相似,这类语言资料若用于语言主观性及识解方式差异的研究难以量化说话人动机。因此笔者邀请中日106名受试者参加了一次问卷调查,并整理分析问卷中中日两国受试者在话题设定与陈述方式上的特点。

キーワード: 日中対照 場面描写未知・既知 話題 叙述

目次

1. はじめに
2. アンケート調査の問題設定
3. 話題の設定
4. 叙述の仕方
5. おわりに

1. はじめに

言語の主観性(subjectivity)及び事態把握(construal)に関する従来の分析は、主観的・客観的な事態把握(沈家煊2001;池上嘉彦2011)、焦点や視点の違い(甘露統子2004;彭广陆2008,2020)という問題に集中している。それらの研究の多くは対訳の分析、或いはコーパスデータから抽出した特定の表現形式の多寡の比較に基づいており、話者がある事態を捉える際の、リアルタイムの把握のあり方を十分にとらえきれない可能性がある。本稿では、場面を描写する場合、日中両言語の母語話者が話題をどう設定するのか、そしてどのように記述するのかについてアンケート調査を行った。

2. アンケート調査の問題設定

2.1. 問題設定

アンケートは日本語と中国語との二種類を用意して、被験者に見た画像を母語で説明するようにと要求した。問題用紙は次のようになる。

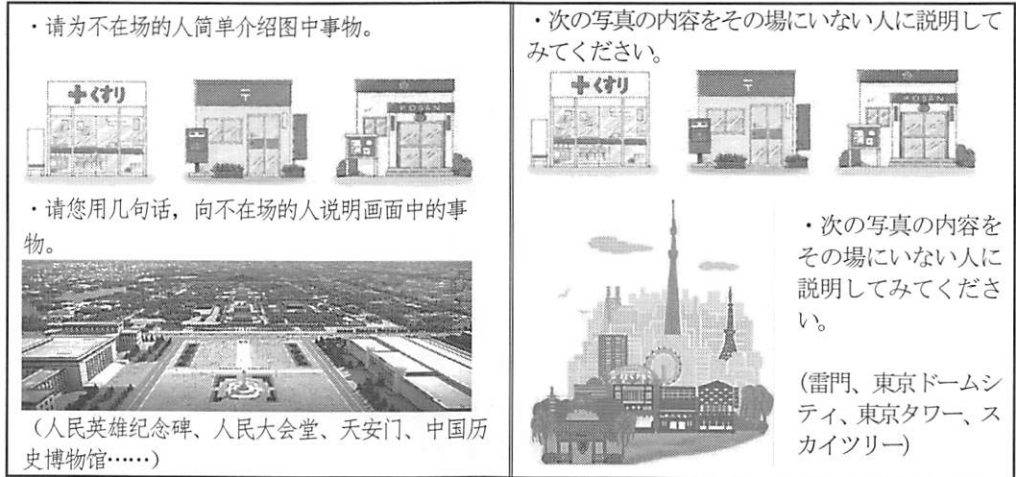


図1：中国語の問題用紙

図2：日本語の問題用紙

アンケートの第一問には同じ画像が提示された。観察対象（客体）がリアル世界に位置付けることができない状況なので、「未知な場面」とする。第二問は日中両国の被験者にとって馴染みのある場所（リアルな世界に特定できる事物）を選んで、いずれも話者（観察の主体）の記憶（知識や経験）を呼び起こすことのできる場所なので、「既知な場面」とする。

2.2. 参加者

被験者は、初級或いは中級日本語を履修した中国語母語話者 55 名（中国人大学生を中心に、ネット配布、図3）と、初級中国語の授業を履修した日本語母語話者 51 名（関東出身の大学生に書面提出）の計 106 名である。無回答を除いて、集められた例文は（複文も含んで）延べ212 例ある。

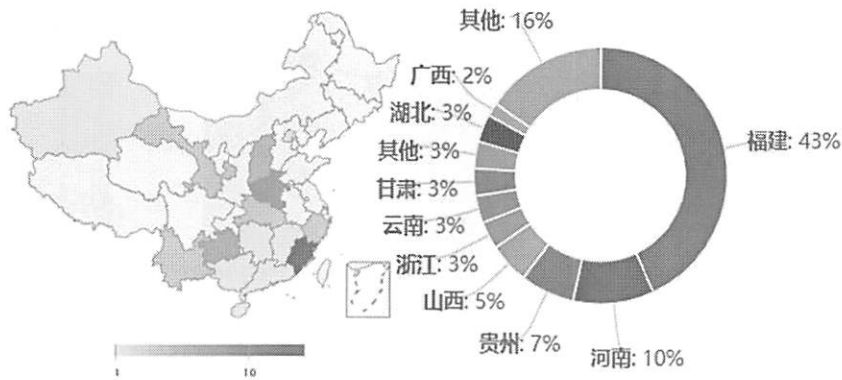


図3：中国人被験者の地域分布

3. 話題の設定

日中両言語の話者にはそれぞれ好まれる「重点の置き方」があるようである。本稿は212例に取り上げられた話題を「位置関係」、「様子や状態」、「知識」のように分けて、さらに「未知」、「既知」の別で、項目ごとにサンプルを整理・統計した。

表1：話題の設定

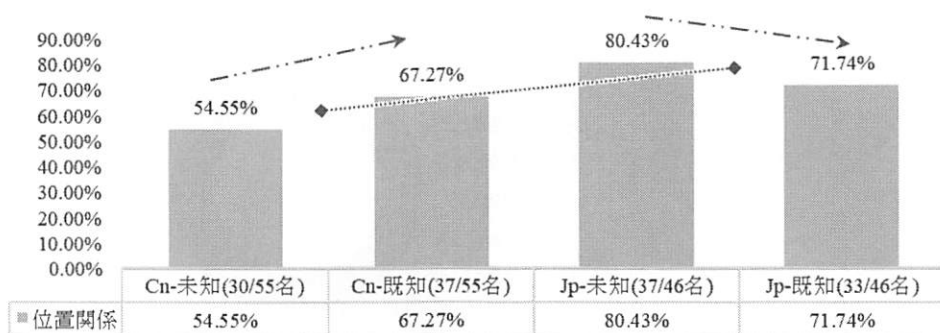
分類/話題	位置関係	様子や状態	知識
Cn-未知(55)	54.55%	10.91%	43.64%
Cn-既知(55)	67.27%	21.82%	47.27%
Jp-未知(46)	80.43%	26.09%	26.09%
Jp-既知(46)	71.74%	41.30%	41.30%

※一部重複あり

3.1. 位置関係

調査の結果、表1のように中国語話者の60.91%、日本語話者の76.09%（平均値は「◆」で標記）が客体の位置関係を紹介してくれた。カイ二乗検定を用いて検定した結果、日中両グループの間には有意差がある。具体的に見てみると、未知な場合に比べて、既知の場合では、中国語はサンプルが1割ほど増えているようだが、日本語の方はサンプルがやや減っているように見える（変化の傾向は「→」で示す）。

表2：位置関係を話題にするサンプルの分布



◇サンプルのズレの発生率はカイ二乗検定を用いて検定した結果、
 日中両グループ $X^2=8.13$ DF=3 $0.01<P<0.05$ 有意差あり
 中国語のサンプル $X^2=1.87$ DF=1 $P>0.05$ 有意差なし
 日本語のサンプル $X^2=0.96$ DF=1 $P>0.05$ 有意差なし

表2で分かるように、全体的に言えば、中国語話者より日本語話者のほうは位置関係を問題にする意欲が高い。ただし、中国語話者は馴染みのある場所の位置関係に関心を示すのに対して、日本語話者は初めて見る場面の空間配置をより詳しく報告しているようである。

(1)a. 首先，在我们面前的是一个药店。药店右边有一个邮局。再接着往下走是派出所。(未知:Cn-4)

b. 中间是个邮局，邮局的右边是药店，左边是派出所。(未知:Cn-55)



図4：例(1a)と例(1b)の図式

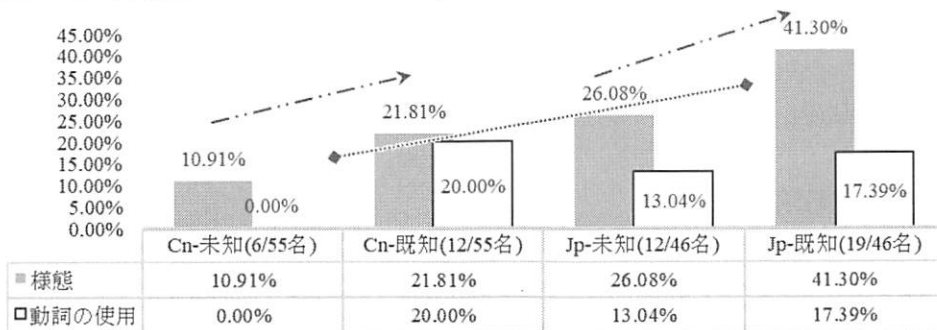
また、中国語の場合では、話者は自己を分裂させ「主客合一→主客对立→主客合一」(例

1a)、または「主客対立→主客合一」(例 1b)のように事態を捉えることができる。このような例文は、未知と既知のサンプルにはそれぞれ5例(16.67%)、7例(18.91%)ある。日本語のサンプルには、自己分裂して、あるいは無情物と共感するような例がない。無情物を観察する場合、日本語話者は視点を分裂・移動させることなく、常に視点を一ヶ所に据えて観察を行うのである。

3.2. 様子と状態

客体の様子や状態を話題に設定した例文を次の表3のように整理した。全体的には、標本数が右肩上がりに増加し、未知より既知のほうが、中国語より日本語のほうが、様子や状態に重点を置く割合が高い。日中両グループの間には有意差がある。

表3：様態を話題にするサンプルの分布



◇サンプルのズレの発生率はカイ二乗検定を用いて検定した結果、
 日中両グループ $X^2=12.87$ DF=3 P<0.01 有意差あり
 中国語のサンプル $X^2=2.39$ DF=1 P>0.05 有意差なし
 日本語のサンプル $X^2=2.38$ DF=1 P>0.05 有意差なし

サンプルには、例(2)のように、客体の様子を紹介する場合もあれば、例(3)のように客体が建てられている有り様(例えば「聳え立つ」)、もしくは配列の仕方(例えば「順に…並んで」)を説明する場合もある。客体の様子を紹介する場合、中国語は存在文やコピュラ文(例 2a、2c)がよく用いられるのに対して、日本語では連体修飾語(例 2b、2d)を用いて描写する。客体の有り様や配列の仕方(状態)を説明する際に、日中両言語は基本的に述語動詞によって場面を描写する。

- (2)a. 药店有四个透明的玻璃窗，上面有“+”的符号，而邮局前面有个黑色的信箱，派出所所有个粘贴报纸的栏。(未知:Cn-19)
- b. くすりって書いてある建物と〒っていうマークのゆうびん局で、そのとなりにKOBAN。(未知:Jp-45)
- c. 图片正下方的一个正方形是人民英雄纪念碑、后方是天安门广场，可以看升旗，左右两边是人民大会堂和中国历史博物馆。天安门的后方是故宫。(既知:Cn-37)
- d. 一番大きいタワーがスカイツリーで、2番目に大きいタワーが東京タワーです。

大きな提灯が見えるのが雷門です。(既知:Jp-31)

(3)a.人民英雄纪念碑坐落在天安门广场,正前方的是人民大会堂。大会堂的旁边,是闻名的中国历史博物馆。(既知:Cn-16)

b.左から順に、薬局、郵便局、交番と店が並んでいる。(未知:Jp-17)

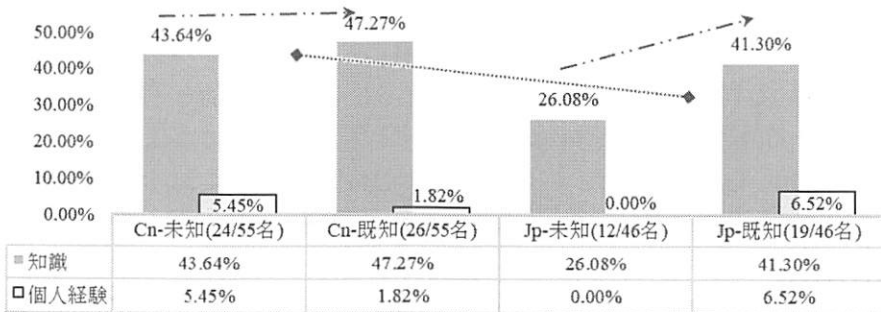
c.一番手前にあるのが雷門で、その後方に東京ドームシティがあります。建物の中で一番大きいスカイツリーがそびえたち、その近くに東京タワーがあります。(既知:Jp-5)

表3で示すように、中国語では話者が未知な客体の状態には無関心のような状態である(述語動詞を用いて未知な場面を描写する例文がない)。一方、既知な客体では、例(2c)の“一个正方形”(様子)を除いて、すべての例文は述語動詞を用いて客体の状態を説明している。したがって、中国語話者(今回のサンプル)が未知な場面に置かれると、客体の様子に関心を示すが、既知な場面では客体の有り様(客体自体の状態)や、空間配置の仕方(全体の状態)に関心を示すということが言えよう。日本語では、様子と状態とが区別なしで(例3c)、どんな場面に置かれても、日本語話者が知る限りの情報を提供し、事細かに説明しているようである。

3.3. 知識や経験

話者が自らの知識や経験に焦点を当てて報告するサンプルを次の表4のようにまとめる。どのような場面に置かれても、4割の中国人被験者が自我を強く主張した(知識や経験を紹介する)が、反対に、日本語話者の場合は、提示された画像に親しみを感じただけ、客体を詳しく紹介しているように見える(未知より既知の標本数が多いこと)。

表4: 知識を話題にするサンプルの分布



◇サンプルのズレの発生率をカイ二乗検定を用いて検定した結果、
 日中両グループ $X^2=4.32$ $DF=3$ $P>0.05$ 有意差なし
 中国語のサンプル $X^2=1$ $DF=1$ $P=1$ 有意差なし
 日本語のサンプル $X^2=2.38$ $DF=1$ $P>0.05$ 有意差なし

また、本稿は話者の持つ知識(灰色の部分)を共通認識と個人的な経験(白い部分)とに分けて、内訳及び標本数を表5に整理する。

表5：共通認識と個人経験の標本数

	未知な場面	既知な場面
中国語	共通認識：100% 用途 - 24 例 先験的な経験：仮想 - 3 例 (計 24 例)	共通認識：100% 用途・評価 - 14 例 リアルな位置 - 12 例 先験的な経験：仮想1 例 (計 26 例)
日本語	共通認識：100% 用途 12 例 事後的な経験：無し (計 12 例)	共通認識：100% 用途・評価 - 13 例 リアルな位置 - 13 例 事後的な経験：東京見学 - 3 例 (計 19 例)

※一部重複あり

被験者は基本的に客体の用途(例 4a,4b)や現実世界にある位置 (例 4c の「東京、浅草」,4d の“东西南北”) など共通認識について説明している。

(4)a. くすりが売っている店。届け物を届ける場所。警察に用がある人が行く所。(未知:Jp-2)

b. 药店: 拿药的地方 邮局: 寄信的地方 派出所: 触犯轻微法规的人处理事情的地方(未知:Cn-23)

c. 東京の風景が広がっています。私から見て、一番手前に浅草の雷門があり、その後ろに東京ドームシティ、さらに奥には東京タワーがあり、一番後ろにスカイツリーが見えます。(既知:Jp-31)

d. 人民英雄纪念碑位于天安门广场中心，正北方向为天安门城楼。人民大会堂与国家博物馆均位于天安门广场，东西相对称。(既知:Cn-37)

ところが、被験者が個人的な経験を伝える場合、日本語話者は例 (5a) のように東京見学の収穫を語って、旅行のアドバイスを提供してくれた。中国語話者は生活経験による推測(例 5b)や、仮想した空間を見学しているように(例 5b,c)画面を紹介している。即ち、日本語話者が事後的な経験を報告するのに対して、中国語話者が先験的な経験を好んで報告する。

(5)a. 雷門とスカイツリーは浅草にあります。スカイツリーは日本で一番高い建物です。そこから見える景色は美しいです。東京ドームシティは私は行ったことがないので分かりませんが、遊ぶところです。東京タワーは六本木あたりにあって、夜に行くとすごくきれいです。1日でこの4ヶ所を回ることができますよ。(既知:Jp-10)

b. 如果您需要买药，药店就在邮局旁边。如果您需要寄信，中间那个便是邮局。如果您需要警察帮助，请前往派出所。(未知:Cn-12)

c. 这里是中国引以为傲的天安门广场，承载着沉重的历史重量，看，那边是人民英雄纪念碑、中国历史博物馆，那边是人民大会堂，各位想了解更多关于他们的历史，可以回去查阅相关资料。(既知:Cn-6)

ほかにも、場面を描写する場合、中国語話者が常に一定の順番を追って、客体を限られた角度から説明する。日本語話者の場合では、知悉している客体であれば、例 5a のように様々な角度から(「浅草にあり」はリアルな位置であり、「日本で一番高い」は評価であり、「遊ぶところです」は用途であり、「1日でこの4ヶ所を回ることができる」は経験であ

る)、思いっく順(「雷門→スカイツリー→東京ドームシティ→東京タワー」の順番)で場面を描写する事も可能である。

3.4. 他に気づいた点

以上述べたこと以外に、気づいたことが2点ほどある。

表 2' : 位置関係を話題にするサンプルの分布

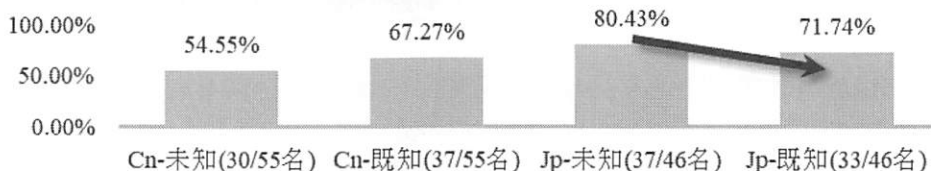


表 4' : 知識経験を話題にするサンプルの分布



第一に、未知な場面に比べて既知な場面から読み取れる情報量が多いはずである。しかし、次の表 2'、表 4'を見て分かるように、位置関係を報告する日本語話者の割合と、個人的な経験を紹介する中国語話者の割合は、未知より既知の方が減っていること(「→」で示す)が不思議である。日本語話者にとって既に把握した位置情報が過剰になるか、中国語話者は釈迦に説法のようなこと(誰もわかるようなことについて先験的な経験をいうこと)を控えているかと思われる。

表 1' : 話題の設定

分類/話題	位置関係	様子や状態	知識経験	合計
Cn-未知(55)	54.55%	10.91%	43.64%	109.10%
Cn-既知(55)	67.27% ↗	21.82% ↗	47.27% ↗	136.36%
Jp-未知(46)	80.43%	26.09%	26.09%	132.61%
Jp-既知(46)	71.74% ↘	41.30% ↗	41.30% ↗	154.34%

表6：幾つかの話題を取り上げた場合

	未知な場面	既知な場面
中国語	位置関係+様子や状態+知識： 1例	位置関係+様子や状態+知識： 6例
	位置関係+様子や状態： 0例	位置関係+様子や状態： 5例
	位置関係+知識： 4例	位置関係+知識： 7例
	様子や状態+知識： 4例 (計9例)	様子や状態+知識： 0例 (計18例)
日本語	位置関係+様子や状態+知識： 0例	位置関係+様子や状態+知識： 3例
	位置関係+様子や状態： 9例	位置関係+様子や状態： 12例
	位置関係+知識： 2例	位置関係+知識： 5例
	様子や状態+知識： 0例 (計11例)	様子や状態+知識： 6例 (計26例)

第二に、中国語話者は基本的に出来事を一つの側面（話題）から描写しているが、既知な場合では、幾つかの側面から出来事を報告する場合もある(表1'と表6)。日本語話者は(位置関係を除いて)、なるべく多くの角度（話題）から出来事を紹介しているように見える。

4. 叙述の仕方

4.1. 存在表現

存在文、所在文、コピュラ文など存在表現を用いて説明する例文は次のように整理する。

表7：存在表現のサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	存在句 (場所+客体)	14例 25.45%	7例 12.72%↗
	在字句 (客体+場所)	6例 10.9%	19例 34.54%↘
	是字句 (判断句)	34例 61.81%	50例 90.90%↗ (55例のうち)
日本語	存在文 (場所+対象)	25例 54.34%	31例 67.39%↗
	所在文 (対象+場所)	0例	3例 6.52%↗
	コピュラ文	20例 43.47%	21例 45.65%↗ (46例のうち)

中国語のサンプルには、未知な場合に存在文、既知な場合に“在字句”という使い分けがある(例6a、6b)。それに加え、どのような場面に置かれても六割以上の中国語話者がコピュラ文で強く自分を主張し(例6c、6d)、共通認識と個人的な経験とが区別なしで、「見ることが「知る」ことと直接に結びつくようである。

(6a. 图一有药店邮局和派出所。(未知:Cn-5)

b. 人民英雄纪念碑位于天安门的正对面，人民大会堂在纪念碑的左边，中国历史博物馆在纪念碑的右边。(既知:Cn-14)

c. 药店在最左边，中间是邮局，最右边是派出所。(未知:Cn-37)

d. 人民英雄纪念碑的正前方是天安门，正左方是人民大会堂，正右方是中国历史博物

館。(既知:Cn-38)

日本語では、存在文を大きく空間的存在文(「対象+場所」からなる「所在文」と限量的存在文とに分けて、前者は物理的な空間と存在対象との結びつきを表す表現であるのに対し、後者は特定の集合における要素の有無を表す表現である(金水敏 2006)。未知な場面にせよ、既知な場面にせよ、日本語話者が基本的に限量的存在文を用いて、場面を描写している(例 7a、7b)。また、中国語話者に比べて、六割近くの日本語話者が主張や判断を避けているように、コピュラ文の使用を控えているように見える(例 7c、7d)。

(7)a.左から順に、くすり屋、郵便局、交番があります。(未知:Jp-18)

b.奥の中央にスカイツリーがあり、その右に東京タワーがある。その手前に東京ドームシティがあり、一番手前の左側に雷門がある。(既知:Jp-5)

c.目の前に三つの建物があります。左から順に薬局、ゆうびん局、交番です。(未知:Jp-3)

d.東京の中でも人気のある場所で、一番大きいのがスカイツリーで、2番目大きいのが東京タワーになります。(既知:Jp-33)

4.2. 観察主体の動作

話者が「観察」及び「移動」という二つの側面から場面を描写することが可能である(表 8)。

表 8 : 観察者の動作を紹介するサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	“看/見”类(話者の観察)	3例 5.45%	4例 7.27% [♯]
	“走”类(話者の移動)	4例 7.2%	2例 3.64% [♯] (55例のうち)
日本語	「見える」など(話者の観察)	8例 17.39%	22例 47.82% [♯]
	「通る/回る」など(話者の移動)	0例	5例 10.86% [♯] (46例のうち)

中国語話者は未知か既知か関係なく、自己を画像の中に入り、そこから観察するか、或いはそこを通るかのように架空の状況を紹介することができる(例 8a、8b)。それと違って、日本語話者が常に実際に見たこと、実際に体験したことなどの事実に基づいて発話する(例 8c、8d、8e)。

(8)a.大家请看一下这三个建筑,有“+”的大家不用看字都知道是药店啦,“くすり”是药的意思,中间这个前方有个邮筒,很明显是邮局啦,最后一个建筑是派出所,有任何法律问题或者社会犯罪都可以积极往这里咨询(未知:Cn-6)

b.首先,映入眼帘的是屹立在中央的人民英雄纪念碑。纪念碑左边是人民大会堂,右边是中国历史博物馆。接着往正前方走,就会看到天安门。(既知:Cn-4)

c.郵便局があって、こちらから見て、左側に薬局、右側に交番があります。(未知:Jp-39)

d.雷門が手前にあり、そこを通ると、スカイツリーが一番最初に目に入ると思います。そのとなりに東京タワーがあり、手前に東京ドームシティが見えます。他にもたくさんのビルや建物ががあります。(既知:Jp-36)

e.人口が一番集中しているところで、外国人に人気の観光名所。日本の文化を表しているものもあり、また東京が一望できるタワーもある。(既知:Jp-42)

4.3. 観察対象の状態

前節の表3で示すように、客体の様子を(連体修飾語などで)描写する意欲が、日本語話者より、中国語話者の方が低いとことが認められた。しかし、既知な客体の状態を紹介する割合は、日本語話者より中国語話者の方が高い(表9)。

表9：観察対象の状態を紹介するサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	“屹立/坐落”类(建物の状態)	0例	22例 47.82% [♯]
	“环绕/排列”类(空間の状態)	0例	5例 10.86% [♯] (55例のうち)
日本語	「聳え立ち」など(建物の状態)	1例 2.17%	7例 15.21% [♯]
	「並ぶ」など(空間の状態)	10例 21.73%	3例 6.52% [♯] (46例のうち)

表9から分かるように、中国語話者は既知な建築の状態(例9a)を熱心に説明しているが、一方、日本語話者は未知な客体の全体像(例(9b)の空間の状態)、既知な客体の細部(例(9c)の建物の状態)を紹介してくれた。

(9)=(3) a.人民英雄纪念碑坐落在天安门广场，正前方的是人民大会堂。大会堂的旁边，是闻名的中国历史博物馆。(既知: Cn-16)

b.左から順に、薬局、郵便局、交番と店が並んでいる。(未知:Jp-17)

c.一番手前にあるのが雷門で、その後方に東京ドームシティがあります。建物の中で一番大きいスカイツリーがそびえたち、その近くに東京タワーがあります。(既知:Jp-5)

5. 終わりに

本稿は日中両言語における場面描写について、話題設定及び叙述の側面から考察した。提示される画像、そして問題を変えると、被験者の回答も変わると考えられるが、両言語には好んで使う事態把握の「型」がある。本研究はその「型」に対する定量分析の試みである。

参考文献

池上嘉彦 (2011a) 「日本語話者における「好まれる言い回し」としての「主観的把握」人工知能学会『人工知能学会誌』26巻4号:317-322

- (2011b) 「日本語と主観性・主体性」『ひつじ意味論講座 5 主観性と主体性』ひつじ書房:49-67
- 伊藤創 (2016) 「日本語・中国語・英語母語話者における事態参与者焦点化の決定要因の差異」関西国際大学『関西国際大学研究紀要』(17):11-22
- 甘露統子 (2004) 「人称制限と視点」『言語と文化』(5):87-104
- 金水敏 (2006) 『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房:14
- 高橋弥守彦 (2020) 「第二章 第一節 実質視点と話題視点」《中日翻译学的基础与构想: 从共生到共创》外语教学与研究出版社:55-74
- 辻幸夫 (2013) 「解釈/捉え方(construal)、解釈する(construe)」『新編認知言語学キーワード事典』研究社:27-28
- 町田章 (2012) 「主観性と見えない参加者の可視化」『日本認知言語学会論文集』(12):246-257
- 刘宁生 (1994) <汉语怎样表达物体的空间关系> 《中国语文》(3):169-179
- 彭广陆 (2008) <从翻译看日汉移动动词「来る/行く」和“来/去”的差异:以译者观察事物的角度> 《日语学习与研究》(4):7-14
- (2016) 「名詞の語彙的な意味における『視点』のあり方:中日両語の比較を中心に」大東文化大学大学院外国語学研究科『外国語学研究』(17):21-33.
- (2020) <关于日汉语言认知模式的一个考察:以“出入”与“内外”的关系为例> 《东北亚外语研究》(4):14-28
- 沈家煊 (2001) <语言的“主观性”和“主观化”> 《外语教学与研究》(4):268-275

「日中翻訳リテラシー教育」の取り組み
—大学学部における翻訳教育の一環として

Introduce about 'Translation and Interpreting (TI) Literacy' into Chinese TI
Education at the Undergraduate Level.

板垣友子

Tomoko ITAGAKI

目次

- 1 はじめに
 - 2 翻訳通訳リテラシー教育とは
 - 3 日中翻訳リテラシー教育の実践
 - 4 終わりに
- 参考文献

1 はじめに

翻訳・通訳者養成について、大学・大学院における専門教育の状況の分析、実践報告などの先行研究は、日本においては主に日英両語間で発表されてきた。大学の学部における翻訳通訳教育についてはいくつかの先行研究があるが、翻訳通訳教育の目標設定について「外国語教育の一部として『語学力の強化』や『異文化コミュニケーション教育』の目標を掲げる翻訳通訳コースが多数を占める」(武田,山田,辛島,2014)とされ、この目標は学部の中国語教育においてもほぼ同様ではないかと推測できる。

外国語教育では、近年 TILT(translation in language teaching)という、通訳翻訳を外国語教育に取り入れるアプローチが注目されている。染谷(2010)によると、翻訳という作業を通して学習者が言語の「深い処理」(起点・目標テキストの表層的な等価ではなく、意味的・語用論的な等価を実現するための原文の深い解釈)ができるようになり、言語能力強化、第二言語習得が促進される効果があるという。

つまり、学部での通訳翻訳科目が、「外国語教育の一環として、言語的メタ認知能力、異文化コミュニケーション能力の養成のためのツール、アプローチの一つとして捉えられている」(武田他,2014)とするのであれば、真の意味での翻訳通訳教育とは目標が異なっているのかもしれない。

山田・立見の「翻訳通訳教育のオンライン教材化(e-learning化)に向けて」では、

大学・大学院での通訳翻訳教育の意味・意義について、以下のように述べている。

- ・ 選抜された学生に専門的かつ体系的な教育の提供が可能。
- ・ 高等教育機関での通訳翻訳者養成という国際基準に準拠 (ISO17100)
- ・ 研究と教育が直結している点
- ・ 大学院が関与することで、通訳翻訳の専門職化・社会的認知度を向上できる。

山田らは、ISO が目指す通訳翻訳者の標準化したスキルを持つ実務家の養成を目指し、学部ではその基礎体力づくり、つまり語学力と翻訳が複雑な要因と関わっていることを認識するメタ言語能力をつけるべきだとしている。そこに、翻訳リテラシー教育の必要性がある。

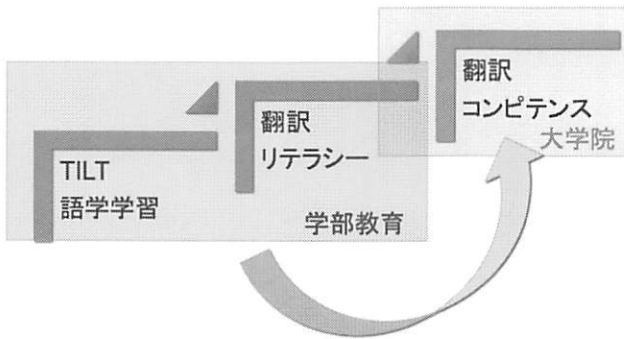


図1: 「翻訳通訳教育のオンライン教材化 (e-learning化) に向けて」より

また、武田らは学部学生に対して通訳通訳者への道筋を示すべく、「通訳通訳リテラシー教育」を提案している(2014)。その内容を見て、筆者は杏林大学での日中翻訳教育にも取り入れられないかと考えた。筆者はこれまで10年以上、日中翻訳演習というタイトルの演習で実践的な翻訳を指導してきたが、2021年度には学部の3、4年生向けに「日中翻訳ワークショップ」を新たに担当することになり、日中翻訳のリテラシー教育もカリキュラムに含めることができた。それは、翻訳者としてのキャリア養成への動機付け、また研究者への動機付けという、今までの学部授業にはなかった目的を持つ授業を提供するためである。

本論では、日英の通訳翻訳リテラシー教育の実践や先行研究を参考にしながら、日中翻訳リテラシー教育についてその意義を再構築し、試行を紹介しながら、基本的アプローチ、コンテンツなどについて考察し、まずは初歩的な提案をしたい。

2 翻訳通訳リテラシー教育とは

「リテラシー」とは「読み書き能力。また、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。応用力」と定義されている（『デジタル大辞泉』小学館, 2021）。また、ある特定の分野で必要とされるリテラシーは「領域固有リテラシー」と呼ばれ、「特定の共同体において必要とされたり好まれたりする認知・行動様式に基づくリテラシーである」（『最新心理事典』平凡社, 2013）とされる。

武田(2017)では、翻訳通訳リテラシー教育について、目的と意義、実践報告を紹介している。武田は2015年に導入された翻訳業務に関する国際規格 ISO17100 の中で、翻訳者の資格を「a 高等教育機関が認定した翻訳の卒業資格、b 高等教育機関が認定した翻訳以外の卒業資格及び専業専門家として2年の翻訳経験、c 専業専門家として5年の翻訳経験」のうち、どれか一つを満たすこととしていることを挙げているが、大学・大学院で「翻訳の卒業資格」は、一部大学院を除いては今後の課題となるとしている。

また、武田(2017)は、翻訳通訳リテラシーを「メディアリテラシーや医療リテラシーなどの事例にならうもので、翻訳通訳の諸相を理解し対応できる基礎能力」と定義し、「通信技術が急速に進展したグローバル社会で異言語・異文化間のやりとりが日常的に発生している今日、翻訳通訳を介した情報の受容と発信の本質や仕組みを学び、またツールの評価・活用能力を備えることは、個人の知見や可能性の発展につながると考えられる」として、必要性を述べている。さらに武田らの立教大学における取り組みも紹介されている。（「翻訳通訳教育ポータル」）

さらに、翻訳通訳リテラシー教育を行うことについて、「翻訳通訳行為の諸相に対する包括的な理解を形成し、翻訳通訳の専門職訓練や研究の土台に提供することを目指すもの」としつ、その意義を挙げている。（武田ら 2014）

- ①翻訳者・通訳者に要求される特別なスキルと知識、機械翻訳の利点と限界などに対する理解を促進することで、翻訳通訳サービスとツールに関する誤解と誤用の削減に対しボトムアップ的な貢献ができる。
- ②翻訳通訳の仕組みについて基本的な知識があれば、多言語多文化社会におけるコミュニケーションに、より効果的な対応ができる。
- ③グローバル化された経済や文化、多文化共生社会、国際政治などにおける今日的課題に関する気づきが促される。
- ④諸外国のように大学院での翻訳者・通訳者の必要性が日本でも認知され、本格的な実施が根付くことに貢献できる。

武田らは翻訳通訳リテラシー教育の一環として、立教大学における全学共通科目『翻訳・通訳と現代社会』を開講した。その実践報告によると、2015年度には医療通訳、法廷通訳、字幕翻訳、文芸翻訳、翻訳通訳コーディネーターなど様々な分野のゲストスピー

カーによる講義と質疑応答を行なっている。

同時に、リテラシー教育の重要な一環として「翻訳テクノロジー教育」を取り上げており、さらにオンライン教材として「翻訳テクノロジーを学ぶ」をリリースしている。これは大学の授業で共有でき、テストや理解度チェックなども用意されており、教師の指導のもとで利用できる仕組み。

以上のような日英の通訳翻訳研究者による先行事例と研究を参考にしつつ、以下で大学・学部における日中翻訳リテラシーについて考える。

3 日中翻訳リテラシー教育の実践

3.1 構成要素

杏林大学の中国語学科では「中国語のプロフェッショナルの養成」を目標として、通訳・翻訳に関する科目を多く設置している。しかし、学部ではISOで資格要件となる「翻訳の卒業資格」という明確なコースは設けておらず、「翻訳リテラシー」の内容はこれまで授業シラバスに入っていなかった。やはり第二言語運用能力の向上のための通訳翻訳科目であるという面は否定できない。大学院では翻訳リテラシーについて取り上げてきたものの、大学院の在籍者はほぼ中国語ネイティブであり、すでに学部で翻訳について学んできた彼らに対するリテラシー教育と、学部の日本語ネイティブ学生に対するリテラシー教育とは提供すべき内容が異なると思われる。本論では、学部の日本語ネイティブ学生対象の、翻訳者養成という視点を取り入れた日中翻訳リテラシー教育について検討してみたい。

武田(2017)では翻訳通訳リテラシー教育の構成要素として以下の項目を挙げている。

- ① 基本的なメタ言語の説明: 通訳翻訳学で用いられる「逐次通訳」「同時通訳」「起点言語」「目標言語」のような基本的なメタ言語と概念について具体例を用いながら説明する。
- ② 多様性: 様々な場面や領域における翻訳通訳事象について、直接的な経験をもとに情報を提供できる人たちの説明を受ける。多様な視点から多様な事例を提供することで、学生が翻訳通訳の実践に関して一枚岩的で単純な見方を形成することを避けられる。
- ③ コンテキストと役割: 移民、グローバル化された経済や国際紛争のような通訳翻訳サービスの必要性を生成するコンテキスト的要因と、翻訳者と通訳者が異言語・異文化間コミュニケーションにおいて果たす役割について言及する。
- ④ キャリアガイダンス: 通訳翻訳市場におけるトレンドと翻訳者・通訳者になるための専門的な訓練に関する情報、また、翻訳者・通訳者の職務倫理、資格、職能団体などについて基本的な情報を提供する。
- ⑤ テクノロジー: 機械翻訳や他の翻訳ツールの仕組みとその利点及び注意すべき点につい

ての基本的な情報を提供する。

⑥翻訳通訳の初歩的実習：翻訳通訳を実際に試みることによって、翻訳通訳実践の面白さ、難しさ、複雑さについての実感や興味を促す。

⑦ユーザー体験：ロールプレイなどの活動を通して、学生に翻訳通訳サービスやツールのエンドユーザーまたは依頼者の経験を持たせる。

⑧理論：学生が翻訳通訳を実際に経験したり意識したりした後に、クラスを通して学生が蓄積した知識を整理するツールとして理論を導入する。スコボス理論やテキストタイプ論はこれまでの実施例で効果的だった。

以上の構成要素は日中翻訳リテラシー教育を実施する上でも同様に取り上げる必要があるものの、具体的な内容については、武田らが立教大学で実施した日英翻訳中心の授業と日中翻訳に特化した場合とは自ずと異なる点もある。

以下に、筆者が試行した実践と課題について報告し、総括したい。

3.2 実践報告

2021年度における杏林大学の中国語学科3、4年生向けの選択科目「日中翻訳ワークショップ」全15回のテーマは以下の通りであった。（春学期、秋学期それぞれ完結）

	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	
第2回	翻訳の基礎知識 日中翻訳の諸相	メタ言語の解説 日中翻訳という仕事について 市場について
第3回	日中翻訳方法論1	初心者向けの方法論を紹介 武吉先生の中日翻訳論1
第4回	課題1(オンライン)	方法論に基づく日中翻訳実践練習
第5回	日中翻訳方法論2	武吉先生の中日翻訳論2 方法論 全員で課題を検討
第6回	日中翻訳方法論3	武吉先生の中日翻訳論 テクニック 全員で課題を検討
第7回	中日翻訳の注意点のまとめ	日本語表現の規範について用語辞典の紹介 書面語について、同形異義語、類義語について 課題はオンライン翻訳の実践 ツール 書籍、オンライン辞書など紹介
第8回	中日翻訳テクノロジー	AI翻訳の検討 課題は「ノルウェイの森」より

		課題について検討
第9回	翻訳ストラテジー	村上春樹の翻訳から翻訳ストラテジーを考える（林訳と頼訳の比較を元に） 課題は20年ネット流行語 中国語の新語流行語の翻訳を実例に 課題の
第10回	異化と同化1	検討 課題は文化要素の翻訳
第11回	異化と同化2	課題について検討
第12回	スコ-pos理論1	スポーツメタファーの翻訳を通じて検討する ストラテジーの解説。藤海理論を紹介 課題 は昔話
第13回	スコ-pos理論2	課題について検討 スコ-posについて ペロス「耳のなかの魚」から事例紹介
第14回	翻訳とは	牧野成一「翻訳でうしなわれるもの」 事例を中国語に置き換えて考える
第15回	期末試験	

この授業では日中翻訳演習に先立つ理論的枠組みを取り入れ、かつ実践を含む内容にするという授業目標を立てた。翻訳理論はヨーロッパで生まれ、変遷してきたものであり、学部生にとって、やや難解だろう。最初から異化や同化、スコ-pos理論などをテーマにして進めるよりも、日中翻訳の身近な例から翻訳について考えてもらう方が学部生には理解しやすいと考えた。そこから、村上春樹の中国語訳、新語流行語、童話の翻訳などに実際取り組んでもらい、そこから翻訳理論について学ぶという組み立てとした。また、日英翻訳の研究者の先行研究を取り入れ、日中英の3か国語による立体的な理論を構築することを試みた。

以下、「日中翻訳ワークショップ」の実際の授業内容について概略を紹介する。

第2回「翻訳の基礎知識 メタ言語の説明」は、「起点言語」「目標言語」などの言語間翻訳の用語を紹介しつつ、牧野成一『日本語を翻訳するということ』から、芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」を英訳する場合、単数とするか複数とするかという例(P91)を挙げるなど、日本語と外国語との間にある思考の違い、民族性の違いなどの例をいくつか紹介する。ここではあえて日英の翻訳を挙げて、翻訳行為とは、という大きな概念を簡単に解説する。

「日中翻訳の諸相」については、ビジネス翻訳・ローカライゼーション、文芸翻訳、字幕翻訳などについて解説、市場について、また資格試験、ISO、日中翻訳者の置かれている現状について情報提供する。

第3回「日中翻訳方法論1」では、武吉次朗『日中中日翻訳必携』から翻訳論、「信達雅」の紹介。さらに日中の歴史的名訳例を挙げる。第4回は課題「単文」で漢語から和語への翻訳を考える。

Ex. 他认为他多年单身的主要原因是自己不够积极主动。→彼は自分が結婚できないのは引っ込み思案のせいだと思っている。

我的成绩跟大家的帮助是分不开的。→私の成績はみんなのおかげです。

第5回「日中翻訳方法論2」では、課題の単文の分析、評価を行い、武吉次朗『日中中日翻訳必携』から、翻訳のポイント①原文の理解力②訳文の表現力について解説する。ここでは主に「品詞の翻訳方法」について解説。

Ex. 動詞

1 削る 我喜欢吃饺子 我忘了带伞。

2 名詞形にする 我们决定召开会议。 我々は会議の招集を決定した。

3 自動詞を他動詞に変える 在山沟里偶然发现了古代壁画。 山奥で偶然古代の壁画が見つかった。

4 目的語の長い動詞はいったん切る。说, 说明, 表明, 认为, 希望, 相信

第6回「日中翻訳方法論3」では、「自然な日本語への訳出」のためのポイントを、実際の日中翻訳に使用するテクニックを中心に伝える。武吉先生と遠藤紹徳先生による(東方中国語講座4 翻訳篇)分類、「加訳」「減訳」「変訳」「倒訳」「反訳」「分訳」「合訳」について例を挙げて紹介する。

Ex. 「倒訳」过马路要看红绿灯, 以免发生交通事故。→交通事故に遭わないよう、道路を横断するときには信号を見る。

第7回「中日翻訳の注意点のまとめ」では、まず翻訳者としては、決まった「用語辞典」を使う必要があること。「記者ハンドブック」(共同通信)など、規範を守る重要性和同時に、日中翻訳の場合には、クライアントによって訳語も精査する必要があることを伝える。「日中」か「中日」か、「兩岸」、「台湾」その他政治的に敏感な部分があること。

さらに、「書面語について」、「同形異義語、類義語」について取り上げる。中国語にも書面語があり、大学の授業では学んでこなかった表現もあること、台湾の文章語などを確認する。日中翻訳では「同形異義語、類義語」に悩まされることが多い。一見同義語であるが、使用範囲がずれるなど、訳出上注意すべき事例を挙げる。

課題はオンライン翻訳。アプリを探して使ってみる。

第8回、「翻訳テクノロジー」では、翻訳で使うツール、オンライン辞書、オンラインでの検索、AI翻訳について伝える。

オンライン辞書や検索については、中国の検索エンジンを使うことを推奨。

AI 翻訳を実際に使っている学生も多い。ここでは、学生が任意の AI 翻訳ソフトを使い、例文を翻訳した結果を検討する。さらに「ポスト・エディット」について紹介し、翻訳実務での重要性を伝える。

課題は村上春樹の「ノルウェイの森」冒頭の中国語訳を日本語に訳すこと。

第 9 回「翻訳ストラテジー」については、村上春樹『ノルウェイの森』の林少華と頼明珠の 2 種の訳を例にとり、「ストラテジー(方略)」とは何か、異化、同化という全体的な方針とともに、「直訳か意識か」「意味重視かコミュニケーション重視か」などの対立点を挙げて、訳文の比較を通して方略を決めて翻訳することを自覚してもらう。

課題はネット流行語の翻訳。

第 10 回「異化と同化 1」では、課題のネット流行語の翻訳を検討しつつ、翻訳ストラテジーの大きな方針を解説する。中国語の新語・流行語の日本語訳を検討し、「異化翻訳」か「同化翻訳」による違いを解説。

Ex. ① “春節”「旧正月」(同化)→「春節」(異化)

② “柠檬精” 原義: レモンエキス →派生義: 嫉妬する(自分を揶揄、卑下して使うシーンが多い) 例文: 别人的绝美爱情故事, 让单身狗酸成柠檬精。訳例 1: 他人の美しい恋バナは、「单身狗」(独身者が自嘲的に使う言葉)が嫉妬のお化けになるほどうらやましく感じる。訳例 2: 他人の甘い恋愛の話も、シングルにとっては酸っぱいレモンエキスなんだ。

課題は文化要素(メタファー)の翻訳。

第 11 回「異化と同化 2」では、日中の文化要素の翻訳についてメタファーの翻訳の実践を通して考える。特に日本語独自の「スポーツのメタファー」のうち、「相撲」「野球」の隠喩を取り上げ、その翻訳について辞書の訳語、AI 翻訳の訳と比較しながら、どのような翻訳が意味を伝えられるかを検討する。

課題は「童話の翻訳」。

第 12 回「スコポス理論 1」では、「目的によって翻訳が変わる」ことを実例を通して解説し、機能主義的アプローチの重要性を伝える。読み手を学生自身で設定して童話を翻訳させた結果を検討する。

以下の小説を翻訳してください。自身で何歳くらいを対象にしているか設定しよう。大人向け? 子ども向け? 自分で読むのか? 読み聞かせるのか? その他、自由に設定する。

あなたの設定した対象年齢 ()歳くらい

那天晚上，老两口儿把桃子放在菜板上，正要菜刀把桃子切开，突然从桃子里蹦出来一个胖乎乎的小男孩儿。

“哎呀，我的天哪！”老两口儿又惊又喜，一时不知怎么办才好。

老爷爷说：“这孩子既然来到了咱家，就把他收养了吧！”

老奶奶说：“好吧。这孩子是从桃子里生出来的，以后就叫他桃太郎吧。”

于是，桃太郎就在这里住了下来。

桃太郎眼看看一天一天地长大，很快变成了一个身强力壮、勇敢善良的小伙子。

(陳淑梅「精選日本昔ばなし」より)

この課題については、「対象年齢を自身で設定する」ことによって、TTを作成するのがポイントとなる。内容は日本昔話「ももたろう」であり、誰もがよく知っている内容だが、それだけに漫然と訳したTTが目立った。

しかし、その中で「対象年齢を自身で設定する」意味を理解できた学生もいた。

この学生は「自分で読む7歳くらい」という設定をした。以下はその訳文の一部。

その日のよる、おじいさんとおばあさんは ももを まないたの上ののせ ほうちょうで ももを切ろうとしました。すると、とつぜんものの中から まるまると太った男の子が とび出してきました。

「おやまあ、おどろいた！」

おじいさんとおばあさんは おどろいたり よろこんだり、しばらくのあいだ どうすればいいのかわかりませんでした。

「この子は わたしたちのところに 来てくれたんだ。この子は わたしたちで そだててあげよう。」

と、おじいさんは言いました。(以下略)

中国語で書かれた昔話は、さまざまなパターンに翻訳が可能だ。日本語では対象年齢によって、その言葉遣いや漢字の使用範囲などを変える。親の読み聞かせ用であれば、ある程度漢字は使える。しかし教科書であれば、小学校の指導要領で決められた漢字を使う必要がある。上の訳文を作成した学生は、7歳(小一)をイメージしたが、「切る」「太った」「来た」「言いました」など1年生では習わない漢字を使うことについての是非についてはあまり考慮しなかったという。教科書に限らず、童話や絵本がどう書かれているかをもう一度観察し、対象と出版形態などを設定してみることを提案した。プロの翻訳者であればどうするのか、を考えてもらった。

第13回の「スコポス理論2」では、ディヴィッド・ロペス『耳のなかの魚—翻訳=通

訳をめぐる驚くべき冒険』(松田憲次郎訳、2021、水声社)を取り上げて、再度「翻訳とは何か」さらに「形式を合わせた翻訳」という課題について紹介する。

この中では、中国の「順口溜」が題材にとられている。“辛辛苦苦四十年 / 一朝回到解放前 / 既然回到解放前 / 当年革命又为谁”について 筆者は 12 通りの英訳を示した。つまり、中国語の七言絶句という形式をどう取り扱うか、という課題に挑戦している。

第 14 回では、「翻訳とは」について再度、牧野成一の論文「翻訳によって何が失われるか」を取り上げる。ここでは、いくつかの日英の訳例を紹介し、翻訳の限界に気づいてもらう。

牧野先生の提示する翻訳の学習の目的は、1 翻訳の限界を知ること、2 外国語学習の目標(ACTFL 米国外語教育協会) Communication, Culture, Connection, Contrast(対照), Community についての気づき。3 翻訳の面白さと難しさを知る(翻訳で失われるものを目標言語でどこまで表せるか) 4 原文を読むことの意義を伝えること。そして、最終的に翻訳者を生み出すことだとしている。それらの目的に合う授業ができたのかを振り返る必要がある。

3.3 実践の振り返り

春学期の授業はほぼオンラインであり、大学の方針で配信授業と課題提出という形態であったため、リアクションペーパーの配布もできず、学生の理解度については明確な結果は得られていない。秋学期は対面で進めているが、まだカリキュラムは半分しか消化していない。しかし、春学期最後のリアルタイム Zoom 授業で得られた学生の感想、また対面授業での反応としては、「翻訳に興味を持てた」、「翻訳は思ったよりも難しいと感じた」、「翻訳する時の注意点がわかった」などがあつた。

武田ら 2014 で挙げている、翻訳通訳リテラシー教育の意義、①翻訳者・通訳者に要求される特別なスキルと知識、機械翻訳の利点と限界などに対する理解を促進する。②多言語多文化社会におけるコミュニケーションに役立つよう翻訳通訳の仕組みについて基本的な知識を持つ。③グローバル化された経済や文化、多文化共生社会、国際政治などにおける今日的課題に関する気づきが促される。④諸外国のように大学院での翻訳者・通訳者の必要性が日本でも認知され、本格的な実施が根付くことに貢献できる---について、「日中翻訳ワークショップ」で、十分に伝えられたかという点とまだ不十分かもしれない。

特に、③グローバル化された経済や文化、多文化共生社会、国際政治などにおける今日的課題に関する気づきが促される、という点については、日中関係、国際経済、ジェンダーなどの内容を翻訳課題としたが、断片的な効果しか上げられていないと思われる。この点については、経済や文化、多文化共生社会、国際政治で翻訳通訳を専門としているゲストスピーカーに、自身の仕事と通訳翻訳との関連と課題について講義をしてもらうことが学生の理解を促進する最良の方法ではないだろうか。

4 終わりに

「ワークショップ」も「演習」も学部3、4年生向けの授業であり、就職活動中や内定を得た学生など、卒業後の仕事具体化にイメージできることが、翻訳に対する興味を持つ要因ではないだろうか。選択授業ではあるが、中国語学科のほぼ全員が履修したことから、翻訳に対する関心の高さがうかがえる。

「ワークショップ」の翻訳リテラシー教育では、「翻訳とは」という根源的な問いから、具体例を使いさまざまな翻訳のあり方や翻訳方法を知ること、中国語から日本語に置き換えるだけの翻訳から、翻訳の目的やTT読者を意識することなど、さまざまな角度から翻訳を考え、実践していき、翻訳のコンピテンス(能力とスキル)を身に付けていこうとした。結果としては、演習授業では取り上げていない翻訳理論、翻訳の基礎知識などを提供すること、例えば様々なAI翻訳の比較検討をすることなどにより、学生の翻訳コンピテンスを向上させることができたのではないかと思う。反省点としては、授業にゲストスピーカーを招き、さまざまな翻訳シーンを知ってもらうことが必要であることを痛感した。前期はリモート授業でゲストスピーカーを招きやすかったのに、実施できなかったことが大きな反省点となった。

しかし、4年生が一人、大学院の日中通訳翻訳専攻への進学を希望したことは、授業の成果ではないかと考える。プロの翻訳者への道を示せたことで、授業の目的を果たせたと思う。また、学生の翻訳基礎体力を作り、語学力と翻訳が複雑な要因と関わっていることを認識してもらったことで、就職後の仕事にも役立ててもらえるのではないかと期待する。

参考文献

- 染谷泰正(2010)「大学における翻訳教育の位置づけとその目標」『外国語教育研究』3, P.73-102. [Online] http://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_department/03/04someya.pdf (2021年11月1日)
- 武田珂代子、山田優、辛島デイヴィッド(2014)「『翻訳通訳リテラシー教育』の提案に向けて」『翻訳通訳研究』14号, P.1-14
- 武田珂代子・山田優(2017)「翻訳通訳リテラシー教育のすすめ」『翻訳通訳研究の新天地』晃洋書房, P.190-217
- 武吉次朗(2007)『日中中日翻訳必携』日本僑報社, P.38-76
- 武吉次朗(2007)「中日翻訳7つのテク」『中国語ジャーナル』2007年5月号, アルク, P.41-52
- 武吉次朗、遠藤紹徳(1990)『東方中国語講座4 翻訳篇』東方書店, P.15-93
- デイヴィッド・ロペス(2021)『耳のなかの魚—翻訳=通訳をめぐる驚くべき冒険』松田憲次郎訳, 水声社, P.128-132
- 陳淑梅(2008)「精選日本昔ばなし」『中国語ジャーナル』2008年7月号, アルク, P.66-67

山田優・立見みどり(2018)「翻訳通訳教育のオンライン教材化(e-learning化)に向けて」 「日本通訳翻訳学会:翻訳通訳テクノロジー研究プロジェクト」 <http://www.apple-eye.com/ttedu/usecase.html>

牧野成一(2011)「翻訳によって失われるもの」 『Journal CAJLE』 Vol. 12, カナダ日本語教育振興会, P.23-59

《文選》五臣音注與《廣韻》《集韻》的關係¹

A Study on the Relationship of *Wenxuan Wuchen Yinnzhu* and *Guangyun, Jiyun*

陳 小珍

CHEN Xiaozhen

Abstract : 《文選》五臣音注と《廣韻》と《集韻》との関係は「反切が一致している」「反切が異なり発音が同じ」「反切が異なり発音も相違している」3種類に分けられる。「反切が異なり発音も相違している」場合、五臣音注が韻書により変更する可能性は当然なかった。《廣韻》、《集韻》より早く世に出る五臣鈔本における音注は、《廣韻》と《集韻》とは「反切が一致している」「反切が異なり発音が同じ」という現象が存在するため、五臣刊本と《廣韻》と《集韻》との「反切が一致している」「反切が異なり発音が同じ」音注を宋代の韻書により変えた音注に簡単に見えず。「字有訛錯不協今用者皆考五經宋韻以正之」と記載する沈嚴《五臣本後序》は《集韻》より早く発行され、後世、五臣音注を変更する根拠とする宋韻は《集韻》を外すべきである。後に宋代韻書に基づき五臣音注を変更する際、韻書の音注を元のまま引用することより、韻書の発音に基づいて五臣音注を適切に改良すると考えるほうが良いものと考えられる。

Keywords : 《文選》 五臣音注 《廣韻》 《集韻》 關係

目录

0 引言

一、《文選集注》所引五臣音注與《廣韻》《集韻》的關係

(一) 五臣音注與《廣韻》或《集韻》完全相同

(二) 五臣音注與《廣韻》《集韻》切不同音同

1. 五臣音注與《王三》《廣韻》《集韻》切不同音同例

2. 五臣音注與《王三》《廣韻》切不同音同例

3. 五臣音注與《廣韻》《集韻》切不同音同例

4. 五臣音注與《集韻》切不同音同例

(三) 五臣音注不見錄於《廣韻》《集韻》

二、奎章閣本和《文選集注》相異音注與《廣韻》《集韻》的關係

¹ 基金項目：國家社科基金一般項目“五臣注《文選》音注整理與音義研究”（20BY127）

(一) 音注不同讀音相同

(二) 音注不同讀音亦不同

三、結語

0 引言

《文選》五臣注問世於公元 718 年，隨文附有音注 7000 多個。分析五臣音注的音韻特徵，將其與同時代的王仁昫《刊謬補缺切韻》（下文簡稱《王三》）進行比較最為合適。但實際操作中，我們發現五臣音注有相當一部分讀音不見於《王三》而見於《廣韻》，也有一部分讀音《王三》《廣韻》皆無，而僅見錄於《集韻》。就時間線而言，《廣韻》《集韻》在五臣注之後，理論上其音注可能繼承了五臣音注。然而，現行五臣注單行完本一個是南宋刻本（世稱陳八郎本），一個是明代刻本（世稱朝鮮本或正德本），而且六家注本之奎章閣本的末尾有三處引文，其中沈嚴《五臣本後序》提及平昌孟氏本“字有訛錯不協今用者皆考五經宋韻以正之”。先行研究也提及現存五臣注兩個單行完本都有經後人改易的痕跡，例如董宏鈺（2012:23）認為正德本五臣音注“是以宋韻正之”；高博（2018:21）“無論是正德本還是陳八郎本中的音注都無法代表五臣音注的原貌，兩者之中都含有部分後人（尤其是宋人）根據當時韻書等著作修改的音注”。兩者的結論主要在於五臣音注兩個單行完本都有與《廣韻》或《集韻》反切完全相同的例子。五臣音注是否根據《廣韻》《集韻》作修改這關乎五臣音注性質的討論，基於此，這裏將五臣反切與《廣韻》《集韻》作比較，希冀理清五臣音注與宋韻的關係。

現存五臣注《文選》有多個版本，大致可分為單行本與合刊本兩種。單行本包括天理圖書館藏本、杭州貓兒橋河東岸開箋紙馬鋪鍾家刻本、南宋紹興三十一年陳八郎刻本（下文簡稱陳八郎本）、朝鮮正德四年朝鮮刻本（下文簡稱朝鮮本）4 種；合刊本主要有《唐鈔文選集注彙存》（下文簡稱《文選集注》）、明州本、奎章閣本 3 種。其中《文選集注》所輯五家音是現存最早的五臣音注，不存在與宋韻交集的關係，而奎章閣本所據五臣底本就是平昌孟氏本，因此，這裏主要通過這兩個版本來探討五臣音注與《廣韻》《集韻》的關係。同時，為便於考察兩者之間的關係，文中也根據需要輯錄了李善音注、《王三》音注、五臣注其他版本如陳八郎本、朝鮮本的音注等。

一、《文選集注》所引五臣音注與《廣韻》《集韻》的關係

(一) 五臣音注與《廣韻》或《集韻》完全相同

《文選集注》所引五臣音注共 124 個，其中反切 52 個，與《廣韻》或《集韻》完全相同的有 6 個，如下表所示：

字頭	《文選集注》	陳八郎本	朝鮮本	《王三》	《廣韻》	《集韻》
02537 ² 漬	胡對	胡對	胡對	胡對	胡對	胡對
02575 沓	徒合	徒合	徒合	徒合	徒合	達合、記合
03045 汨	于筆	于筆	于筆	于筆	于筆	越筆
17213 兕	徐姊	徐姊	徐姊	徐姊	徐姊	序姊
22059 濩	胡郭	胡郭	胡郭	胡故、一號	胡郭	黃郭
29096 話	胡化	× ³	胡怪	下快	下快	胡化

這六個音注中有 1 個反切同時與《王三》《廣韻》《集韻》相同；有 3 個反切同時同於《王三》《廣韻》；餘下 2 個音注，一個只與《廣韻》相同，一個只與《集韻》相同。《文選集注》所引五臣音注是唐代鈔本，不存在與宋韻交集的問題，而且上表所舉 6 個反切中有 5 個皆見於陳八郎本和朝鮮本，因此我們不能簡單地認為刻本與《廣韻》《集韻》相同的音注是後人根據《廣韻》或《集韻》所改。此外，如上表所示，五家音與《王三》《廣韻》的關係似乎比與《集韻》的關係更為密切。

(二) 五臣音注與《廣韻》《集韻》切不同音同

這類反切所佔比例最大，可分為下面 4 種情況：

1. 五臣音注與《王三》《廣韻》《集韻》切不同音同例

字頭	五臣音注	《王三》	《廣韻》	《集韻》
02551 吭	胡浪	下浪	下浪	下浪
02578 蹠	許驕	許喬	許嬌	虛嬌
02609 謁	綺列	去竭	丘竭	丘傑
02628 揆	傷脆	舒膽	舒膽	舒膽
03070 葺	七及	七入	七入	七入
03114 曄	于輒	筠輒	筠輒	域輒
03233 比	頻必	毗必	毗必	簿必
03240 債	卑胤	必刃	必刃	必仞
04290 滌	普秘	匹備	匹備	匹備
17144 仿 ⁴	蒲忙	步光	步光	蒲光
17179 臆	紀言	居言	居言	居言

² 因《文選集注》是殘卷，為便於查檢字義，這裏的字頭編號是朝鮮本五臣音注的編號，前兩位表示卷號，后三位表示音注在卷中出現的序號，下文同。

³ “×”表示無，下文同。

⁴ “仿（仿佯）”即“仿（彷彿）”。

2. 五臣音注與《王三》《廣韻》切不同音同例

字頭	五臣音注	《王三》	《廣韻》	《集韻》
17407 析	先慝	先擊	先擊	先約、相支

3. 五臣音注與《廣韻》《集韻》切不同音同例

字頭	五臣音注	《王三》	《廣韻》	《集韻》
29030 偵	恥令	猪孟、勅貞	丑鄭等 ⁵	丑正等

4. 五臣音注與《集韻》切不同音同例

字頭	五臣音注	《王三》	《廣韻》	《集韻》
02495 榷	頻綿	符善	房連、符善	毗連、婢善、毗面
02488 榷	七林	姉心、七稔	子心、七稔、楚簪	千尋
22052 覈	口角	苦候	苦候	克角
29031 刷	靈結	×	×	力結

從這4個表格可見《文選集注》所輯五臣音注有一部分不見於《王三》而見於《廣韻》，還有一部分連《廣韻》都沒有收錄而只見於《集韻》。五臣音注多且複雜，將五臣音注與韻書進行對比研究時，這些又音該如何處理值得慎重考慮。但不管如何，鈔本五臣音注即有部分又音只見於《廣韻》《集韻》，刻本中出現這樣的現象也就不足為怪，不能簡單地將其視為根據《廣韻》或《集韻》修改的音注。

(三) 五臣音注不見錄於《廣韻》《集韻》

字頭	五臣音注	《王三》	《廣韻》	《集韻》
02464 菴	烏覽	英廉	烏含、央炎	烏含、衣廉、衣檢
02471 漚	胡角	×	許角 ⁶	黑角
02618 駭	行戒	諧楷	侯楷	下楷
03208 慷	苦浪	×	苦朗	口朗、丘岡
03244 衍	苦干	苦旦	空旱、苦盱	可旱、墟盱
03254 琲	補對	蒲罪	蒲罪	部浼、蒲味
03258 繆	力巧	奴巧	奴巧、下巧	何交、丘交、虛交、於交

⁵ “等”表示反切不只一個，這裏儘展示音同的反切，下同。

⁶ 《廣韻》被注字作“漚”。

				力交、古巧、下巧、女巧
29007 柿	孚每	芳廢	方廢	芳廢

這些讀音不見錄於《廣韻》《集韻》，自然不存在後人根據宋韻修改的問題。值得注意的是，這些音注也不見於李善音注、《音決》《博雅音》《漢書音義》《後漢書音義》《晉書音義》《史記索引》《史記正義》《急就篇注》《敦煌出土禮記音殘卷》等。這些音注可視為五臣特有的音注。

二、奎章閣本和《文選集注》相異音注與《廣韻》《集韻》的關係

奎章閣本所據五臣底本是平昌孟氏本，而沈嚴《五臣本後序》提到平昌孟氏本“字有訛錯不協今用者皆考五經宋韻以正之”。那麼，根據“五經宋韻”所改的音注極可能就存在於奎章閣本所輯五臣音注與其他版本五臣音注相異的音注之中。《文選集注》所輯五家音是目前所知最早的五臣音注，相對而言較能保持五臣音注的原貌，因此這裏將其和奎章閣本所輯五臣音注的相異音注與《廣韻》《集韻》進行比較，借此管窺五臣音注與宋韻的關係。

除去字形訛混（如“16035 味，未叶韻”之“未”為“末”之誤；“09305 溈，普秘”之“秘”與“祕”相混）、反切上下字順序顛倒（如“22052 覈，角口”之“角口”為“口角”之誤）造成的相異外，奎章閣本所輯五臣音注與《文選集注》所引五臣音注的不同音注可分為如下兩類：

（一）音注不同讀音相同

字頭	《文選集注》 五臣音注	奎章閣本五臣音注	《廣韻》	《集韻》	《王三》	陳八郎本	朝鮮本	胡刻本李善音	奎章閣本李善音
02512 挾	形牒	胡蝶	胡頰	檄頰	胡頰	胡蝶	胡蝶	故蝶	×
03070 葺	七及	七入	七入	七入	七入	七入	七入	七入	×
03249 颿	凡	帆（	符咸	符咸	符芝	帆	帆	帆	×
23163 檐	琰廉	鹽	余廉	余廉	×	塩	鹽	鹽	×

根據沈嚴《五臣本後序》，平昌孟氏本改易五臣音注是因為“字有訛錯不協今用”，而上表所舉數例皆為注不同音同例，不符合孟氏改音初衷，顯然不是根據宋韻所作修改。表中奎章閣本與《文選集注》本相異的音注往往與五臣其他刻本及胡刻本李善音注相同，它們可能來自於李善音注。

(二) 音注不同讀音亦不同

字頭	《文選集注》 五臣音注	奎章閣五臣音注	《廣韻》	《集韻》	《王三》	陳八郎本	朝鮮本	胡刻本李善音注	奎章閣本李善音注
02539 蒟	歸于	俱字	俱雨	果羽	俱羽	俱字	俱字	俱字	俱羽
02554 鱒	祖本	在本	才本	粗本	徂本	在本	在本	在本	×
03206 詭	軌	鬼	過委	古委	居委	過委	鬼	鬼	×
03208 忼	胡浪 ⁷	苦浪	苦朗	下朗	×	苦浪	苦浪	苦浪	×
29007 柿	孚每	浮廢	方廢	芳廢	芳廢	×	孚廢	孚廢	孚廢
22009 趣	七俱	平	七句、 倉苟	逡須、 逡遇	七句	平	平	平	×
29030 偵	恥令	恥命	丑鄭、 丑貞、 豬孟	丑正、 知盈、 癡貞、 豬孟	猪孟、 勅貞	恥命	恥命	恥命	×
29096 話	胡化	胡怪	下快	胡化、 戶快	下快	×	胡怪	胡怪	×

依上表所示，除“29007 柿，浮廢”之外，奎章閣本與《文選集注》相異的音注也都與胡刻本李善音注相同，五臣刻本音注與李善音注關係之密切可見一斑。“29007 柿”“03206 詭”“03208 忼”“29096 話”五臣音注皆不見於《廣韻》或《集韻》，顯然不是依據宋韻而改。“22009 趣”五臣音注“平”與《集韻》音注“逡須（清虞）”不矛盾，但《集韻》收錄了“趣”7個讀音，其中平聲音有兩個，因此我們認為“趣，平”根據《集韻》而改的可能性也不大。餘下儘“02539 蒟，俱字”“02554 鱒，在本”“29030 偵，恥命”可能根據《廣韻》《集韻》而改，這有待進一步考察。

三、結語

經將《文選集注》所引五臣音注、奎章閣本所輯五臣音注異於《文選集注》所引五臣音注的音注與《廣韻》《集韻》作比較，我們得出如下結論：

第一，《文選集注》所引五臣音注存在與《廣韻》《集韻》反切完全相同、切不同音同的現象，這些音注也見於五臣單行完本刻本，而《文選集注》所引五臣音注早於《廣韻》《集韻》

⁷《文選集注》被注字作“慷”。

問世，不存在根據《廣韻》《集韻》作修改的可能性。因此，不能簡單地將五臣刻本與《廣韻》《集韻》反切完全相同或切不同音同的音注視作後人根據宋韻修改而成。

第二，五臣音注與《廣韻》的關係似乎深於與《集韻》的關係。沈嚴《五臣本後序》作於天聖四年（1026），《廣韻》成書於1008年，而《集韻》於1039年完稿，因此五臣刻本如若根據宋韻修改，依據的應該不是《集韻》。

第三，奎章閣本與《文選集注》相異的五臣音注大多同於胡刻本李善音注，五臣刻本音注與李善音注關係密切，誰抄自誰值得進一步探究。

第四，不管是鈔本還是刻本，五臣音注與《廣韻》《集韻》切不同音同的例子總是多於反切完全相同的例子。因此後人根據宋韻改易五臣音注的設想，不能局限於改成所據宋韻的反切，也應該著眼於根據宋韻的讀音對五臣音注進行改良。

參考文獻

- [1]（梁）蕭統編，（唐）呂延濟等注. 文選[M]. 東京大学東洋文化研究所所藏漢籍善本全文影像資料庫 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7810900&order=rn_no&no=01707
- [2]（梁）蕭統編，（唐）呂延濟等注. 文選[M]. 東京大学東洋文化研究所所藏漢籍善本全文影像資料庫 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7811000&order=rn_no&no=01706
- [3]（梁）蕭統，（唐）呂延濟等注. 《文選》[M]. 台北永嘉室，1981.
- [4]（梁）蕭統，（唐）李善注. 《文選》[M]. 中華書局，1977.
- [5]（宋）陳彭年等. 宋本廣韻[M]. 北京：北京市中國書店，1982.
- [6]（宋）丁度等. 宋本集韻[M]. 上海：上海古籍出版社，2017.
- [7]大島正二. 曹憲《博雅音》考：隋代南方字音之一樣相（上）[補稿]資料 1・音注總表[J]. 北海道大學文學部紀要，1984，33（1）.
- [8]董宏钰. 陈八郎本《昭明文选》五臣音注研究[D]. 长春：长春师范学院，2012.
- [9]傅剛. 文選版本研究[M]. 北京：北京大學出版社，2000.
- [10]高博. 正德本《昭明文选》音注研究[D]. 长春：长春师范大学，2018.
- [11]龍宇純. 唐寫全本王仁昫《刊謬補缺切韻》校箋[M]. 香港：香港中央大學出版社，1968.
- [12]周助初輯. 唐鈔文選集注彙存[M]. 上海：上海古籍出版社，2000.

『新刻官音彙解釋義音註』(乾隆十三年重鐫本)序文訳注をめぐって
Translation and Annotation of *Xinke Guanyin Huijie Shiyi Yinzhu* (新刻官音彙解釋義
音註) Preface

大島吉郎

OSHIMA Yoshiro

Abstract : 本文拟对《新刻官音汇解释义音注》(乾隆13年重鐫本)序文进行日译并语词注解,以便阐述该书与雍正至乾隆年间展开的正音运动之间的关系。

Key Words : 『新刻官音彙解釋義音註』 乾隆十三年重鐫本 序文 訳注 雍正六年上諭

目次

- 1 はじめに
- 2 『新刻官音彙解釋義音註』序文
- 3 序文訳
- 4 序文訳注
- 5 おわりに

引用文献

参考文献

関連年表

1 はじめに

清朝雍正6(1728)年より乾隆39(1774)年までの大よそ46年間にわたって繰り広げられた正音運動¹の過程で生み出された教本の一つに『新刻官音彙解釋義音註』がある。同書は福建省における正音普及を目的に編まれた官話教本であり、上下2巻よりなる。乾隆13(1748)年に初版が刊行され、現存するテキストは重刊本2種である。

本稿はその「乾隆十三年仲春、漳浦西湖八十四老人蔡爽伯龍氏²纂著『新刻官音彙解釋義音註』」に記された序文「官音彙解釋義序」の訳注である。

¹ 福建、広東両省を対象に繰り広げられた言語政策。

² 蔡爽伯龍氏については高田時雄(1997:pp.777)、木津祐子(2001:pp.68-69)参照。生卒年、履歴等詳細は不明であるが福建省にゆかりのある人物であると考えられる。

本資料は封面に『註釋官音彙解』と書名を表記するが、上下巻第一行にそれぞれ『新刻官音彙解釋義音註』と記されることから、これを書名とすることが通例となっている。

上巻 新刻官音彙解釋義音註 龍江書屋梓行

下巻 新刻官音彙解釋義音註

本資料がどのような経緯で刊行されるに至ったのか、またその目的を記す序文は木津祐子（2001:pp.71）に翻刻が示されているが、木津論文が執筆された当時、臺灣中央圖書館臺灣分館蔵「萬寶樓鑑本」のみ利用が可能な状況ではあったものの、「相當の破損が進んでおり、（中略）迅速に破損の補修を行った上で、複製本を作製」することで、ようやく本資料の検討が可能となったことが記されており、十全な版本の利用が難しかった状況が伺える。判読不能な箇所があるため、テキストの本文校訂には万全を期し難かったことにより、序文の訳出に困難を来したものと推測される。本稿では改めて序文を翻刻するとともに、木津論文に記載の序文に基づき校訂、訳注を行おうとするものである。「鑑」、「採」を除き、本稿では簡体字を用いて翻刻を行った。

序文自体は句読点を含めても 521 字しかない短い文章であるが³、清代中期における文言、書面語、口語（白話）語彙が融通無碍に使用され、一見読み易そうな印象を受けるものの、文体が統一されておらず、さらに文脈には飛躍が見られるなど、当時の社会背景を踏まえた上で行間を補わないと訳文としての体を成さないため、解説を含んだ訳文とならざるを得ない。訳注には一部、傍証として《論語》をはじめ、白話文からは《水滸伝》、《儒林外史》など他の資料から用例を挙げることにした。

現在利用可能な版本は以下の二種類である。いずれもインターネット上に PDF ファイルとしてデータが提供されており、閲覧に制約は設けられていない⁴。

(一) 法政大学沖繩文化研究所蔵『新釈官音彙解』⁵

(二) Yale University Library 『新刻官音彙解釋義』⁶

二本とも封面に「萬有樓重鑑」⁷の記載があり、本文について異同が認められないため、臺灣中央圖書館臺灣分館蔵「萬寶樓重鑑」本と同一の版本であることが確かめられる。

訳注に当たっては、主に

罗竹风主编・汉语大词典编辑委员会汉语大词典编纂处编纂

1986年・上海辞书出版社《汉语大词典》12卷・附录索引1卷

³ 白文では 384 字。

⁴ 臺灣中央圖書館臺灣分館蔵本は現在のところインターネット上に公開はされていない。管見の及ぶ範囲で現在までのところ、日本国内の公的機関にこの版本は収蔵されておらず、大塚秀明先生個人蔵のものが唯一のテキストである。

⁵ 2021年6月現在、法政大学機関リポジトリよりダウンロードが可能。

⁶ Title は「Xin ke Guan yin hui jie shi yi / Cai Shi zuan zhu.」。2021年6月現在、下記 URL にて閲覧可能。https://collections.library.yale.edu/catalog/15497392

⁷ 木津（2001:pp.71）によれば、臺灣中央圖書館臺灣分館蔵本には「萬寶樓重鑑」の記銘がある。「重鑑」されたのが何時なのかは今後、新たな資料の出現を待たなければ解決することが困難である。

を参照し、恩恵に与った。

本書『新刻官音彙解釋義音註』には簡約版としての『新刻官話彙解便覧』があり、汲古書院より影印本が刊行されている。⁸

『(新刻)官話彙解便覧』、長澤規矩也編『明清俗語辭書集成』第三輯所収、1974 汲古書院刊 (pp.397-447)

同書序文(小引)の前半部分は『新刻官音彙解釋義音註』序文に基づきつつも差し換えられており、後半部もそのままではなく、読みやすさを考慮してか省略と書き換えが施されている。

此书后凡有圈者係白音，有正字者乃官音，旁有字者注解，内白音。有字者以本字解之，或无字可解则借别字全音者呼平上去入解之。音注白音者，白音即官音也。

内中物类十全，注解明白，次序不杂。初学者一件学过一件自然通晓。间或有忘记者，各有门类可考，不至遗失。若要腔口好听，另有唇喉齿舌等音细会，自出是在学者之专心致志焉耳。⁹

2 『新刻官音彙解釋義音註』序文

『新刻官音彙解釋義音註』萬有樓重鐫本、萬寶樓重鐫本に記される序文は以下の通りである。全文白文であり、段落に分けられてはいない。本稿では内容に基づき前半、後半に分けることとした。

夫官音者，天下之正音也。音曰正，非若村谈俚语，各有音义，所以通行天下，不可不谙。如出仕临民，晋接理讼，一句不通，何以居官。商旅江湖，打店打馆，应答不来，何以外出。似此如聋若哑，害孰甚焉。况今圣天子以闽越不通官音，叮咛告诫¹⁰，颁在学政，几于颖秃，特设正音学师，通行教导学习，何等郑重，则学之诚亟亟也。我闽人不学之故，以为平居无事，不当要紧，故丢置不介意。即有一二学之无成者，只因茫无头绪，难以学习，又不识音义，无甚意味，是以畏难中止。

予年少时尝往京师，到监有年。所经历之地，必向土人而问话焉。且与善知音者谈论讲究，几废寝食。凡山陕等未到之处，每遇其人，不惮请教参考，务得音义，分门归类，汇集详解，以著一书，因窃其名，曰官音汇解音义。内中物类¹¹十全，注解明白，次序不杂，颇有头绪，勤以学习，且有奇义¹²玩索意味，初学者，件件学过一件，必然谙晓。间或有忘记者，

⁸ 関西大学 HP 参照。

⁹ 翻刻は簡体字に依った。句読は木津(2001:pp.66)による。

¹⁰ 木津(2001:pp.71)は「苦誠」とするが「告誡」に校訂する。

¹¹ 木津(2001:pp.71)は「無類」とするが「物類」に校訂する。

¹² 木津(2001:pp.71)は「音義」とするが「奇義」に校訂する。「奇」と「音」の字形に近いことに起因する。

各有门类可考，不至遗失。若要腔口好听，另有唇喉齿舌等音，细会自得、习惯自然是在学者之专心致志，勿荒于嬉焉尔，特付之梓。¹³以公诸同志者惟¹⁴知音者俯採而鉴赏之。故为之序。

3 序文訳

今この書物の名称に用いる官音とは、広く我が国の官話で話される正音（正統な発音）のことである。発音が正統であると言うのは、それが方言やその土地々々の言いまわし（訛り）でなく、それぞれの語に正統な読み方と（共通に認識される）意味があるからであり、それ故天下に通行しているのであるから、必ずや習熟しておかねばならない。官吏となって他省に赴き政務を司るに当たり、訓諭（行政文書）を宣読¹⁵し、訴訟を審理するには、互いに言葉が通じなくては官吏としての職務を果たすことが出来ず、官吏たるに値しない。交易で様々な土地に赴き、投宿、食事をするにも、その土地々々で言葉が通ぜず遣り取りが出来なかったとしたら、知り合いもおらず地理不案内な土地へ出かけるなど出来るはずもない。このように正音が話せない、聞けないとしたら、どれだけ人に迷惑を及ぼすことになるであろうか、もたらされる不便、不都合は甚だ深刻である。まして今般皇帝陛下からは、閩越（福建・広東）の地では官音が通じないことから、部議¹⁶を提督学政に公布し、域内各地の衙門に遍く徹底して書き写させ、特別な措置として正音学師を（省外からも）任用し、広く正音を教え習得せしめるよう幾度となく敕命が下された。皇帝陛下の方針は実に重々しく、いかに厳粛に受け止めるべきであるかを考えれば、正音を学ぶことは速やかに実行に移さねばならないのである。我が閩の人々（命令を受け実行に移すべき官吏と、正音を学ぶべき生徒）が正音を学ぼうとしないのは、日常の仕事や普段の生活において、特段何事も無く平穏に暮らしており、緊急、重大な出来事が身近に起きない事から、その必要性を感じる事も無く、自ら進んで取り組もうとしないのである。中にはごくわずかに習得しようと取り組んではみるものの、何ら学習の成果が上らない者がいるのは、学ぼうにも雲をつかむような話で手掛かりが無く、どう学ぶべきか筋道も分からず、さらには韻書に基づく正音、字書による正しい語の解釈に基づくべきことを知らないがために、学び始めたとしても手応えが得られず興味を持つ事も無いため、虚しい思いに駆られ、その先の困難に恐れを成し途中で投げ出してしまうからに他ならない。

私は若いころ京師に赴き国士監に数年在籍していたことがある。命を受け（他省の）任地に赴いた際には、必ず行く先々でその土地の者に現地の言葉を尋ねたものである。それ

¹³ 木津（2001:pp.71）は句詠を“特付之梓以公。”とするが原典に従い“特付之梓。以公诸同志者”に校訂する。

¹⁴ 木津（2001:pp.71）は「唯」とするが「惟」に校訂する。

¹⁵ 高田時雄（1997:pp.774）参照。

¹⁶ 上諭に基づき中央官庁で為された決定。中央からの行政命令。

のみならず土地の発音に詳しい識者¹⁷と意見交換を行い、音韻について知識、理論をめぐって議論することもあり、寝食を忘れるほど集中して取り組んだ。山西、陝西など出向いたことのない土地（西北地方）の言葉（官話）については、その地方出身の人に会うたびに忌憚なく教を請い、本書の参考とするために必ずや発音と意味を確かめ明らかにし、記録に留めた語句を意味ごとに分類整理し、広く体系的に収集し詳しく解説を施すことに努めることで一冊の書物を作り上げた。これを恐れ多くも一先ず『官音彙解音義』と称する。編集を施した項目に収められた事物は、（行政、日常生活に必要な）あらゆる分野を網羅しており、音注、釈義は分かり易く、易しいものから難しいものへと段階が設定されているなど、学習上の手掛かりが与えられており、学びや易くなっている。そのみならず、普段目にしたり接したりすることのない珍しい語や意味が出て来ても、その語をめぐって興味を持って考えをめぐらせば、初めて学ぶ者であっても、一項目ずつ、順番に学び知識を積み重ねて行くことで、必ずや仔細にその語の意味を理解し身に付けることが出来る。あるいはたまたま思い出せない語や意味があったとしても、その都度分類された項目に従って調べることが出来るので、忘れて分からなくなってしまう心配はないのである。もし標準的で正確な美しい発音を身に付けたいと考えるなら、別途唇音、喉音、歯音、舌音について実際の発音を（正音学師に就いて）学ぶ必要がある。自ら発音の仕方を注意深く観察することで要領を得て、自然で流暢なレベルに到達するには、学習者がただひたすら集中して一心不乱に努力する以外に方法は無く、決して享楽に耽り学習を疎かにしてはならない。そのような意味から特にこの教本を印刷に付し、広く志を同じくする識者に開示する。音韻に詳しい方々には、手に取り取り高覧頂きたく、本書のために序文を為す。

4 序文訳注

001 夫：〔夫官音者〕指示代名詞。近指、遠指、汎称に用いる。

002 官音：〔夫官音者〕字義では官話の発音の意。広義では「官話」を指す。文脈からは「官話」と同義に用いることもある。本序文では“村談俚語”と対比的に用いる。

003 者：〔夫官音者〕この文脈では文章の主題である「官音」に焦点を当て、書き手にとっては熟知した内容であっても、読み手にとってはこれから展開される新情報であることを示している。「～とは、～というものは（何かというと…）」。

004 天下：〔天下之正音也〕中華と外夷からなる天子（皇帝陛下）の威光の及ぶ範囲。雍正帝が年頭においた版図の意であるが、為政者の立場からは本書が刊行された乾隆初期における清朝の統治範囲（本書では特に福建、広東両省に焦点を当て「天下」の威光をかざそうとする意図が窺える）。明朝から受け継いだ版図域内における識字層（知識人による富裕層、支配階層）と非識字層（一般庶民）から成る。識字層は士（士大夫）と庶（郷紳）に

¹⁷ 科挙の郷試に際し正統な韻書により音韻に関する知識を有する読書人を指すものと思われる。

分けられる。天下が治まるのは「文治」によるものであり、「文治」は天下に遍く共通の言語が用いられることを前提とする思想。

005 之：〔天下之正音也〕連体修飾語を導き、後置する体言が被修飾語であることを示す助詞。現代漢語の“的”に相当。

006 正音：〔天下之正音也〕識字層において標準、基準とされる発音。“官音”を「官話」の意と解すれば“正音”は「正統な標準的通用の言語」。中国音韻学では「轉音」、「変音」の対義語として用いられる¹⁸。莎彝尊撰『正音咀華』咸豐癸丑（1853）刊本は「十問」で「何为正音，答曰：遵依钦定《字典》、《音韵阐微》之字音即正音也。」、また「何为北音，答曰：今在北燕建都，即以北京城话为北京音。」と記す¹⁹。

007 也：〔天下之正音也〕文末の助詞。句読点のはたらきを成す。この文では繫辞の機能も担っていると考えられる。〔子曰，不患人之不己知，患己不知人也：《論語・学而第一》子の曰く、人の己を知らざるを患えず、人を知らざることを患う²⁰〕

008 音：〔音曰正〕この文脈では既出の「官話の発音」を指す。

009 曰：〔音曰正〕動詞。現代漢語では“説、叫”に相当する。

010 正：〔音曰正〕正統。

011 音义：〔各有音义〕漢字一つひとつの正統な発音と意味。発音は韻書（例えば《中原音韻》）、意味は字書（例えば《康熙字典》）により示される。

012 谙：〔不可不谙〕詳しく知る。通曉する。“谙晓”とも。

013 出仕：〔出仕临民〕故郷を離れて官吏、官僚として朝廷に仕え、他省に赴き、衙門（官庁）で政務を執る。清代において科挙に及第し官吏となった者は出身地の省に赴任出来ない決まりがあった。雍正6年上諭末尾の文“则伊等将来引见殿陛，奏对可得详明，而出仕他方，民情亦易于通达矣。”に用いられている。

014 临民：〔出仕临民〕民を治める。上諭の“莅民”を言い換えたもの。〔居敬而行简，以临其民，不亦可乎：《論語・雍也而第六》敬に居て簡を行ひ、以て其の民に臨まば、亦た可ならずや²¹〕

015 晋接：〔晋接理讼〕民が官の前に進み出て行政命令を受ける。訓諭を宣読する：高田時雄（1997:pp.774）参照。雍正6年上諭“宣读训谕，审断词讼”を言い換えたもの。

016 理讼：〔晋接理讼〕訴訟を審理する：官吏としての重要な政務の一つ：高田時雄（1997:pp.774）参照。雍正6年上諭“审断词讼”に基づく。

017 商旅：〔商旅江湖〕交易のために遠方の地に出かける。

018 江湖：〔商旅江湖〕もっぱら“村谈俚语”が話される俗世間、巷間。官話が話される官

18 许嘉璐主编（1990:pp.574）「正音」の項参照。

19 许嘉璐主编（1990:pp.574）「正音咀华」の項参照。

20 金谷治訳注『論語』岩波書店 1963（pp.26）参照。

21 金谷治訳注『論語』岩波書店 1963（pp.75-76）参照。

界や士大夫中心の読書人の階層（識字層）と対比的に用いている。〔叙说些闲话，江湖上的勾当，不觉红日西沉²²：《水浒传・第9回》何くれとない世間話、なにかまうちの取沙汰をするうちに、いつしか赤い夕日も西に沈み、…²³〕

019 打店：〔打店打館〕宿を取る、泊まるの意。“店”は宿屋、旅籠。殷晓杰・胡寻儿（2021：pp.57）参照。“打铺”は宿屋で寝床を設える意。例えば、〔吃了一回酒肉饼子，酒保就店里打了一铺，安排呼延灼睡了²⁴：《水浒传・第57回》と、酒と肉と饅頭をひととおり、食べおわりますと、給仕は、店の中に寝床を一人分しつらえて、呼延灼をねかせました²⁵〕

020 打館：〔打店打館〕“館”は「濃い粥」。お金を出して食事を取る、食事をするの意。

021 应答不来：〔应答不来〕「動詞＋得／不＋来」という可能補語の否定形。（不慣れなため）きちんと応対することが出来ないの意。“得／不”は可能を表す助詞。

022 害孰：〔害孰甚焉〕誰か人に害を及ぼす。“孰”は疑問ではなく汎称。

023 甚：〔害孰甚焉〕形容詞。甚だしい。ひどい。

024 焉：〔害孰甚焉〕文末の助詞。感嘆、詠嘆の語気を表す。

025 何以：〔何以外出〕どのようにして。どのような方法、手段により。〔不敬何以別：《論語・為政第二》敬せずんば何を以て別たん²⁶〕

026 外出：〔何以外出〕普段生活する領域（“本地”）の外に出かける。言語、生活習慣が異なり、人的ネットワークが機能しない異域（“外地”）へ足を踏み入れること。

027 圣天子：〔况今圣天子〕今上皇帝：天子に対する尊称。本書の序文が書かれたのが乾隆十三（1748）年であることを前提とすれば乾隆帝（高宗：在位 1735-1796、1799 崩御）を指す。原文では改行の上、二文字上げて文面を作成している。本稿末尾に付した図像参照。

028 闽越：〔以闽越不通官音〕福建、広東両省。特に福建、広東を名指して正音の普及に努めようとするのは、この地が反清朝の地方擾乱の根拠地となり、統治の妨げとなることを防ぐ手段の一つとした政治的意図が考えられる。雍正6年上諭に見える“朕每引见大小臣工，凡陈奏履历之时，惟有福建、广东两省之人，仍系乡音，不可通晓。”を承けての表現。

029 官音：〔以闽越不通官音〕官話の発音。002 参照。

030 叮咛：〔叮咛告诫〕何度も繰り返して申し渡す：目上の者が目下の者に指示し、これに違わぬよう言い含めることを言う。この文脈では業務命令を下す意と解される。当初、正音の習得を8年の期限に定めていたものを2度にわたって猶予した事を踏まえている。本稿末尾の関連年表参照。

²² 上海古籍出版社刊《容與堂本水浒传》上卷 1988（pp.129）。

²³ 吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水浒传（一）』岩波書店 1995（pp.285）。

²⁴ 上海古籍出版社刊《容與堂本水浒传》下卷 1988（pp.848）。

²⁵ 吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水浒传（六）』岩波書店 1995（pp.215）。

²⁶ 金谷治訳注『論語』岩波書店 1963（pp.30）参照。

031 告诫：〔叮咛告诫〕“叮咛”と同義語。

032 頒：〔頒在学政〕（上諭に基づき審議の後策定された部議を）実効策公布する。公示する。《欽定学政全書》卷 65「各省事例・乾隆十年」の文書が該当する。即ち「又议准：闽省士民不谙官音。雍正七年间，于省城四门设立正音书馆教导官音。但通省士民甚多，一馆之内仅可容十余人。正音固难遍及，况教习多年，乡音仍旧更觉有名无实。应照乾隆二年裁彻额外教职之例，将四门正音书馆裁淘汰，仍责成州县教职，实力劝导通晓官音，毋使狃于积习。」

033 学政：〔頒在学政〕清朝の制度で“提督学政”の略称で“督学使者”とも称された。清朝中期以降、進士の中から3年任期で選ばれて各省に派遣され、府、庁などで童試、生員の選抜試験に当たった。省の長官は巡撫で、民政、軍政を司った。総督は2省、場合によっては3省を管理することもあった。清代はこの総督と巡撫に権限が集中し地方行政を担っていたことから「督撫重権」と称される。

034 几于：〔几于颖秃〕副詞。ほとんど。“几乎”と同義。

035 颖秃：〔几于颖秃〕（度重なる書写のため）筆先が摩耗してしまう。“颖”は小さくて細長い物の先端。“短颖羊毫”のように使われるところから「筆」の比喩と考えられる。

036 学师：〔特设正音学师〕教師。府、州、県の学官。当時“正音”を教授出来る教師は福建域内にはほとんどいなかったことが考えられる。張西平 2002 参照。

037 何等：〔何等郑重〕程度副詞。何と、いかに（～なことか）。〔浦郎自想：“这相国、督学、太史、通政以及太守、司马、明府，都是而今的现任老爷们的称呼，可见只要会做两句诗，并不要进学、中举，就可以同这些老爷们往来，何等荣耀！”²⁷：《儒林外史・第 21 回》浦郎はそっと考えた……「この宰相、督学、太史、通政、それに府知事、司馬、地方長官はみんな現職の偉様方の名だ。して見ると少し詩が作れるだけで、学校へなぞ入らず、科挙にも合格しないのに、こうした偉様方と往来出来る訳だ。いやこりゃ何て素晴らしい事だ！」²⁸“何等”には疑問代詞“什么样”の用法もある。

038 郑重：〔何等郑重〕“郑重其辞”（言辞に重みがあり、ゆるがせにしない）の意。

039 则：〔则学之诚亟亟也〕副詞。現代語“就”に相当。〔子曰、甯武子、邦有道則知、邦無道則愚：《論語・公冶長第五》子曰く、甯武子、邦に道あれば即ち知、邦に道なければ即ち愚²⁹〕

040 诚：〔则学之诚亟亟也〕副詞。本当に。確かに。

041 亟亟：〔则学之诚亟亟也〕切迫している。差し迫っている。〔见说闻舍人回来了，所以亟亟来拜，要问明白³⁰：《二刻拍案驚奇・卷 17》聞舍人が戻って見えたと聞いたので、急ぎ挨

²⁷ 上海古籍出版社 1984 年《儒林外史・上》（pp.288）参照。

²⁸ 岡本隆三訳『儒林外史・上巻』開成館 1944（pp.475）参照。

²⁹ 金谷治訳注『論語』岩波書店 1963（pp.71）参照。

³⁰ 李田意輯校《二刻拍案驚奇（上）》友聯出版社有限公司 1985（pp.387）参照。

揆に伺い、事の顛末を確かめようとした³¹⁾

042 我：〔我閩人不学之故〕“我閩人”では“我”を所有格として用いており、後出の“予”とは異なるニュアンスであることが伺える。

043 閩人：〔我閩人不学之故〕具体的には、福建域内で政務に当たる官吏と科挙を受験する識字層の男性を指す。雍正6年上諭以来の命令を実行に移すべき官吏の怠慢により、政策の実が上がらない事を言外に言っている。

044 不学：〔我閩人不学之故〕自ら進んで学ぼうとしない。“不”は「意志」の否定。

045 之故：〔我閩人不学之故〕現代漢語の“之所以”に相当。因果関係を表す複文の結果から先ず述べる言い方。

046 平居无事〔以为平居无事，不当要紧〕官音を身に付けるといふ雍正帝以来の至上命題があるにも関わらず、それに取り組むこともせず無為に過ごしても何ら支障が無いと考えることを言う。“以为”と“不当”を正反両面から対比的に用いる。

047 不当要紧〔以为平居无事，不当要紧〕重要な事と考えない。かつて限られた年限で正音を身に付けなければ、科挙を受験する資格が与えられなくなる制度が設けられていたが、いまではそれ烏有に帰してしまい、正音の習得に対して何とも思わないでいる事を指す。徐珂編撰『清稗類鈔』「正音書院」(pp.566)では“地方官悉視爲不急之務”と指摘する。

048 即：〔即有一二学之无成者〕接続詞。仮定の譲歩を表す。“即使／就是…也…”の“即使、就是”に相当する。「仮に。たとえ～であったとしても」の意。

049 只因：〔只因茫无头绪〕“因为”の旧白話語彙。“因为”の意。〔我先要去寻他，只因父亲死了，不曾去得³²⁾：《水浒传・第3回》以前から訪ねて行こうと思っていたが、父親がなくなつたために、出かけられなかった³³⁾

050 茫无头绪：〔只因茫无头绪〕曖昧模糊、漠然として筋道が分からず捉え処が無い。

051 难以：〔难以学习〕～することが難しい。～し辛い。“难于”とも。反義語は“易于”。

052 意味：〔无甚意味〕現代漢語では“没什么”の意。

053 意味：〔无甚意味〕意味、意義、やりがい。現代語の“意思”に通じているとすれば、「面白味、面白さ」の意とも取れる。

054 是以：〔是以畏难中止〕この事が原因となつて。

055 畏难：〔是以畏难中止〕困難に直面することを恐れる。

056 予：〔予年少时尝往京师〕一人称を表す文言の人称代名詞。この文脈では主格として用いている。“余”と同音。〔子曰，起予者商也，始可與言詩已然矣：《論語・八佾第三》子の曰く、予れを起こす者は商なり。始めて与に詩を言うべきのみ³⁴⁾

31 筆者訳。

32 上海古籍出版社刊《容與堂本水浒传》上巻 1988 (pp.28)。

33 吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水浒传(一)』岩波書店 1995 (pp.85)。

34 金谷治訳注『論語』岩波書店 1963 (pp.42) 参照。

- 057 京师：〔予年少时尝往京师〕国都。首都。“京师”という名称の由来については《漢語大詞典》1986 第 2 卷 (pp.351-352) 参照。
- 058 到監：〔到監有年〕国士監に赴任する。“監”は「国士監」（隋代から清末までの教育管理機関であり最高学府）を指す。
- 059 土人：〔必向土人而问话焉〕地方に暮らす現地の人間。その土地の者：“土”には「経済、文化などが立ち遅れた地域」というニュアンスが含まれる。
- 060 且：〔且与善知音者谈论讲究〕接続詞。それのみならず。更には。“而且、并且”の意。
- 061 知音者：〔且与善知音者谈论讲究〕発音、音韻論に詳しい識者。
- 062 几：〔几废寝食〕副詞。ほとんど～せんばかり。
- 063 山陝：〔凡山陝等未到之处〕山西、陝西の略称。
- 064 不憚：〔不憚请教参考〕～をものともしない、恐れない。憚ることなく～する。
- 065 务：〔务得音义〕助動詞。～しなくてはいけない。須らく～する。努めて～する。
- 066 以：〔以著一书〕「～することによって何らかの結果がもたらされる」ことを表す。“务…以…”のように用いられている。
- 067 窃：〔因窃其名〕副詞。ひそかに；謙譲語として用いる。後続する動詞句を修飾する。
- 068 其名：〔因窃其名〕それに名前を付ける。“名”は動詞で、名付ける、“其”は代名詞。既知（旧情報）であることを示す代名詞が目的語（賓語）となる場合、文言（古漢語）では動詞の前置されることがある。
- 069 内中：〔内中物类十全〕その中身、中、内容。
- 070 物类：〔内中物类十全〕物事の種類。
- 071 次序不杂：〔注解明白，次序不杂〕難易の傾斜がはっきりしている。“不杂”は「入り交じらない」、「杂」は“庞杂”の意。
- 072 颇有头绪：〔颇有头绪，勤以学习〕“茫无头绪”に対する反義的な言い方。“颇”は程度副詞で、現代中国語では“很”に相当。
- 073 勤以学习：〔颇有头绪，勤以学习〕“难以学习”に対して反義的に用いる。「学び易い」の意。
- 074 奇义：〔且有奇义玩索意味〕普段接したり目にしたりすることのない珍しい単語とその意味。
- 075 玩索：〔且有奇义玩索意味〕何度も繰り返し考える。
- 076 初学者：〔初学者，件件学过一件〕“初学者”はヒト（動作主）と読むか、モノ（話題主語）と読むか判断が分かれる。“初学者”をモノとして「初めて学ぶ事柄」と読めば、“忘记者”は「忘れた事柄」の意となる。“初学者”をヒトと読めば、“忘记者”もヒト「(学んだことを) 忘れて思い出せない人」。『新刻官話彙解便覧』小引は“初学者一件学过一件自然通晓。”のように記し、“初学者”を主語としているように読むことが出来る。
- 077 件件：〔件件学过一件〕助数詞“件”の重畳型。“一件”を重ね型にして“一”を省略

した形式。教本の項目を「一つずつ順番に継続して」の意味を表す。『(新刻) 官話彙解便覧』では“一件学过一件”のように“一件”への書き換えが行われている。〔这太公和我父亲一般，件件定要自来照管，这早晚也未曾去睡，一地里亲自点看³⁵：《水浒传・第37回》ここの大旦那も、うちのおやじと同じこと。万事自分自身で見まわらぬと、気がすまぬらしい。こんな時刻にもまだやすまずに、せつせと自分で見まわっていらっしやる³⁶〕重畳型については董为光（2011:pp.43-44）参照。

078 学过：〔件件学过一件〕動詞＋“过”は「完了」義で、「(予定通りに) 済ませる」の意。動詞“过”は位置移動「経過」、「到達」義から、文化化して動詞に接辞し「何らかの事態・過程を経る、済ませる」義へと語義を拡張していったものと考えられる。〔先送与我逐细看过，好交给二相公查点³⁷：《儒林外史・第6回》二相公に渡して二相公が調べるのに都合の好い様、先きにわしの所へ持って来るんだ、詳しく調べ上げるから³⁸〕

079 谳晓：〔必然谳晓〕習熟通晓する。『(新刻) 官話彙解便覧』では“通晓”に書き換えられている。〔初学者一件学过一件自然通晓。〕

080 间或：〔间或有忘记者〕副詞。たまたま。

081 遗失：〔不至遗失〕忘れる。

082 腔口：〔若要腔口好听〕実際に発せられる（官話の）発音。

083 好听：〔若要腔口好听〕（正音が）耳に心地よい。（標準的で）美しく聞こえる。

084 唇：〔另有唇喉齿舌等音〕五音（唇音、舌音、齒音、牙音、喉音）の一つ。三十六字母の中の「帮滂并明非敷奉微」八母。

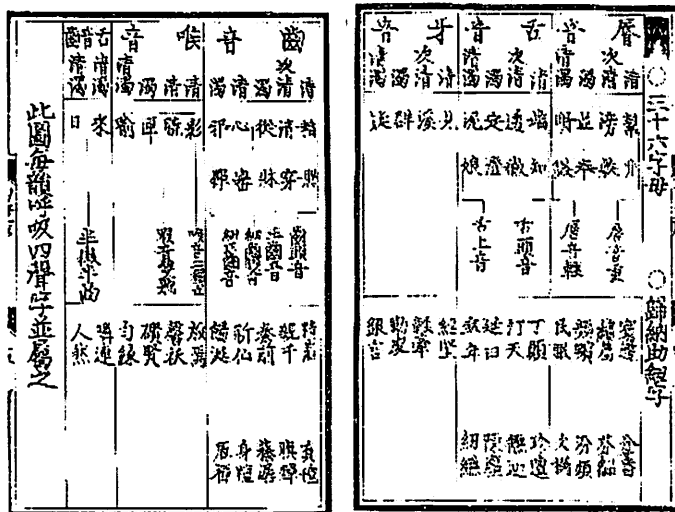
³⁵ 上海古籍出版社刊《容與堂本水滸傳》上卷 1988 (pp.531)。

³⁶ 吉川幸次郎・清水茂訳『完訳水滸伝（四）』岩波書店 1995 (pp.138)。

³⁷ 上海古籍出版社 1984 年《儒林外史・上》(pp.95) 参照。

³⁸ 岡本隆三訳『儒林外史・上卷』1944 年開成館 (pp.147-148) 参照。

『覆永禄本韻鏡』



085 喉：〔另有唇喉齒舌等音〕五音（唇音、舌音、齒音、牙音、喉音）の一つ。三十六字母の中の「影曉匣喻」四母。

086 齒：〔另有唇喉齒舌等音〕五音（唇音、舌音、齒音、牙音、喉音）の一つ。三十六字母の中の「精清从心邪照穿床审禅日」十一母。

087 舌：〔另有唇喉齒舌等音〕五音（唇音、舌音、齒音、牙音、喉音）の一つ。三十六字母の中の「端透定泥知彻澄娘来」九母。

088 細会：〔細会自得、习惯自然〕仔細に学び会得する。

089 自得：〔細会自得、习惯自然〕自ら身に付ける。『(新刻) 官話彙解便覧』では“細会”に書き換え“自得”を削除するとともに、“自出”を加えて後続する文の動詞とする：“自出是在学者之专心致志焉耳”。

090 习惯自然：〔細会自得、习惯自然〕すっかり身に付け、高いレベルに達して不自然さが無くなる。現代語では“习惯成自然”。

091 专心致志：〔是在学者之专心致志〕一意専心。一心不乱に努力する。

092 勿：〔勿荒于嬉焉尔〕「禁止」を表す副詞。～してはいけない。

093 荒：〔勿荒于嬉焉尔〕動詞。廢れる、荒廢する。〔业精于勤，荒于嬉；行成于思，毁于随；韓愈《進学解》学業は精励することにより段階が進み、安逸に流れることで後退する。徳行は思考を深めることで実現され、因習に流されることで高尚さを失う³⁹⁾

094 嬉：〔勿荒于嬉焉尔〕（学業を放棄し）快樂にふける。邓洪波（1994:pp.80）が引用する

39 筆者訳。

「乾隆元年部議」に記される一段“粵東乡音不可通晓，近令有力之家，延请官话读书之师，教其子弟，如八年之外，不能官话者，举人贡监生童俱暂停其考试，遵照在案。但偏方士子溺于士俗，转瞬限满，而问以官话，多属茫然，请于八年之期，再为展限，以俟优游之化。”が元になっているものと思われる。

095 尔：〔勿荒于嬉焉尔〕文末の助詞。“而已”に相当。

096 付梓：〔付之梓〕版木に彫り印刷刊行する。

097 公诸：〔以公诸同志者〕～に公にする。“诸”は“之于”の意。

098 惟：〔惟知音者俯採而鉴赏之〕乞い願わくは。“愿、希望”の意。

099 俯採：〔俯採而鉴赏之〕“俯”は“俯首”の意。“採”は「選び取る」の意。

100 鉴赏：〔俯採而鉴赏之〕“欣赏”の意。気に入りに評価する。

101 序：〔故为之序〕序文をしたためる。

5 おわりに

高田時雄（1997:pp.774）は雍正6（1728）年7月⁴⁰の上諭が下された背景について、以下のように述べる。

官話とはまさしく役人（マンダリン）たちによって話される（或いは話されるべき）言葉であったが、官吏登庸試験に合格して官員の列に加わったものの中にも、出身地の如何によっては、この言葉を上手く操れないものたちのいたことは當然である。当時の中國の教育制度には全國共通語を學習させるようなシステムは存在しなかった。なかんずく北方語との差異の大きい福建・廣東兩省の出身者こういった者が集中したことも理解しやすい。雍正帝はこの現状に鑑み、即位して六年目の七月、特に福建・廣東兩省に對して官話の學習を要求する上諭を發したのである。その大意は以下のようなものであった。

「官員は人民に接する責任を負っているのであるから、話す言葉も人々に理解されるものでなければならぬ。それでこそ民情にも通じ行政も誤りなきを得るのである。……しかるに朕が大小の臣下を引見し、彼らの履歷奏上を聞くたびに、福建・廣東兩省のもののみはなお方言が抜けず、言っていることが分からぬ。……これでは他省の任地に赴いても、訓諭を宣讀し、訴訟を審斷するのに、どうして人民たちに分かり易く明瞭に理解させることができようか。官民上下のあいだに言葉が通じなければ、かならずや胥吏の通譯を待たねばならぬ。さすれば言葉を飾り言い替えをなくすなど、百害の生ずることになり、事の誤りを招くことは多いに違いない。……しかし言葉は幼い頃からの習慣であるから、すぐには改め難かろう。徐々に導き、長い時間をかけて通じるようにする

⁴⁰ 『大清世宗憲（雍正）皇帝實錄』（pp.1104・1105）によれば「雍正六年八月甲申」。

のが望ましい。そこで福建・廣東兩省の督撫に命じて、所屬の各府州縣および教官に傳達せしめ、各種方法を講じて、言語を明瞭にして人の理解し得るようにすべきである。従前の如く方言の習性にとどまってはならぬ。」

高田時雄（1997:pp.774）は雍正六年七月の上諭について『東華録』雍正六年七月（pp.484-486）に基づくと注記するが、蔣良騏撰、林樹惠・傅貴九校点『東華録』（中華書局 1980）『東華録』雍正六年七月の部分（巻 29:pp.484-486）、また同年八月の部分（巻 29:pp.486）にも該当する記述が見られない。『東華録』は「雍正 6 年上諭」と直接の関わりを持たないと言ってよいであろう。

邓洪波（1994:pp.79）は、この上諭について「清陈昌斋等撰同治《广东通志》卷 1《训典》⁴¹及清刘良壁等撰乾隆《重修福建台湾府志》卷首《圣谕》等都载此谕。」と述べ、上諭を引用する。『大清世宗憲（雍正）皇帝實録』に収められる上諭が原典に最も近いと考えられることから、字句の異同について調べてみると、短い文章であるにも関わらず多数書き換えが行われていることが見て取れる。以下は『大清世宗憲（雍正）皇帝實録』に収められている雍正 6 年上諭を便宜的に簡体字で翻刻したものである。

官员有莅民之责，其语言必使人人共晓，然后可以通达民情，熟悉地方事宜，而办理无误。是以，古者六书之制，必使谐声、会意，娴习语音，皆所以尊道之风，著同文之治也。朕每引见大小臣工，凡陈奏履历之时，惟有福建、广东两省之人仍系乡音，不可通晓。夫伊等以见登仕籍之人，经赴部演礼之后，其敷奏对扬，尚有不可通晓之语，则赴任他省，又安能于宣读训谕，审断词讼，皆历历清楚，使小民共知而共解乎？官民上下语言不通，必致吏胥从中代为传述，于是添饰假借，百弊丛生，而事理之貽误者多矣。且此两省之人，其语言既皆不可通晓，不但伊等历任他省不能深悉下民之情，即伊等身为编氓亦必不能明白官长之意。是上下之情扞格不通，其为不便实甚。但语言自幼习成，骤难改易，必徐加训导，庶几历久可通。应令福建、广东两省督抚转饬所属各府、州、县有司及教官，遍为传示，多方教导，务期语言明白，使人通晓，不得仍前习为乡音。则伊等将来引见殿陛，奏对可得详明，而出仕他方，民情亦易于通达矣。

高田（1997:pp.774）では上諭を発する動機付けとなる具体的な事例の有無について触れる所が無い。張昂霄（2016:pp.97）も「文治」主義の思想を同様の動機付けとして挙げが、詔勅としての上諭発布の理由とするには根拠が乏しいのではなからうか。広東、福建を束ねる総督、巡撫からの上奏が端緒となっている可能性を指摘し、今後『雍正朝漢

⁴¹ 阮元修・陳昌齊・劉彬華等纂『廣東通志』（pp.58-59）参照。

文殊批奏摺彙編』⁴²の調査を行うことで、新たな事実関係が明らかとなることが期待される。

蔡伯龍氏『(新刻)官音彙解釋義音注』序文は、乾隆十三年という刊行記にもかかわらず、明らかにこの上論に基づき、この上論を根拠に雍正、乾隆年間に公布された関連部議を踏まえて書かれたものであると言えるであろう。

乾隆 39 (1774) 年を持って正音普及のための活動は潰え去ってしまったものの、朝廷の言語政策とは関係なく、正音学習のための教本は同治 6 (1867) 年刊『正音再華傍注』まで連綿と編まれている。このような現象が見られる背景についても、今後検討を加える余地があるであろう。

引用書目

- [01] 蔡伯龍纂乾隆十三 (1853) 年萬寶樓重鐫『(新刻)官音彙解釋義音注』
- [02] 『(新刻)官話彙解便覽』、長澤規矩也編『明清俗語辭書集成』第三輯、1974 汲古書院刊 (pp.397-447)
- [03] 莎彝尊撰『正音咀華』三卷續編一卷、咸豐癸丑 (1853) 刊本
- [04] 蔣良騏撰、林樹惠・傅貴九校点『東華錄』、中華書局 1980
- [05] 古逸叢書十八『覆永祿本韻鏡』、古籍出版社 1955
- [06] 『大清世宗憲 (雍正) 皇帝實錄』、臺灣華文書局 1969
- [07] 『雍正朝漢文硃批奏摺彙編』全 40 冊、中国第一歴史档案館編、江蘇古籍出版社
第 1 冊 - 第 10 冊 1989
第 11 冊 - 第 20 冊 1990
第 21 冊 - 第 30 冊 1991
第 31 冊 - 第 40 冊 1991
- [08] 阮元修・陳昌齊・劉彬華等纂『廣東通志』、上海古籍出版社 1990
- [09] 徐珂編撰『清稗類鈔』、中華書局 1981
- [10] 俞樾撰『茶香室續鈔』卷十五「正音書院」、中國文獻出版社 1968『春在堂全書』(pp.4515) 所収。
- [11] 俞正燮撰『癸巳存稿』、商務印書館 1957
- [12] 劉良璧撰『重修福建臺灣府志 (第一冊)』、臺灣銀行經濟研究室編印、臺灣中華書局

⁴² 同書全 40 冊に収められる硃批は次の通りである。第 1 冊 : 817 第 2 冊 : 806 第 3 冊 : 759 第 4 冊 : 769 第 5 冊 : 676 第 6 冊 : 747 第 7 冊 : 672 第 8 冊 : 705 第 9 冊 : 747 第 10 冊 : 718 第 11 冊 : 850 第 12 冊 : 825 第 13 冊 : 756 第 14 冊 : 729 第 15 冊 : 749 第 16 冊 : 708 第 17 冊 : 764 第 18 冊 : 794 第 19 冊 : 694 第 20 冊 : 704 第 21 冊 : 817 第 22 冊 : 765 第 23 冊 : 815 第 24 冊 : 817 第 25 冊 : 784 第 26 冊 : 858 第 27 冊 : 794 第 28 冊 : 780 第 29 冊 : 825 第 30 冊 : 561 第 31 冊 : 1016 第 32 冊 : 928 第 33 冊 : 1188 第 34 冊 : 1020 第 35 冊 : 1014 第 36 冊 : 1006 第 37 冊 : 982 第 38 冊 : 1002 第 39 冊 : 984 第 40 冊 : 984 全 32,929 条

参考文献

- [01] 大島吉郎 2021 『『新刻官話彙解釋義音註』(乾隆十三年重鈔本)における言語的特徴について—語彙を中心に—』、大東文化大学大学院『外国語学研究』第23号(pp.1-7)。
- [02] 大塚秀明 1996 「明清資料における官話という言葉について」、筑波大学『言語文化論集』第42号(pp.111-129)。
- [03] 木津祐子 2001 「『新刻官音彙解釋義音註』から『新刻官話彙解便覧』へ—併せて『新刻官話彙解便覧』音系の特徴について—」、高田時雄編『明清時代の音韻學』京都大學人文科學研究所刊(pp.65-87)。
- [04] 高田時雄 1997 「清代官話の資料について」、『東方學會創立五十周年記念東方學論集』東方學會(pp.771-784)。
- [05] 宮崎市定 1957 「雍正硃批論旨解題—その史料的价值」、『東洋史研究』15卷4号(岩波書店1991『宮崎市定全集』14所収pp.137-172)。
- [06] ————1958 「清代の胥吏と幕友—特に雍正朝を中心として」、『東洋史研究』16卷4号(岩波書店1991『宮崎市定全集』14所収pp.173-205)。
- [07] 陈云龙 2005 从“旧时正话”看明代官话、《语文研究》第1期(pp.60-64)。
- [08] 陈泽平 2004 试论琉球官话课本的音系特点、《方言》第1期(pp.47-53)。
- [09] ————2020 再论琉球官话的性质、《方言》第2期(pp.136-141)。
- [10] 邓洪波 1994 正音书院与清代的官话运动、《华东师范大学学报(教育科学版)》第3期(pp.79-86)。
- [11] 董为光 2011 汉语重叠式概说、《语言研究》第2期(pp.41-47)。
- [12] 葛本仪主编 1992 《实用中国语言学词典》、青岛出版社。
- [13] 郭晔旻 2011 雍正王朝的“推广普通话运动”、《紫禁城》第4期(pp.39-41)。
- [14] 耿振生 2007 再谈近代官话的“标准音”、《方言》第1期(pp.16-22)。
- [15] 侯精一 1980 清人正音书三种、《中国语文》第1期(pp.64-68)。
- [16] 黄薇 2018 清代中后期闽粤两地正音书材料、《泉州师范学院学报》第3期(pp.36-40)。
- [17] ————2019 清代闽地三种正音书考述、《辞书研究》第5期(pp.106-114)。
- [18] ————2020 清末闽南语圈正音书《官音便览》音系研究、《宁夏大学学报(人文社会科学版)》第6期(pp.42-48)。
- [19] 李坚 2015 清代潮州正音官学考辨、《清远职业技术学院学报》第2期(pp.35-38)。
- [20] 李宁 2019 论《唐话纂要》中相关假名的音值、《日语学习与研究》第6期(pp.40-49)。

- [21] ——2019 试论《唐话纂要》的音系性质、《方言》第1期(pp.55-63)。
- [22] 李宇明 2002 清末文字改革家的方言观、《方言》第3期(pp.193-200)。
- [23] ——2003 清末文字改革家论语言统一、《语言教学与研究》第2期(pp.1-11)。
- [24] 倪海曙 1988 正音书院、《中国大百科全书·语言文字卷》(pp.517)。
- [25] 史 鉴 1995 清代的语音规范、《语文建设》第12期(pp.43-44)。
- [26] 吴春玲 2009 清代及民国时期普通话的推广、《教育评论》第5期(pp.152-155)。
- [27] 吴永斌 2008 试析雍乾年间的官话运动、《民族教育研究》第2期(pp.113-116)。
- [28] 许嘉璐主编 1990 《传统语言学辞典》、河北教育出版社。
- [29] 叶宝奎 2008 也谈近代官话的“标准音”、《古汉语研究》第4期(pp.54-60)。
- [30] 殷晓杰·胡寻儿 2021 汉语“店铺”义词的历时演变及相关问题研究、《古汉语研究》第1期(pp.48-62)。
- [31] 曾晓渝 2019 中国传统“正音”观念与正音标准问题、《古汉语研究》第1期(pp.72-80)。
- [32] 张云霄 2016 雍乾时期闽粤地区的“正音运动”与“大一统”、《东北师范大学报(哲学社会科学版)》第1期(pp.93-98)。
- [33] 张卫东 1998 试论近代南方官话的形成及其历史地位、《深圳大学学报》第4期(未见)。
- [34] 张西平 2002 明清时期的汉语教学概况——兼论汉语教学史的研究、《世界汉语教学》第1期(pp.93-103)。
- [35] 张玉来 2005 朝鲜时期所传习的明代汉语官话的语音性质、《语言研究》第2期(pp.45-50)。
- [36] 朱永锴 1998 “蓝青官话”说略、《语文研究》第2期(pp.56-60)。

関連略年表⁴³

雍正6(1728)年	8月	正音に関する上諭。正音習得の年限を8年とする部議が策定される。
雍正7(1729)年		福建全省九府二州に正音書館、書院112箇所が設立。広東では「社学」を官話教学の組織とし、広州の附郭県、南海県に102箇所、番禺県に47箇所が設けられ、広東全省では正音社学が一千箇所近く設立された。
雍正10(1732)年	5月	『雍正硃批論旨』

⁴³ 年表作成に当たっては、邓洪波 1994、张云霄 2016、郭晔旻 2011、「欽定学政全書」、『重修福建臺灣府志(第一冊)』等を参照した。

雍正 12 (1734) 年		雍正帝より「額外正音教職」を設け、近隣の浙江、江西などから挙人、貢生の中で人選を行い、12 人の正音教師を福建に派遣する詔令が下される。福建を対象に、官音習得の年限を 8 年としていたものを、4 年延長して 12 年とする決定を下す。 『官語詳編』
雍正 13 (1735) 年	8 月	雍正帝没
乾隆元(1736)年		部議：広東省を対象に習得年限であった 8 年に 3 年を加える措置が取られる。
乾隆 2 (1737) 年		雍正 12 年上諭を基に乾隆帝より上諭があり、部議公布：福建省を対象に正音習得の年限を 4 年延長していたものを厳格に実行しないことを通達し、実質撤廃する決定が下される。
乾隆 10 (1745) 年		福建省各地城内の四門に設けられていた正音書院の廃止を決定する。
乾隆 13 (1748) 年		『新刻官音彙解釋義音註』
乾隆 39 (1774) 年		福建学政汪新重「振正音教育奏折」に対する批示（硃批）により、正音政策に終止符が打たれる。
乾隆 50 (1785) 年		『別俗正音彙編大全』
乾隆 59 (1794) 年		『新刻官話彙解便覧』
道光 14 (1834) 年		『正音撮要』
道光 17 (1837) 年		『正音辨微』
咸豊 3 (1853) 年		『正音咀華』
咸豊 10 (1860) 年		『正音切韻指掌』
同治 6 (1867) 年		『正音再華傍注』 Thomas Francis Wade『語言自邇集』初版

西湖蔡伯龍先生纂著

註釋官音彙解

萬寶樓重鐫

○官音彙解得或序

夫官音者天下之正音也。音曰正，非若村談俚語各有其音。

通行天下，不可不諳。如出仕賦民習理訟，一句不通，何以居官。

商旅江湖，打店打館，應答不來，何以外出。似此如聲若響，等類。

焉況今

聖天子以闡導不通官音，叮嚀告誡，頒在學曉，幾於頽沓，特設正音

師，通行教導，學習何等鄭重。則學之誠亟亟也。我闈人不學之

以為甲居無事，不當要緊，故去置不介意。即有一二學之，無成

抵因茫無頭緒，難以學習，又不識音義，無甚意味。是以畏難中

子年少時，僻在京都，到監有年，所歷歷之地，必向土人而問話，

且與善知音者談論，講究幾廢，寢食江山，陝等未到之處，每遇其

去聲官音彙解

不惟請教於考務得首義分門歸類彙集詳釋以著一書固難
 其名曰官音彙解音義內中物類十全註解明白次序不雜頗有
 頭緒堪以學習且有首義統索意味初學音件件學過一件必然
 諳曉間或有忘記者各有門類可考不至遺失若要腔口好聽必
 有唇喉齒舌等音細會自得習慣自然是在學者之專心致志勿
 荒於嬉焉爾特付之梓以公諸同志者惟知肯者俯採而鑒賞也
 故為之序

彙解音義目次

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ○ 身體舉動 | ○ 人品稱呼 | ○ 器具服飾 |
| ○ 宮室物料 | ○ 飲食調和 | ○ 衣服製作 |
| ○ 衙門訟獄 | ○ 管伍軍務 | ○ 將令神明 |
| ○ 戲耍音樂 | ○ 地理名勝 | ○ 姓氏教司 |
| ○ 天地山水 | ○ 士農工商 | ○ 禽獸魚虫 |
| ○ 花草果木 | ○ 病症醫藥 | ○ 珍產喪葬 |
| ○ 五穀蔬菜 | ○ 五色滋味 | ○ 寶貨布帛 |
| ○ 刑具軍器 | ○ 祭祀禮儀 | ○ 舟馬事件 |
| ○ 口頭套語 | ○ 笑談便語 | ○ 時本常談 |
| ○ 問答音屬 | ○ 家用什物 | ○ 雜類增補 |

『紅樓夢』前八十回と後四十回の比較研究
—形容詞重疊式を中心に

A Comparative Study of *Hongloumeng* between the First 80 Chapters and the
Rest 40 Chapters about Adjective Reduplication

胡春艷 李永春

HU Chunyan LI Yongchun

提要：本文以《紅樓夢》の前八十回和後四十回為研究語料，對前後文本中的形容詞重疊式進行了比較，運用統計學的方法考察了其前後的頻率差異，並通過前後文本中的形容詞重疊式的使用情況，探討了前後文本的風格差異，進而對前後文本是否是同一作者進行了檢驗。

キーワード：『紅樓夢』 形容詞重疊式 文体的特徴 統計的比較

目次

- 1 はじめに
- 2 形容詞重疊式の特徴
- 3 作風 (style) について
- 4 比較研究
- 5 おわりに

引用書目

参考文献

1 はじめに

『紅樓夢』は近代中国語から現代中国語への過渡的な言語資料であり、明清白話小説の代表作である。前八十回は曹雪芹の作と見なされる。後四十回の作者について、徐全太(1990:49)は、①曹雪芹の原作 ②高鶚の補作 ③作者不明の補作 ④杜芷芳の補作 ⑤乾隆、和珅が大金で程偉元、高鶚に補作させる。⑥曹雪芹の友人が、曹雪芹の原作によって、整理する。⑦懸案説、の七種類にまとめる。すなわち、後四十回は、曹雪芹の原作、他人の補作、両者の混合の三種類に分けられ、前八十回と後四十回は、同一の作者であるか否かによって議論される。

文学作品の作風は、作者が異なる言語手段を選択することによって、個人のスタイルが

実現される。このような観点から、本稿は、『紅樓夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式という言語手段の観察を通して、作者の文学的な風格を比較することにする。形容詞重畳式は、主観性と描写性を有し、作者の発話の意図と心情を最もよく表す。本稿では統計学におけるZ検定を用い、前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用頻度を比較することにより、作風に関する相違点を明らかにし、作者は同一であるか否かを検証する。

2 形容詞重畳式の特徴

形容詞重畳式は、AA型、ABB型、AABB型などのパターンに分けられる。主観性と描写性を有することは、形容詞重畳式の特徴の一つである。

2.1 主観性

Traugott(1995:31)は、「主観化」とは「意味が命題に対する話し手の主観的信念／態度に根ざすようになるプロセスである。」と定義する。沈家煊(2001:270)は、形容詞の重畳式は顕著な主観的な感情を帯びると指摘している。これは、観察者の態度と評価から「主観性」を把握するものである。「主観性」を有する形容詞重畳式は、作者の意図を表現するのに最も適していると考えられる。

2.2 描写性

俞稔生(2007:67)は、中国語の描写性を豊かにする手段としての文法項目のなかで、形容詞の重ね型は描写性が高いと述べている。李勁榮(2014:72,88)は、描写性は、形容詞の重畳式の基本的な文法的意味であると指摘する。王力(1943/1985:298)は、疊語の語彙手段を、修辞学のレベルで捉え、「擬声法」と「繪景法」の修辞手段に位置付ける。「繪景法是要使所陳述的情景歷歷如繪。(繪景法は、陳述する情景を活写し、繪画のようにさせることである。)」と指摘している。描写性を有することは、形容詞重畳式の特徴として共通認識である。

3 作風(style)について

3.1 定義

作風(style)について、南朝梁代の劉勰は、『文心雕龍』(卷六・体性第二十七)の中で、「若總其歸塗，則數窮八體。(もしもその帰趨をまとめるならば、数は八つのスタイルに尽きる。)」と指摘する。古代の中国語では、作風(style)は、「体」と呼ぶ。高明凱(1963:411-412)は、作風(風格)の定義について、さまざまなコミュニケーションの状況に適応し、特定のコミュニケーションの目的を達成するために、発生した雰囲気と言語のスタイルであると指摘する。

3.2 作品のスタイルの表現

祝克懿(2021:64)は、スタイルは、作品の存在を客観的な基盤として、作者の主体性を

通して、個体のスタイルが実現される主観的な要因であり、「作品」は「文学作品」で、とくに代表的な文学作品を指すと指摘する。作者の主観的な要素が異なれば、自ずと作品のスタイルも異なる。作品の中で、スタイルを表現する手段は言語である。すなわち、作者は異なる言語手段を選択することによって、個人の異なるスタイルを表現できる。

形容詞重畳式は、主観性と描写性を有する言語手段である。形容詞重畳式という言語手段の使用状況は、作者のスタイルを最もよく表現できる。胡裕樹（2011：505）は、疊語は異なる雰囲気と格調を表すと指摘している。以下は、『紅樓夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用状況を比較し、両者のスタイルの相違点を明らかにする。

4 比較研究

4.1 『紅樓夢』前八十回と後四十回の統計的なデータ

本稿の研究対象は、『紅樓夢』前八十回と後四十回における AA 式、ABB 式、AABB 式であり、文成分と語義が形容詞に合致する重畳式である。『紅樓夢』前八十回と後四十回における各形容詞重畳式のパターンに応じて、用例数を調査した。表 1 は『紅樓夢』における形容詞重畳式の語数を示したものである。

表 1 『紅樓夢』前八十回・後四十回における形容詞重畳式の語数

形容詞重畳式のパターン	『紅樓夢』前八十回		『紅樓夢』後四十回	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
AA 式	132	580	71	380
ABB 式	64	123	32	66
AABB 式	91	156	69	107

以上のデータから、『紅樓夢』前八十回における AA 式、ABB 式、AABB 式形容詞重畳式は後四十回より多いことが分かった。しかし、『紅樓夢』前八十回の字数は概ね 58 万、後四十回の字数は概ね 27 万であり、分布状況から見れば、前八十回における形容詞重畳式の語数は、後四十回より多いと言えない。

4.2 使用頻度からの比較

『紅樓夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用頻度を比較するため、各回の AA 式、ABB 式、AABB 形容詞重畳式の使用頻度を計算し、統計学の Z 検定を利用し、前八十回と後四十回の相違点があるか否かを検討する。

Z 検定は、正規分布を用いる統計学的検定法で、標本の平均と母集団の平均とが統計学

¹ 字数は「(前八十回) 曹雪芹著 (後四十回) 無名氏續 程偉元 高鶚整理 (2008)『紅樓夢』人民文學出版社」から統計する。

的にみて有意に異なるかどうかを検定する方法である。

『紅樓夢』前八十回における AA 式形容詞重疊式の使用頻度は正規母集団に従うサンプル N1 により、後四十回における形容詞重疊式の使用頻度は正規母集団に従うサンプル N2 によるとする。2つのサンプルは互いに独立していることを条件とする。本節では、以上の統計的な方法を踏まえ、二つの母平均の差に関する検定を用いて、二つのサンプルの平均値には差があるかどうかをテストする。²

$$Z \text{ 検定の公式} : Z = \frac{\bar{X} - \bar{Y}}{\sqrt{\frac{S_1^2}{m} + \frac{S_2^2}{n}}} \quad 3$$

そのうち、 \bar{X} は、『紅樓夢』前八十回における AA 式形容詞重疊式の使用頻度の平均値で、 \bar{Y} は、『紅樓夢』後四十回における AA 式形容詞重疊式の使用頻度の平均値である。 S_1^2 、 S_2^2 は『紅樓夢』前八十回と後四十回における AA 式形容詞重疊式の使用頻度の分散である。 m 、 n はサンプルの回数で、即ち、 $m=80$ 、 $n=40$ 。

即ち、 $\bar{X}=7.25$ $S_1^2=13.6375$

□ $\bar{Y}=9.5$ $S_2^2=26.2$

$$Z = \frac{\bar{X} - \bar{Y}}{\sqrt{\frac{S_1^2}{m} + \frac{S_2^2}{n}}} = \frac{7.25 - 9.5}{\sqrt{\frac{13.6375}{80} + \frac{26.2}{40}}} = -2.46$$

統計学では、一般的に、ある事象の発生確率が 0.05 である、或いは 0.05 より低いと「低確率事件」と呼ぶ。つまり、この事象は 5%の確率でしか発生しない。この低確率事象とは、つまり実際発生する可能性がほとんどない事象と指す。仮説検定では、一般的に元々の仮説（統計学では「帰無仮説」と呼ぶ、以下、元々の仮説を帰無仮説と呼ぶ）が正しいと先に仮定する。たとえば、この仮説に関する検定結果には、低確率事象が発生したことが分かったとしたら、帰無仮説が正しくないことも明らかになる。この場合、帰無仮説を棄却し、対立仮説（帰無仮説と相反する仮説）を採用する。一方、この仮説に関する検定結果には、低確率事象が発生しなかったら、帰無仮説を採用する。この内、帰無仮説を棄却する確率は統計学では『有意水準』と呼び、 α と記す。有意水準 α は 0.05 をとると、棄却域は： $|Z| \geq Z_{1-\alpha/2}$ である。 $Z_{1-\alpha/2}$ は 0.975 であり、正規分布表を調べると、対応する値は 1.96 である。⁴

それによって、AA 型形容詞重疊式に関する仮説検定の結果の絶対値は 1.96 より大きいと、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採用すべきである。一方、Z の絶対値は 1.96 より小さければ、帰無仮説をそのまま採用する。本研究の場合、 $|Z|$ の値は 2.46 であって、1.96 より大きいため、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採用することになる。この結果からすると、前八十回と後四十回の AA 型形容詞重疊の使用頻度についての平均値は、統計学的な

² 劉穎 肖天久 (2014) 「《紅樓夢》計量風格學研究」『紅樓夢學刊』第四輯 參考

³ 茆詩松 程依明 濮曉龍 (2011:368) 『概率論與數理統計教程』高等教育出版社 參考

⁴ 同上：P369

視点から見れば、違うことが明らかになった。

また、以上の Z 検定で ABB 式形容詞重畳式、AABBB 式形容詞重畳式の Z 統計量を計算し、ABB 式形容詞重畳式の Z 値は-0.33 であり、AABB 式形容詞重畳式の Z 値は-1.86 である。ABB と AABB 形容詞重畳式の場合、|Z| の値は 1.96 より小さいため、帰無仮説をそのまま採用した。この結果からすると、前八十回と後四十回の ABB 型形容詞重畳と AABB 形容詞重畳式の使用頻度についての平均値は、統計学的な視点から見れば、異なりがないと分かった。

4.3 具体的な使用例の比較

4.3.1 AA 式形容詞重畳式の使用例の比較

『紅樓夢』は白話小説だが、その中に韻文を混じえている。薛繼生 (1986:255) は、『紅樓夢』の前八十回における詩、詞、曲、賦などの韻文を考察した結果、190 例に達し、13000 字余りであり、前八十回の全文の 50 分の一を占めると指摘している。しかし、蔡義江 (2001/2004) がまとめる『紅樓夢』後四十回における韻文によると、それらは、36 例にとどまり、1500 字余りに過ぎないことになる。『紅樓夢』前八十回においては、「皚皚」「曖曖」「蒼蒼」「輝輝」など AA 式重言の用例が多く見られ、それらは韻文に出現する点が、注目される。『紅樓夢』前八十回における AA 型形容詞重畳式の 132 語のうち、49 語は韻文から出ており、約三分の一を占める。これに対して、『紅樓夢』後四十回における AA 型形容詞重畳式の 71 語のうち、7 語のみが韻文から出ており、約十分の一に過ぎない。

『紅樓夢』後四十回における韻文形式には、詩、偈、詞、酒令、歌などがあるものの、前八十回ほど豊富ではない。また、大部分は引用であり、独自の創作ではない。たとえば、「綠窗明月在，青史古人空」(第 89 回：p1245) について、蔡義江 (2001/2004：392) は、この詩は、唐代崔顥の「題沈隱侯八詠樓」からの引用であると指摘する。このように、『紅樓夢』前八十回と後四十回における韻文の使用率に焦点を当てると、両者には、著しい相違点がある。そのことが、前八十回の韻文における AA 式重言の豊富さに繋がっている。

4.3.2 ABB 式形容詞重畳式の使用例の比較

4.3.2.1 常規 (norm) と乖離 (deviation)

フィンランドの N.E.Enckvist (1964) は、「style as deviations from the norm (文体スタイルが常規を逸した乖離に由来する)」と定義すると述べる。現代文体学の創始者と言われるフランスの Charles Bally は、単純に理性概念を表す中立的な言語を常規 (norm) とし、感情効果や特定の社会的ニュアンスを持つ表現手段を乖離 (deviation) と見なし、中立的な言語を参考にして、異なる文体の表現方式を比較する。⁵王希杰 (1994:11) は、言語のスタイル機能を研究する方法について、零度のいかなる風格を持たない言語材料が存在することを仮定し、その零度の言語材料から様々な乖離を探究すると指摘する。

⁵ 許力生 (2006：59) 『文體風格的現代透視』浙江大學出版社から引用する。

本稿は、『紅樓夢』前八十回と後四十回の作品としての統一性を検証するため、形容詞重疊式という言語手段を採用する。以上の先行研究を踏まえて、形容詞重疊式の基式⁶を零度の中立的な常規とし、形容詞重疊式は基式からの乖離の形式として、異なる作風を表現する。

4.3.2.2 ABB 式形容詞重疊式の乖離

ABB 式形容詞重疊式は、同じ A でも BB によって、ABB の意味が異なる。A は零度の常規として、ABB は BB によって、様々な乖離を表す。

『紅樓夢』前八十回と後四十回における同じ A の ABB 形容詞重疊式は、以下の例を挙げることができる。

- ①亂烘烘（前） 亂紛紛（前） 亂糟糟（後） 亂騰騰（後）
- ②黑魍魎（前） 黑鬢鬢（前） 黑漆漆（後） 黑油油（後）
- ③直蹶蹶（前） 直挺挺（前/後）直瞪瞪（前/後）直滾滾（後）
- ④氣恨恨（前） 氣昂昂（前） 氣狠狠（前/後） 氣哼哼（後）氣噓噓（後）氣忿忿（後）
- ⑤白漫漫（前） 白汪汪（前） 白花花（前/後）白茫茫（前/後）

以下に、「白漫漫 白汪汪 白花花 白茫茫」を例に、説明してみよう。

(1)好一似食盡鳥投林，落了片白茫茫大地真乾淨！（第 5 回：p86）

(2)如此親朋你來我去，也不能勝數。只這四十九日，甯國府街上一條白漫漫人來人往，花簇簇官去官來。（第 13 回：p175）

(3)大門上門燈朗掛，兩邊一色戳燈，照如白晝，白汪汪穿孝僕從兩邊侍立。請車至正門上，小廝等退去，眾媳婦上來揭起車簾。（第 14 回：p184）

(4)銀庫上按數發出三箇月的供給來，白花花二三百兩。賈芹隨手拈一塊，擲予掌平的人，叫他們吃茶罷。（第 23 回：p309）

(5)眼見得白花花的銀子，只是不能到手。（第 99 回：p1360）

(6)賈政還欲前走，只見白茫茫一片曠野，並無一人。（第 120 回：p1592）

張美蘭（2001：21）は、ABB 形容詞は「象生動性」を有し、ある性質や状態を指すだけでなく、それらのイメージや反映している感情を十分に表現すると指摘している。ABB 形容詞重疊式は乖離を最もよく表現できる言語手段であると言えよう。

例文(1)(6)の「白茫茫」は、「大地」「曠野」を修飾し、観察者の視点は、地面に近く、雲、霧、水などが白く一面に広がっているさま、ぼんやりとした感じを表す。

例文(2)の「白漫漫」は「形容一片白色」（『漢語重言詞詞典』）と解釈する。「漫漫」は「一面」の意味で、観察者は、近くから遠くまでの広い視点で認知する。この場面では、白の喪服を着る人が多いため、寧國通りは、観察者の目に触れる限りに、あたり一面の白いさ

⁶ 石鈺（2010：1）は、重ねられた基礎形式を基式と呼ぶ。

までであることを形容する。寧国府の氣勢のすさまじさと葬儀の豪華さを批判する感情を表す。⁷「白漫漫」は常規の「白」からの乖離も表す。

例文(3)の「白汪汪」は、『紅樓夢』の庚辰本に初出である。⁸「汪汪」は「水深廣貌」「液體盛滿貌」「水光蕩漾貌」(『漢語重言詞詞典』)と解釈される。曹雪芹が鳳姐の視点から、両側の提灯が昼のように照り映え、喪服を着用した従僕たちに反射するさまは、あたかも水面に反射したかのような視覚的な印象になる。鳳姐の観察者を借用し、曹雪芹の独特なイメージを表し、常規の「白」からの乖離も表す。

例文の(4)(5)の「白花花」は、白く輝く銀を形容する。光っていることに焦点を当てる観察者の認知視点を表す。⁹

以上の例からわかるように、Aはすべて「白い」という色を表し、BBにより、ABB形容詞重疊式は、観察者の個人的な認知を通してのことから、焦点が異なり、主観性と感情を表す。すなわち、ABB形容詞重疊式は、BBを通して、Aからの様々な乖離を表す。『紅樓夢』前八十回におけるABB形容詞重疊式は、後四十回より豊富で多彩であることにより、作者の異なる感情を表し、異なる作品のスタイルも表す。特に、曹雪芹が初めに使用する例語は、自分の特別な作品スタイルを表現することにつながるのである。

4.3.3 AABB式形容詞重疊式の使用例の比較

胡裕樹(2011:506)は、「語彙の中の風格要素は、同義語の中で特に明らかに表現されており、異なる感情と文体を持つ同義語は、異なる言語スタイルを表現するのに用いることができる」と指摘している。また、祝克懿(2021:66)は、「同義手段選択論」とまとめる。すなわち、同義語の中で、異なる語彙を選択することによって、異なる言語のスタイルを表す。

『紅樓夢』前八十回と後四十回におけるAABB形容詞重疊式は、AA+BBの形式からなる同義語があり、その同義語を通して、言語のスタイルを検討してみることにする。

『紅樓夢』前八十回と後四十回における同義語のAABB形容詞重疊式は以下を挙げることができる。

- ①拉拉扯扯(前/後) 扯扯拽拽(後)
- ②鬼鬼祟祟(前/後) 溜溜湫湫(後)
- ③妖妖趑趑(前) 妖妖喬喬(後)
- ④恍恍惚惚(前/後) 恍恍惚惚(前/後)
- ⑤烈烈轟轟(前/後) 轟轟烈烈(後)

③④⑤のグループは意味が同じで、表記と語順に相違点がある。

以下、『紅樓夢』における「拉拉扯扯 扯扯拽拽」と「鬼鬼祟祟 溜溜湫湫」の例文を挙

⁷ 胡春艶(2021)『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式--ABB型を中心に『外国語学研究』第23号大東文化大学大学院外国語学研究所

⁸ 文昌榮(1997:15)『描摹詞辭典』 中國青年出版社

⁹ 同上

げる。

(7) 林黛玉將手一摔道：“誰同你拉拉扯扯的。一天大似一天的，还这么涎皮赖脸的，连个道理也不知道。”（第 30 回：p408）

(8) 我劝你走罢，别拉拉扯扯的了。我们还有正经事呢。（第 77 回：p 1077）

(9) 五兒急得紅了臉，心裡亂跳，便悄悄說道：“二爺有什麼話只管說，别拉拉扯扯的。”（第 109 回：p1466）

(10) 周瑞家的一面勸說：“只管瞧瞧，用不著拉拉扯扯。”（第 113 回：p1403）

(11) 便有許多王孫公子要求娶他，又有些媒婆扯扯拽拽扶他上車，自己不肯去。（第 87 回：p1227）

「拉拉扯扯」について、「①謂拉拽。常表示爭執，爭鬥。（引っ張るといふ。常に紛争、争いを表す。）②謂牽手挽臂，表示親暱。（手をつないで腕を組んで、親密ぶりを表す。）」という意味で、「拉拉拽拽」について、「牽拉，連續不斷的牽拉。（引き続けること、絶えずに引き続けること。）」と解釈する。（『漢語重言詞詞典』）例文の（8）（10）の「拉拉扯扯」は、「引っ張る」という意味で、例文の（7）（9）の「拉拉扯扯」は、「手をつないで腕を組んで、親密ぶりを表す。」という意味である。例文の（11）の「拉拉拽拽」は、「拉拉扯扯」の「引っ張る」の意味と同じで、後四十回に異なる同義語を使う。

(12) 我只問你們：有話不明說，許你們這樣鬼鬼崇崇的幹什麼故事？（第 9 回：p 135）

(13) 襲人正要說話，只見那一個也慢慢的踏了過來，細看時，就是賈芸，溜溜湫湫往這邊來了。（第 85 回：p1195）

「鬼鬼崇崇」は、「謂行動躲躲閃閃，不光明正大。（行動がこそこそと、堂々としてない。）」と解釈する。「溜溜湫湫」は、「形容躲躲閃閃，輕手輕腳的樣子。（こそこそと足音をひそめている様子を形容する。）」と解釈する。（『漢語重言詞詞典』）前八十回と後四十回は、異なる同義語を使用する。

以上のように、AABB 形容詞重疊式の使用には相違点があり、同義語の選択という観点から、前八十回と後四十回のスタイルは、相違点があることが窺える。

5 終わりに

本稿は『紅樓夢』前八十回と後四十回における AA 式、ABB 式、AABB 式形容詞重疊式を統計的に処理し、比較を行った。回ごとに形容詞重疊式の使用頻度を考察すると、荻詩松ほか（2011）に詳述されている統計学の Z 検定から、以下のことがわかった。第一に、前八十回と後四十回における AA 形容詞重疊式の使用頻度についての平均値は著しい相違

点があること、第二に、ABB 式と AABB 形容詞重疊式の使用頻度についての平均値は、異なりがないこと。

前八十回における AA 式重言は、後四十回における AA 式重言より多い。これは、前八十回における韻文の豊富さと関わっていた。N.E.Enckvist (1964) に述べられている風格 (style) 学の常規と乖離の理論を踏まえて、前八十回と後四十回における同じ A の ABB 形容詞重疊式を比較すると、前八十回における ABB 形容詞重疊式には、乖離の形式がもっとも多いことが分かった。風格 (style) 学と同義選択論によって、前八十回と後四十回における同義の AABB 形容詞重疊式を比較すると、両者の使用状況が異なっており、異なる同義語を選択する。

本稿の考察の結果、『紅樓夢』前八十回と後四十回における形容詞重疊式に相違点があることから、前後の作者は必ずしも一人ではないとは言えないが、少なくとも後四十回に他人の補作の跡があるという仮説を提出することが出来る。

付記

本研究は、2021 年度黑龙江省哲學社會科學研究規劃項目「基於概念場的漢語身體位移動詞歷時演變與其共時分佈研究」(課題番号: 21JYB159、研究代表者: 李永春) の助成を受けている。

引用書目

(前八十回) 曹雪芹著 (後四十回) 無名氏續 程偉元 高鶚整理 (2008: 1026) 『紅樓夢』人民文學出版社

参考文献

蔡義江 (2001/2004) 『紅樓夢詩詞曲賦鑒賞』中華書局

高明凱 (1963) 『語言論』科學出版社

胡春艷 (2021) 『『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式について——ABB 型を中心に』『外國語学研究』第 23 号 大東文化大学大学院外國語学研究科

胡裕樹 (2011) 『現代漢語 (重訂本)』上海教育出版社

李勁榮 (2014) 『現代漢語形容詞生動形式的語用價值』中國社會科學出版社

南朝梁 劉勰著 王運熙 周鋒撰 (1998) 『文心雕龍譯註』上海古籍出版社

茆詩松 程依明 濮曉龍 (2011) 『概率論與數理統計教程』高等教育出版社

沈家煊 (2001) 「語言的“主觀性”和“主觀化”」『外語教學與研究』第 4 期: p268-275

石毅 (2010) 『漢語形容詞重疊形式的歷史發展』商務印書館

汪維懋 (1999) 『漢語重言詞詞典』軍事誼文出版社

王力 (1943 / 1985: 298) 『中國現代語法』商務印書館

王希傑 (1994) 「語言風格和民族文化」程祥徽、黎運漢主編『語言風格論集』澳門寫作學會 南京大學出版社

- 文昌榮（1997）『描摹詞辭典』中國青年出版社
- 徐全太（1990）『「紅樓夢」後四十回研究資料綜述』『河南大學學報』第2期:p49-59
- 許力生（2006）『文體風格的現代透視』浙江大學出版社
- 薛繼生（1986）『紅樓采珠』百花文藝出版社
- 俞稔生（2007）「中国語の描写性を豊かにする」長崎ウエスレヤン大学『現代社会学部紀要』5卷1号：p67-72
- 張美蘭（2001）『近代漢語後綴形容詞詞典』貴州教育出版社
- 祝克懿（2021）「語言風格研究的理論淵源與功能衍化路徑」『當代修辭學』第1期：p59-70
- Enckvist, N.E.et al（1964）. *Linguistics and Style*. OxfordUniversity Press
- Traugott, E.C.（1995）. *Subjectification in grammatical-ization* .In Stein &Wright 1995.p31-54

書き入れ版『官話指南』に所収された南北官話について
A Study of *Guanhua Zhinan* Notes Version's Northern and Southern
Mandarin

孫 云偉
SUN Yunwei

内容提要: 本文以手寫註釋本『官話指南』為研究對象，參考北京話詞典、方言大辭典以及日下恒夫、太田辰夫、尾崎實等學者的相關研究，對『官話指南』註釋中的南北官話進行了全面整理。筆者從『官話指南』手寫註釋中整理出 273 對南北官話實例，發現其中大部分的兒化詞、北京土話、北京話詞典收錄的詞語等都添加了註釋，可見這些註釋都是有很強的南方話特徵的詞語。

キーワード: 『官話指南』、南北官話、対照表

目次

- 1 書き入れ版『官話指南』
- 2 書き入れ版『官話指南』における南北官話の対照表

参考資料

参考文献

辞典

1 書き入れ版『官話指南』

書き入れ版『官話指南』（以下、『指南』と略称する）は「序」、「凡例」、「目次」、「應對須知」、「官商吐屬」、「使令通話」、「官話問答」から構成され、全 93 頁ある¹。『指南』の扉の右側に「主降生一千九百年」、中央に「官話指南」、左側に「光緒二十六年、福州美華書局活板」、最後の頁に「明治辛丑六月於清國上海獲之 藤澤黄鵠」とある。書き入れは巻一、巻三の全ての章及び巻二第一章から第十四章までに見られる。本文には文全体を書き替えたという記載もある。また、カナで漢字の読み方を表記している箇所も稀に見られる。

¹ 初版『官話指南』は吳啓太、鄭永邦の共編により、1881年上海で出版され、日本人が初めて編纂した北京官話教科書である。一見すると書き入れ版『官話指南』と初版『官話指南』の内容配置は一致しているようである。

『指南』に関する研究は日下恒夫（1974）の研究のみである。日下恒夫（1974）は書き入れを行なった藤澤黄鵠の生涯を調査し、その書き入れは藤澤黄鵠が 1901 年南京滞在中に中国人である黄乾、李田両氏から「会話を学んだ際の記録」²であると論じた。そして、九江版『官話指南』（1893）、『官話類編』（1898）、太田辰夫が著した「北京語の文法特徴」および南方語に関する辞書を参考にし、『指南』から南北官話を取り出し、その方言差について分析した。しかし、本文では全ての南北官話が紹介されたわけではない。そのために、本稿は日下恒夫（1974）の研究を踏まえて、北京語辞典、方言辞典、太田辰夫（1965）「北京語の文法特徴」および尾崎實（2003、遺稿）『官話類編』所収方言詞対照表などを参考にし、『指南』に対する南北官話の全面的な採集を行う。

2 書き入れ版『官話指南』における南北官話の対照表

以下に掲載する対照表について紹介する。

（1）この対照表は『指南』で記載された南北官話を採集し、原文の語彙を基にアルファベット順に配列したものである。右側から順に『指南』の原文、書き入れたもの、その語彙が掲載されている頁数となる³。二度以上にわたり記録されたものは、紙幅の関係上、一箇所のみ提示している。

（2）本稿の北京官話は北京語辞典などに収録された語彙であり、南方官話は方言詞典に収録されたものと、書面語として理解されるものである。

（3）多くの南方表現は方言詞典に収録されていないので、書き入れたものは南方官話であるか判断しにくい。そのために、本稿では同じく双行注を施した九江版『官話指南』（九江書會、1893）と『官話類編』（C.W.Mateer、1898）を参考にする。そして、『指南』の原文は北京官話とし、追記した部分は前二項の教科書の中に収録されている場合は、南北官話と認めることにする⁴。

（4）尾崎實（2003）の研究では南方語の部分を江南語作品の《上海的早晨》（周而復著）《上海十年文学选集》（周而復著）、矛盾の作品、山東語の《苦菜花》（冯德英著）を参考にしたので、『指南』の南北官話は尾崎實（2003）に出た語彙と同様であれば、対照表に収録してもよいと思われる。また、張美兰・李颖（2007）、張美兰（2008）、齊灿（2016）共に九江版『官話指南』にある南北官話について研究したので、本稿はこれらの研究も参考にする。

（5）日下恒夫（1974）は『指南』の“～兒”が削除されたり、或いは“～子”と書き替えられたりしているケース状況が大変多く、“～兒”は北京語の特徴が強い表現とし、ま

² 日下恒夫 1974、41 頁。

³ この配列方法は尾崎實（2003、遺稿）『官話類編』所収方言詞対照表を参考にした。

⁴ 九江版『官話指南』（九江書會、1893）、『官話類編』（C.W.Mateer、1898）、書き入れ版『官話指南』三書共に原文をもとに、注を施した。前二項は右に『官話指南』の原文、左に著者が追記した表現を配置している。

た極端に避けていることから、「南では“～子”を用いる傾向がある」⁵と述べた。したがって、本稿では“～兒”から“～子”に書き替えられたものをすべて収録した。

(6) この対照表は全 273 対の南北官話を整理した。これらの南北官話を見ると、『指南』では北京語辞典や、“兒化詞”、北京土話などの北京語の特徴が強い語彙に書き替えられた部分に関してかなり多いことがわかった。要するに、書き入れられた部分は南方語の特徴が強いと言えよう。

A		D	
按着 - 照着	57	搭幫 - 搭伴	15
挨一挨兒 - 等等	72	搭伴兒 - 搭伴	9
B		搭 - 叫	65
白 - 隨便	18	打 - 從	71
白牆兒 - 白牆	57	打前失 - 打踢絆	68
白天 - 天裏	10	大夫 - 醫生, 先生	8, 61
板凳兒 - 板凳	60	耽悞兒 - 耽擱	59
榜樣兒 - 榜樣	11	～得了 - ～好了	58
雹子 - 冰雹	24	得 - 要	67
北邊兒 - 北邊	13	燈罩兒 - 燈罩	66
背陰兒 - 背陰的	63	底半截兒 - 底半截	19
別 - 莫	62	地方兒 - 地方	62
不啞了 - 不早了	20	地名兒 - 地名	17, 17
C		丟 - 失, 掉	62
擦 - 抹	57	東嘎拉兒 - 東邊	64
擦臉手巾 - 洗臉手巾	57	對面兒 - 對面	22
茶船兒 - 茶船	57	對勁 - 相好	14
茶机兒 - 茶几	57	短 - 少	66
茶盤兒 - 茶盤	57	墩布 - 抹布	21, 24
車沿兒 - 車沿	60	多嚙(咱) - 那天, 那時	69
抻 ⁶ - 拉	59	多宗晚兒 - 甚麼時候	71
抽冷子 - 偷冷	12	多兒(錢) - 多少	8
從先 - 先前	25		

⁵ 日下恒夫 1974、24 頁。

⁶ “抻”本字は手偏に“親”。

E		H	
哦噠半片 - 邈裡邈邇	58	孩子 - 娃娃	11
F		汗褌兒 - 汗衫	59
飯莊子 - 酒席館	64	耗子 - 老鼠	12
房 - 房子	13	好好兒 - 好好的	8
封兒 - 封子	70	喝 - 喫	9
富宅 - 富家	24	和 - 同	71
復原兒 - 復原	8	黑下 - 黑夜	24
G		後兒 - 後天	21
蓋兒 - 蓋子	63	胡同 - 巷	13
趕 - 等	14	花兒 - 花	70
敢情 - 當真, 原來	25, 62	J	
幹 - 作, 做	17, 25	雞子兒 - 雞蛋	58
各樣兒 - 各樣	61	幾分兒 - 幾分	14
各人 - 自己	17	幾樣兒 - 幾樣	18
隔扇 - 隔子	9	忌 - 戒	25
給 - 替	16	家兒 - 家	58
跟 - 同	60	價兒 - 價錢	71
給 - 使	9	見天 - 每天	25
給 - 把	12	賤 - 便宜	71
工夫兒 - 時候, 工夫	17, 65	腳下 - 目下, 刻下, 此刻	14, 25, 25
瓜子兒 - 瓜子	12	叫 - 被	8
拐 (彎兒) - 轉 (彎兒)	10	叫門 - 敲門	57
官帽兒 - 大帽子	60	解 - 從	62
官座兒 - 官座	64	今兒 - 今天, 今日	7, 20
(錫鐵) 罐兒 - (錫鐵) 罐子	57	今兒個 - 今天	11
逛 - 頑	10	筋筋兒 - 老了	58
歸着 - 收拾	66	勁兒 - 勁	12
棍兒 - 棍子	63	竟 - 只, 專	11, 15
		就得了 - 就好了	8
		就得了 - 就是了	18
		覺着 - 覺得	8

K		M	
坎肩兒 - 背心子	59	馬尾兒 - 馬尾	12
炕 - 床	10	茅房 - 茅廁	62
可 - 卻	61	毛稍兒 - 毛稍子	63
可是 - 卻是	14	沒 - 沒有	9
(有)空兒 - 空	8	煤球兒 - 煤球子	58
扣兒 - 扣子	69	迷迷糊糊 - 糊裏糊塗	57
苦力 - 挑夫, 打襍	62, 67	(火)滅 - 熄	57
褲腳兒 - 褲腳	59	明兒 - 明天	12
L		明兒個 - 明天	12
蠟燈 - 燭台	18	磨稜子 - 耽擱工夫	70
來着 - 來的	17	N	
藍白線兒 - 藍白線	59	哪兒 - 哪裏	7
老 - 總	58	那兒 - 那裡	8
了 - 哩	16	那兒的話 - 那裏的話	12
了 - 呢 (正在進行)	18	那頭兒 - 那頭	60
了 - 的 (已然狀態)	18	那麼 - 那樣	11
梨 - 梨子	71	那邊兒 - 那邊	12
(有幾)裏地 - (有幾)裏路	23	腦袋 - 頭	60
俐羅 - 清清楚楚	67	娘兒們 - 女人家	61
倆 - 兩人	9	您納 - 閣下, 你, 您, 您老人	7, 9, 14, 14
兩樣兒 - 兩樣	57	家	
零兒 - 零頭	65	您 - 你	12
零碎兒 - 零碎的	69	年紀 - 年歲	20
溜達 - 遊玩	21	年頭兒 - 年頭	20
		挪 - 搬	62
		P	
		嘮 - 講	8
		傍邊兒 - 傍邊	64
		傍帳兒 - 傍帳子	60
		棚 - 棚子	66
		皮箱兒 - 皮箱	69
		鋪子 - 店	65
		鋪蓋 - 被單	57

Q			
沏茶 - 泡茶	57	耍 - 做	25
起 - 從	14	涮 - 洗	57
起身 - 動身	15	誰 - 那個（“那”上聲）	13
前些年 - 前幾年	23	誰家的 - 那家的	12
錢數兒 - 錢數	65	水聲兒 - 水聲	10
腔調兒 - 腔調	9	四季兒 - 四季	10
牆兒 - 牆	57	俗語兒 - 俗語	12
瞧門脈 - 看診	15	歲數兒 - 歲數	12
俏貨 - 貴貨	19	鍊子 - 鍊子	25
輕省 - 輕鬆	8	T	
頃 - 畝	18	踏板兒 - 隔板	61
取 - 兌	17	（擺）臺 - （擺）桌子	58
R		痰盒兒 - 痰盒	57
讓 - 請	16	桃 - 桃子	71
S		體面 - 好看	59
撒謊 - 扯謊	8	頭 - 匹	62
撒俐 - 乾淨	70	頭年 - 去年	16
嗓子 - 喉嚨	9	W	
晌午 - 中午	63	外邊兒 - 外邊	8
上臄 - 長臄	68	外面兒 - 外面	12
折 - 斷	25	（轉過）灣兒 - （轉過）灣	10
聲兒 - 聲音	9	晚 - 遲	16
繩兒 - 繩	65	忘 - 忘記	64
師傅 - 先生	10	屋裏 - 房裏，家裡	57, 63
實誠 - 誠實	8	屋子 - 房子，房裏	62, 67
拾掇 - 收拾	68	無賴子 - 無依的人	17
使不得 - 用不得	67	X	
使得 - 可以，作得	61, 69	閒房子 - 空房子	57
使喚 - 使用，用	56, 65	現在 - 此刻	25
手縫兒 - 手縫	12	現時 - 此刻	23
首尾兒 - 首尾	72	先頭裏 - 從前	18
舒坦 - 舒服	19	涎皮賴臉 - 厚着臉皮	12
刷牙子 - 牙刷子	57	怎麼着好呢 - 怎樣好呢	13
		向陽兒 - 向陽，太陽	57, 63

(涼快)些兒 - (涼快)些	10	Z	
些個 - 些	62	俺們(咱們) - 我們	9
新手兒 - 新來的人	72	棗兒 - 棗子, 棗	71, 71
性兒 - 性子	11	怎麼 - 怎樣	17
杏兒 - 杏子	71	總得 - 總要	8
學房 - 學堂	10	喳 - 是	57
Y		宅門兒 - 宅門裏	60
牙籤兒 - 剔牙杖	59	宅裏 - 家裏	24
煙卷兒 - 煙卷子	61	掌櫃的 - 老板, 夥計, 先生	24, 17, 19
煙盤兒 - 煙盤	60	招 - 加	59
邀 - 稱	71	着點兒涼 - 受了涼	8
要準兒 - 定準	8	照舊 - 原樣, 照樣	63, 64
(水)漾 - (水)漫	68	照樣兒 - 照樣, 照樣子	18, 65
掖 - 放, 蓋	60, 63	照 - 看	19
胰子盒兒 - 胰子盒	57	這兒 - 這裏	8
一點兒 - 一點子	8	這麼着 - 這麼樣	8
一會兒 - 一會	10	這麼 - 這樣	12
一半兒 - 一半	7	這程子 - 這日子	20
一塊兒 - 一塊	57	這麼着罷 - 這個樣罷	67
銀票 - 銀票子	17	這陣兒 - 這會	60
銀盤兒 - 銀價	65	整天家 - 整天的	11
銀數兒 - 銀數	19	整工夫 - 整天	25
營生 - 事情	11	知道 - 曉得	17
有點兒 - 有點	9	職名 - 名片	70
原先 - 從前	19	重落了 - 受了風	8
約莫 - 估猜	19	磚麵子 - 瓦灰	68
月頭兒 - 月頭上	62	字兒 - 字	57
勻溜 - 勻勻	60	自各兒 - 自己	57
云山霧罩 - 云里霧里	8	昨兒 - 昨天	10
		昨兒個 - 昨天	16
		做 - 弄	64
		作活 - 作事	12

参考資料

- 九江書會（1893）『官話指南』 九江印書局
C.W.Mateer（1898）『官話類編』 American Presbyterian Mission Press

参考文献

- 太田辰夫 1965「北京語の文法特点」『中国研究：經濟・文学・語学 久重福三郎先生坂本一郎先生 還曆記念』久重福三郎先生坂本一郎先生還曆記念行事準備委員会
日下恒夫 1974「清代南京官話方言の一斑—泊園文庫藏《官話指南》の書き入れ—」
『関西大学中国文学会紀要』5号
周一民 1998《北京口语语法·词法卷》语文出版社
尾崎實 2003『『官話類編』所収方言詞对照表』『或問』第6号（遺稿）
张美兰、李颖 2007〈清末汉语介词在南北方言中的区别特征—以九江书局改写版《官话指南》为例〉《继往开来的语言学发展之路》 语文出版社
张美兰 2008〈十九世纪末汉语官话词汇的南北特征—以九江书局版《官话指南》为例〉《韩汉语语言研究》韩国:学古房出版社
張美蘭 2009〈清末北京官話的句法特點—以幾部域外北京官話資料為例〉《人文中國學報》第十五期 香港浸會大學《人文中國學報》編輯委員會編
齐灿 2016〈19世纪末南北京官话介词比较研究—以《官话指南》《官话类编》注释为例〉『東アジア文化交渉研究』関西大学文化交渉学教育研究拠点
卢小群 2017《老北京土话语法研究》中国社会科学出版社

辞典

- 金受申 1964《北京话语汇》 商务印书馆
宋孝才、马欣华 1982《北京话词语例释》 铃木出版
陈刚 1985《北京方言词典》 商务印书馆
贾采珠 1990《北京话儿化词典》 语文出版社
徐世荣 1990《北京土语辞典》 北京出版社
常锡楨 1992《北京土话》 文津出版社
北京大学中国语言文学系教研室 1995《汉语方言词汇》语文出版社
陈刚、宋孝才、張秀珍 1997《现代北京口语词典》 语文出版社
许宝华、宮田一郎主編 1999《汉语方言大词典》北京：中华书局
齐如山 2008《北京土话》 辽宁教育出版社
傅民、高艾军 2013《北京话词典》中华书局
刘延武 2015《老北京方言俗语趣味词典》群众出版社

金国璞北京語教科書における清末北京語の特徴
Characteristics of Beijing Dialect of Jin Guopu's Beijing Dialect Textbooks

楊璇
YANG Xuan

要旨：太田辰夫先生は蜚聲國際的漢語史專家，在漢語語法史及詞彙史的研究上極富開拓性。太田先生發表的以北京話為研究對象的多篇論著對明清時期的北京話研究產生了重大而深遠的影響。本文以太田先生發表的三篇深究北京話特質的論考為基礎，緊密結合太田先生在這三篇論考中提出的北京話特質，對比分析金國璞所著的北京話教科書中的語言特點。本研究對於清末北京話特質考察的共時研究及歷時研究均有一定的價值和意義。

キーワード：金国璞 北京語教科書 太田辰夫 清末北京語 文法特徴

目次

- 1 太田氏の研究における北京語の特徴
- 2 「北京語における7項目の特徴」と金氏教科書の比較
- 3 「北京語に独特と思われる12語」と金氏教科書の比較
- 4 金氏教科書と「北京語の文法特徴」について
- 5 まとめ

1 太田氏の研究に関する北京語特徴

太田辰夫氏は北京語文法研究の第一人者であり、中国語に関する研究を広くおこない、開拓的な研究を数多く残した。特に、太田氏の代表的な著作《中国語歴史文法》と《中国語史通考》は中国語の歴史研究に重要かつ深い影響を与えてきた。

太田氏は北京語の研究に関する論文を数多く発表しており、山田忠司氏(2016:18-19)によると、太田氏が北京語の特徴について探究した論文は「清代の北京語について」、「北京語の文法特点」、「近代漢語」の3つである。各論文に論述した北京語の特徴を簡潔に紹介する。

1) 「清代の北京語について」(1950『中国語学』第34号)

太田氏は「北京語に独特と思われる語」の中に、頻用される「兒」、「嚕(咱)們」、「您」、「倆(仨)」、「別(禁止)」、「得(děi)須要」、「多嚕」、「給(介詞)」、「的慌」、「是(似)的」、「來着」、「罷咱」の12語を提示した。

- 2) 「北京語の文法特点」(1965『中国研究：経済・文学・語学 久重福三郎先生坂本一郎先生 還暦記念』)

この論文は名詞、代名詞、数詞・量詞、形容詞、動詞、副詞、助詞の8種類に分けて、北京語、北方語、北方方言、南京官話及び他の方言との差異を考察し、全72項目、100個以上の語彙を挙げた。

- 3) 「近代漢語」(1969『中国語学新辞典』第186頁)

「近代漢語」は『中国語学新辞典』の一項目であり、項目名は「近代漢語」であり、「清代漢語」を指している。この論文では、「一人称代詞の包括形 (inclusive) と除外形 (exclusive) を〈咱們〉〈我們〉で区別する。〈俺〉〈咱〉などは用いない。」、「介詞〈給〉を有する。」、「助詞〈來着〉を用いる。」、「助詞〈哩〉を用いず〈呢〉を用いる。」、「禁止の副詞〈別〉を有する。」、「程度副詞〈很〉を状語に用いる。」、「〈一多了〉を形容詞の後に置き“ずっと、はるかに”の意を表す。」という北京語における7項目の特徴を指摘した。

本稿では、上述した太田氏の研究における北京語の特徴に基づいて、明治30年(1897)に開校した高等商業学校附属東京外国語学校の講師として日本文部省により招聘され、日本で6年間勤務した北京語教師金国瓌が編纂した11冊の北京語教科書の比較対照を行い、金氏教科書に用いた言語は太田氏の研究における北京語の特徴を有するかどうかを探究する。さらに、金氏教科書の言語実態を解明したいと考える。

2 「北京語における7項目の特徴」と金氏教科書の比較

太田氏が「近代漢語」に提示した「清代北京語における7項目の特徴」は清代北京語に関する研究に多く取り込まれている。本節は金氏教科書で使われた言語が「北京語における7項目の特徴」に当て嵌まるかどうかを考察する。

- 1) 一人称代詞の包括形 (inclusive) と除外形 (exclusive) を〈咱們〉〈我們〉で区別する。〈俺〉〈咱〉などは用いない。

金氏教科書では、「咱們」を「僭們」、「咱們」と書き、それぞれの用例は255例、5例となる。「咱們」より「僭們」という書き方が遙かに多い。また、「我們」との使い分けが非常に厳密だと考えられる。「我們」は除外形で聞き手を含めず。「咱們」は包括形で、聞き手を含む。

- (1) 我們敝國東京高等商業學校和外國語學校，都有漢語科，請的也是貴國教習，另外還是有我們敝國讀書人，自己私立的漢語學房，如今咱們兩國彼此互相習學語言，數十年之後，兩國人才輩出，從此邦交自然更親密了。（《談論新編：北京官話》：第十二章）
- (2) 你若是肯照顧我們，那我們是求之不得的呀。僭們若是交買賣，我們可是不能給現錢哪。（《華言問答》：第四章）
- (3) 依我說，您不如和我們在一塊兒，僭們大碗的喝酒，大塊的吃肉，整套的穿衣服，論秤的分金子。（《北京官話：今古奇觀》：李汧公）

¹ 金氏が編纂した北京語教科書の詳細は付録に研究資料リストを付けており、本稿での略称は「金氏教科書」とする。

2) 介詞〈給〉を有する。

太田氏「北京語の文法特点」は「介詞「給」も南京官話では用いず、「替」「和」などによる。」(第50頁)と指摘した。金氏教科書は介詞「給」の用例が数多く見られる。

(4) 這件事你等我給你想一個好法子，總是給他寄一封信去，借這麼一個大題目告訴他必得再緩多少日子纔能動身回去哪。(《談論新編：北京官話》第二十六章)

(5) 有人給姑娘說婆婆家。(《華言分類撮要》第二十章)

(6) 你告訴趕車的他送下，就趕緊的把車趕回來，我還要給人送行去哪。(《士商叢談便覽》第八十七章)

また、金氏教科書では「給+動詞+補語」という構文もある。

(7) 我這兒可以先給湊出一半兒貨銀來。(《談論新編：北京官話》：第二十九章)

(8) 這麼着他就到殿裡頭，和和尚借了一管筆，蘸好了墨就過來把那個鳥兒腦袋給畫上了。(《北京官話：今古奇觀》：李汧公)

3) 助詞〈來着〉を用いる。

太田氏(1958)は「《來着》は北方語で、過去あるいは回憶をあらわす。…《來》は唐五代からあり、《來着》はおそらくそれから出たもので清代になってはじめてみえる。」(第391頁—392頁)と指摘している。

また「來着」の由来について、常瀛生(1993)は“‘來着表示動作和狀態，過去如此，現在仍如此，來自滿語動詞過去完成進行時態。現北京話仍用‘來着’。其他漢語方言不見得有這樣細緻的時態表現法。”(第194頁)と指摘した。

金氏教科書では「來着」の用例は全部で34例ある。ここでは、過去を表す物と疑問文に添える2種類の使い方となり、それぞれの用例は27例と7例ある。

過去を表す用例：

(9) 一連四五天，我沒幹別的，竟給人說合事情來着。(《士商叢談便覽》第四十二章)

(10) 我可知知道昨兒晚上下雨來着。(《官話指南》第一卷：應酬瑣談)

疑問文に添える用例：(11) 您在誰家換來着。(《華言問答》第二章)

(12) 給人說合甚麼事情來着。(《華言問答》第十三章)

4) 助詞〈哩〉を用いず〈呢〉を用いる。

金氏教科書では、「哩」を用いることがなく、「呢」の用例が数多く見られ、計530例ある。使い方は主に疑問文に添え、疑問文の語気を強める用法となる。その他にも感嘆を表す用例も見られる。

特指疑問文の用例：(13) 各衙門學堂公司，都是看甚麼新聞紙呢。(《士商叢談便覽》上卷 第七章)

選択疑問文の用例：(14) 可是打算是在飯莊子還是飯館子呢。(《搢紳談論新集》第十七章)。

反復疑問文の用例：(15) 那麼商量商量，咱們交買賣可以不可以呢。(《華言問答》第七章)。

反語文の用例：(16) 何必那麼廢事呢。(《虎頭蛇尾》)。

感嘆を表す用例：(17) 雖說這不是頭生兒，然而得子可是頭一次呢。(《搢紳談論新集》第一章)。

5) 禁止の副詞〈別〉を有する。

太田氏(1958)は「禁止をあらわす副詞〈別〉は明代にも若干あるが多く用いられるようになったのは清代である。《不要》の縮約された形であるとも言われるが正しくない。」(第303頁)と指摘している。また、「清代の北京語について」は「別」は北方語で、南京官話では「莫」という。そして、「甬」(beng 2声)も北方語であるが広く通用する語ではない。」と指摘している。

金氏教科書における「別」の使用に関して、公的な場面では使わず、日常的な場面に使う傾向がある。

- (18) 那個刁頭兒外號兒叫刁不飽，心裏頂歹毒，你們和他們說話可要留神別惹惱了他們。(《虎頭蛇尾》)
- (19) 不管怎麼樣，我求你千萬別把這個事給洩漏了，這是一件機密的事情。(《官話指南》第一卷：應酬瑣談)
- (20) 瞧誰有好處，就要跟他學，瞧誰有不好處，就別跟着學，這就是擇其善者而從之的那個道理。(《士商叢談便覽》第九十二章)

6) 程度副詞〈很〉を状語に用いる。

「很」を状語に用いることについて、太田氏(1975)は「明代では稀に補語として用いる。明代の北京語では状語として用いられたことが『燕山叢錄』によって知られるが作品中で普通に使われるようになったのは『紅樓夢』など清代北京語文学からである。」(第2頁)と指摘している。金氏教科書における「很」を状語に用いる用例が数多く見られる。使い方は現代漢語とほぼ一致する。

- (21) 如今我們這位新任的縣太爺人很明白，也很正直，愛民如子。(《華言分類撮要》第一章)
- (22) 只要你勤慎當差部屬升途也甚寬呢，並且你素日又很愛留心例案，這還不是你用部屬的兆頭兒麼。(《縉紳談論新集》第十章)
- (23) 這一天到了保安州，異鄉的地方，很覺着淒涼，又搭著連陰天下雨，更淒慘了。(《北京官話：今古奇觀》：沈小霞)

7) 〈～多了〉を形容詞の後に置き“ずっと、はるかに”の意を表す。

太田氏(1965)は「比較して「AはBよりはるかに……だ」というばあい、がんらい北京語では形容詞の後に「～多了」を用いた。そして北方語の一部ないし南では「～得多」が用いられた。」(第45頁)と指摘した。金氏教科書では「～多了」だけが用いられ、計20例あり、「～得多」の用例は見当たらない。

- (24) 忽然他覺着身上輕省了些個了，把脖子伸了一伸，腰直了一直，可就鬆快多了。(《北京官話：今古奇觀》：十三郎)
- (25) 小的看他那說話的樣子很可疑，又見他穿的衣裳，也比先頭裡體面多了。(《華言問答》：第二十九章)
- (26) 若是這個風氣開了，倘或後來國家忽然有要緊的用項，借本國民間的錢比借洋款強多了。(《談論新編：北京官話》：第八十八章)

3 「北京語に独特と思われる 12 語」と金氏教科書の比較

太田氏は「清代の北京語について」では、北京語に独特と思われる 12 語、「兒」、「咱(咱們)」、「您」、「倆(仨)」、「別(禁止)」、「得(děi 須要)」、「多咱」、「給(介詞)」、「的慌」、「是(似)的」、「來着」、「罷咱」を提示した。また、この 12 語について、「即ち、北京語に独特と思われる語の中、頻用される 12 語を選び、各資料にそれが現れるか(○印)、否か(×印)を示した。これによって○印の計が少い資料は北京語資料として不適当であることが分かる。」(第 1 頁)と指摘した。

本節では、太田氏が提示した「北京語に独特と思われる 12 語」の金氏教科書での使用状況を考察する。また、前述した「北京語における 7 項目の特徴」と重なる点があるため、本節は重複を除き 8 項目のみを考察する。

表 1: 金氏教科書における「北京語に独特と思われる 12 語」の使用頻度

項目	兒	咱們/咱門	您	倆/仨
数量	473	225/5	888	283/0
項目	別(禁止)	得(děi 須要)	多咱/多僂	給(介詞)
数量	145	332	19/5	561
項目	的慌	是的/似的	來着	罷咱
数量	13	0/33	34	0

1) 「兒」

「アル化」語は北京語で最も重要な言語特徴の一つである。太田氏(1965)は、「接尾詞「兒」は南京官話においては用いることが少ない。」(第 40 頁)と指摘している。金氏教科書では、「アル化」語が大量に見られて、全部で 473 個ある。中でも名詞の「アル化」語が一番多く、323 個あり、7 割を占めている。周一民(1998)は「“兒”後綴は名詞の構詞標誌。絶大多數帯“兒”後綴的詞都是名詞。」(第 10 頁)と指摘している。大量の「アル化」語が使われていることから、金氏教科書は会話教科書としての特徴が強いと言える。

(27) 雷刁走後，曹送給毛頭兒十兩銀票說：毛頭兒我這兒有一點兒小意思，你喝盅酒罷。(《虎頭蛇尾》)

(28) 外頭現在還有三處住房，兩處小一所兒的，一處大一所兒的，家兄和三舍弟，各住一處小一所兒的，我同四舍弟住那一處大一所兒的，還算是我們兩人同居。(《縉紳談論新集》第五章)

2) 「您」

「您」について太田氏(1965)は「北方語では二人称の敬称として「您」「您哪」(「哪」はまた「納」とも書く、次も同じ)がある。「您」は南京官話でも通じないことはないが、「您哪」は用いられない。」(第 41 頁)と指摘している。

金氏教科書では「您」を敬称として用いる用例は 888 個ある。

(29) 老爺您看，這個知縣的相貌和前年您放的那個房德，長的一個樣。（《北京官話：今古奇觀》：李汧公）

(30) 現在您要買甚麼東西，可以先由我們櫃上開發錢，趕您多嚕要走的時候兒，俗們再算帳。（《土商叢談便覽》第十五章）

また、「您哪」という書き方がなく、「您納」の用例は20個ある。楊杏紅（2014：146-147）によると、「納」は日本明治時代北京官話教科書に現れた特殊語気助詞であり、二人称と三人称の後ろに添え、「你納」、「您納」、「他納」になるという。金氏教科書に用いた「您納」の用法に関して、太田氏の「敬称」説と楊杏紅の「您」＋「納」の形で文末語気助詞として用いる説の2種類がある。

敬称の用例：

(31) 趕您走的前兩天，告訴我一聲兒，我把信寫得了，交給您納。（《華言問答》第八章）

(32) 您納說話聲音太小。（《官話指南》第一卷：應酬瑣談）

文末語気助詞の用例：

(33) 是那一位，是我呀您納。（《華言問答》第二章）

3) 「倆（仨）」

「倆（仨）」について太田氏（1965）は「南京官話には「倆」「仨」など数詞と量詞の合わさった語がなく、「倆個」「三個」などという。ただし、北方語の「倆人」「兩個人」に当たるものとして「個」を用いず「兩人」ということがある。」と指摘した。金氏教科書に「倆」を用いた用例が283個あるが、「仨」の用例は見当たらない。

(34) 我現在有一件事，要託你們倆人替我辦辦。（《虎頭蛇尾》）

(35) 不大的工夫兒就見住了轎子，那倆轎夫就都走了。（《北京官話：今古奇觀》十三郎）

(36) 昨天接到來信，說是上海製造局從前請的本國礦師某倆人，已經滿了三年的限了。（《支那交際往來公牘》）

(37) 前十幾年，俗們倆常一塊兒喝酒逛去。（《土商叢談便覽》第九章）

4) 得（děi 須要）

「得」について太田氏（1950）は、「北方語では時間や費用がかかるというとき「得」（北京では dei 3 声、北方語で de 2 声にも読む）」という。南京官話ではこれを用いず「要」という。…「得」は「…せねばならぬ」意にも用い、またしばしば「總得」「必得」などともする。このばあい南京官話では「要」または「該」を用いる。」と指摘した。金氏教科書では「時間や費用がかかる」意と「…せねばならぬ」意の用例は両方見られる。

(38) 他說他有幾千斤蘑菇，還得兩天纔能到哪。（《華言問答》第五章）

(39) 所商量的都可以行，但是裏頭還有得稍微的藝術的地方。（《支那交際往來公牘》欽差致總署信第二十四件）

5) 「多嚕」

楊杏紅 (2014 : 157) によると日本明治時代の官話教科書には「多嗜」、「多咱」、「多僭」、「多咎」の4種類の表記が使われていたが、中でも多く使われたのが「多嗜」である。「多嗜」は時間を問う意で、現代中国語の「什麼時候」と訳せる。一般的には状語として使われているが、主語と補語の用例もある。

太田氏 (1950) は「時間を問う「多僭」、「多會兒」は南京官話では用いない。」(第43頁)と指摘している。又、楊杏紅 (2014) は「在明治前期的北京官話課本中，多用“多嗜”。如《官話指南》中，几乎都用“多嗜”。到了明治中後期的教材中就出現了“什麼時候”，使用量从少到多。到了《官話急就篇》“多嗜”和“什麼時候”几乎已經平分秋色。」(第159頁)と指摘している。金氏教科書では、「多嗜」と「多僭」の2種類の表記が使われていた。「多嗜」の用例は19個あり、「多僭」の用例は5例ある。「多嗜」という表記の使用頻度が高く、「什麼時候」の用例は見当たらない。

(40) 多僭引見下來的。昨兒個十五召的見。(《縮紳談論新集》第三十章)

(41) 趕回來的時候，在西關外頭大街上，遇見藍貴了，小的見了他就問他是多僭回來的，他說他回來有倆月了。(《華言問答》第二十九章)

(42) 這個亂子一出來，就彷彿天塌了似的，直不知道後來這個禍，到多嗜能完哪。(《土商叢談便覽》第一百章)

(43) 那麼您這銀子是多嗜用哪。(《華言問答》第二章)

6) 「～得慌」

太田氏 (1965) は「一部の心理・感覚をあらわす動詞につきその程度をあらわす「～得慌」は南京官話にはなく「～得很」といわざるを得ない。」(第48頁)と指摘している。金氏教科書では「～得很」の用例が8例あり、「～得慌」の13例より少ない。

(44) 他肚子裏又真餓得慌，身上又真凍得慌，這兩個難受，比甚麼苦都利害。(《談論新編：北京官話》第五十二章)

(45) 乾着急，拿錢買不出東西來，你說我心裏，怎麼是不焦得慌呢。(《土商叢談便覽》第八十六章)

(46) 昨天接到來信，承衆位過獎，寔在慚愧得很。(《支那交際往來公牘》參贊官覆總署信。第七件)

(47) 如今我還腆着臉在這兒作官了，寔在是可羞得很。(《北京官話：今古奇觀》李沂公)

7) 「是(似)的」

太田氏 (1965) は「類似をあらわす「…似的」(shide)は南京官話では用いず「…一般」「…一樣」などという」(第54頁)と指摘している。金氏教科書にある「似的」の用法は2種類ある。一つは連語助詞として「仿佛」と一緒に使い、もう一つは動詞の後ろに置く。どちらも類似をあらわす用法である。

(48) 就仿佛掉樹葉子的聲兒似的。(《北京官話：今古奇觀》李沂公)

(49) 往常山那條路，飛似的跑了去了。(《北京官話：今古奇觀》李沂公)

8) 「罷咱」

太田氏(1950)は「罷咱」が「…しよう」で、「軽い希望」という意味だと指摘した。これは、考察した7冊の清代著作では『滿漢成語對待』と『兒女英雄傳』のみに使用されていて、計24例ある。また、「北京語の文法特点」にも「罷咱」について「やや古く北京語特有の助詞に「不則」「罷咱」などと書かれるものがあった。意味は「罷」に同じ。」(第55頁)と指摘した。

太田氏が提示した12語の中で、金氏教科書で唯一用いない語が「罷咱」である。

4 金氏教科書と「北京語の文法特点」について

太田氏の「北京語の文法特点」では北京語、北方語、北方方言、南京官話及び他の方言に使用する全72項目、100個以上の語彙を考察し、北京語あるいは北方語の特徴を詳しく説明した。本節では、「北京語の文法特点」で考察した項目に基づいて、10項目を取り出し、金氏教科書における北京語の特徴をより詳細に探究する。そして、各項目に太田氏の「北京語の文法特点」での論述を付け加える。

1) 「得了」

「得了」に関する使い方を3つ提示した。

①「…得了」を文末に用いることがあるが、南京官話では動詞後の「～得了」を用いないのと同様に、この場合も使用しない。同様に「…就結了」「…就有了」もやはり北方語に特有のものであろう。

金氏教科書では「…就結了」が14例あり、「…就得了」が20例あるが、「…就有了」の用例は見当たらない。

(50) 您把行李交給我們就得了。(《談論新編：北京官話》第四十五章)

(51) 我告訴看園子的，為丟這麼墊兒菜，不犯打架鬧歐的，後來多留神就結了。(《談論新編：北京官話》第八十五章)。

②可能不可能をあらわす複合動詞「～得了」「～不了」(「了」はliao3声)は南京官話では用いられず「得掉」「不掉」など、その他の語を用いるのが普通である。

金氏教科書では「～得了」「～不了」両方ともを用い、それぞれの用例が12例と62例ある。

(52) 跑得了僧袍不了寺。(《華言分類撮要》第十四章)

(53) 這倒是實話講不了老世台你的。(《縉紳談論新集》第十章)

③「でき上がった」意をあらわす「～得了」(「得」はde2声、「了」は轻声)は南京官話では用いられず、そのかわりに「～起來了」「～好了」「～成功了」などを用いる。

金氏教科書は「～得了」「～好了」を用い、それぞれの用例が22例と44例ある。そして、「でき上がった」意をあらわす際には、「～好了」を用いる傾向が強いと考えられる。

(54) 趕是時候兒，叫他做得了給送到這店裏來。(《談論新編：北京官話》第十六章)

(55) 沏得了茶拿到書房裡來一看，李勉沒在那兒坐着，他就滿屋裡一找所沒有。(《北京官話：今古奇觀》李沂公)

2) 代名詞「這麼」「那麼」

² 太田氏(1950)が考察した7冊の清代著作は『滿漢成語對待』(1702)、『講解聖諭廣訓』(1730)、『玩球官話問答』(1753)、『程乙本紅樓夢』(1792)、『兒女英雄傳』(1878)、『官話指南』(1882)、『九江書會本官話指南』(1893)である。

「這麼」「那麼」を副詞的修飾語として用いるものは南京官話にもないとは言えないようであるが、多くは「這樣」「那樣」という。また「往這麼來」「往那麼去」のごとく言って方向をあらわすことは南京官話にはない。「這麼着」「那麼着」といって「このようである」「そのようにする」などの意の述語として用いることも南京官話にはなく、また「そこで」の意味の連詞とすることも南京官話にはない。

金氏教科書ではこれらの使い方が全てである。

(56) 同是一樣兒的人，怎麼就應當待他們那麼厚，待我們這麼薄呢。（《土商叢談便覽》第九十三章）

(57) 在高處一看就見有敵兵哨探往這麼來了。（《華言分類撮要》第九章）

(58) 我那個時候兒往那麼去，正是秋天。

(59) 後來官說妳說實話，是把駱駝又勻給誰了不然我是辦你罪，這麼着李老恆一害怕就把盛和棧供出來了。（《談論新編：北京官話》第八十九章）

3) 「怎麼着」

「怎麼」は南京官話でも用いるが、「着」をつけて述詞化することはない。

金氏教科書では「怎麼着」の用例が1例ある。

(60) 你猜怎麼着，我走了足有六刻的工夫兒還沒到哪。（《華言分類撮要》第二章）

4) 「多麼」

疑問・感嘆をあらわす「多麼」は南京官話では用いない。

金氏教科書における「多麼」の用例が6例ある。

(61) 您瞧他有多麼可惡，買了我們東西去，說是今兒給錢，趕我們一和他要錢，他不但不給錢，還張口罵我們。（《土商叢談便覽》第八十六章）

(62) 你說這一家子人有多麼難受。（《華言分類撮要》第二章）

5) 「更」「還」

副詞「更」「還」などの副詞を用いて比較するばあい、南京官話では副詞の後に「要」を用いるのが普通なようである。北京語ではこれを用いない。

金氏教科書は「更要」「還要」の使用例は見当たらない、全て「更」「還」になる。それぞれの用例は4例と13例ある。

(63) 他老這麼因循着不辦，不是一天比一天更壞了麼。

(64) 心比天還高，命比紙還薄。（《華言分類撮要》第三章）

(65) 你看那富足人家，若是敗落了可比那原來窮人家還難辦。（《土商叢談便覽》第二十二章）

6) 「都」

「都」を特指疑問文に用い、問うところのものが何々であるかをきく用法は南にはない。

「都」を特指疑問文に用いる用例が95例ある。

(66) 現在天津地方兒都是有甚麼營呢。（《談論新編：北京官話》第五十八章）

(67) 那個地方住着有多少家子百姓，都是作甚麼的。（《華言問答》第二十四章）

7) 「準」

「準」は「たしかに、きっと」の意の副詞に用いるのも北方語で、南にはこれに正確に相当する語がないようである。

金氏教科書では「たしかに、きっと」の意で使われる「準」の用例は33例ある。

(68) 凡各省官缺的好歹，以及本官每年準有若干進項，他無不了然於心。（《繙神談論新集》第五十九章）

(69) 若是櫃上當夥計，都能如此用心，各盡其職，把買賣整理的鐵桶相似，就是每月吃櫃上的勞金，年終得櫃上的謝儀，自己問心準可以安了。（《華言問答》第二十章）

8) 「直」

「直」を「しきりに」「とめどもなく」の意に用いるのも北方語である。南ではこのように用いない。

金氏教科書では「しきりに、とめどもなく」の意で使われる「直」の用例は70個ある。

(70) 趕這個大夫剛進到屋裡坐下，也得了霍亂了，就直吐直拉，不大的工夫，大夫死在這個病人家裡了。（《華言問答》第二十四章）

(71) 我就聽見他們兩人直吵嚷，問他們是為甚麼，兩人都不肯說。（《士商叢談便覽》第十九章）

9) 「趕」

時間の到達をあらわす「趕」は南では用いず「等」または「到」を用いる。

金氏教科書では、「趕」の用例が大量に見られ、計401例ある。大量に用いられる「趕」は北京語の鮮明な特徴の一つだと考えられる。

(72) 趕會試得意之後，必要大展經綸。（《繙神談論新集》第二十三章）

(73) 趕快開船的時候兒忽然來了七八個人，都上了擺渡船了。（《談論新編：北京官話》第七十七章）

(74) 趕過幾天遇見甚麼事，他那副脾氣又來了，到底始終老改不了。（《華言分類撮要》第二章）

10) 「使」

材料や用具をあらわす「使」も北方語に特有のものらしく南では用いない。

金氏教科書では材料や用具をあらわす「使」の用例が29例ある。

(75) 他就吩咐人，就把細軟的東西都搬了走，下剩平常使的傢伙，都留下了。（《北京官話：今古奇觀》沈曉霞）

(76) 那是這麼着，誰使多少銀子，誰出多少利錢，這還不是公而且道的事麼。（《士商叢談便覽》第六十五章）

(77) 有一天我看見有很多的兵，從教場撤操回來，使的都是洋槍。（《談論新編：北京官話》第五十八章）

5 まとめ

本稿は金氏教科書に用いられた言語と太田氏の研究における北京語の特徴の比較対照およびその関連性について検討を行った。

1) 太田氏が提示した「北京語における7項目の特徴」と金氏教科書に使用された言語の対照を通して、後者は7項目の特徴を全て有すると判明した。さらに、「來着」と「多了」以外、5項目における

用例がそれぞれ 100 を超えたことから、金氏教科書は北京語の特徴が鮮明で、北京語で書かれていると判断できる。この 5 項目は北京語の特徴を正確に反映していることが分かる。

2) 太田氏の「北京語に独特と思われる 12 語」との比較対照を行い、金氏教科書では「罷咱」以外、他の 11 語全てが用いられることが明らかになった。「罷咱」について、太田氏 (1965) によると、やや古い北京語特有の助詞として《儿女英雄伝》での用例は 14 例で、金氏教科書とほぼ同時期の《官話指南》と《九江書会本官話指南》での用例は見当たらない。そのため、「罷咱」は時代の変遷につれて使われなくなった、或いは地域性が強い北京語語彙であることが推測出来るが、更なる検証が必要である。

3) 太田氏の「清代の北京語について」で考察した項目に基づいて 10 項目を取り出し、金氏教科書の言語特徴をさらに詳しく考察し、10 項目に提示した北京語特徴が全て当てはまったことから金氏教科書の言語性格がより明確的に見えてきた。

金氏教科書の書名では、「北京語」、「北京官話」が多く使用されていて、それらの書名が示したとおりに、金氏教科書は北京語のテキストとして世に提供され、当時の北京語の実態を反映しているものと思われる。今回は太田氏が提示した計 25 項目の北京語の特徴との比較対照を通じて、金氏教科書は太田氏の北京語の特徴をほとんど有することが判明し、即ち、金氏教科書は純粋な北京語を使用した物と言える。また、金氏教科書は当時の北京語教科書として典型的な物であり、当時の北京語を研究する際、貴重な文献材料であることが改めて認識できた。

しかし、金氏教科書に用いられた言語特徴を解明するためには、本稿で比較した太田氏の研究における北京語の特徴の 25 項目だけではまだ不十分である。また、全ての項目が金氏教科書の言語と一致するという訳ではない。例えば、金氏教科書は「～得很」「～得慌」両方ともに用例がある。そして、「…就結了」と「…就得了」の用例はあるが、「…就有了」の用例はない。山田氏 (2004) は「當然、「北京話」也是一種比較籠統的稱呼。其實「北京話」內部，因為地域、使用者的社會階層等等的不同因素而形成諸多差異。…通過對比我們發現跟《北京官話 今古奇觀》比較接近的是《小韻》。《今古》和《小韻》也許出自同一個方言區的作家之手。這個問題比較複雜。在充分考證之前不能輕易下結論。」

(第 113 頁) と指摘した。金氏教科書の言語が太田氏の北京語の特徴に当てはまらない部分について、山田氏が提示した北京語の内部差異が一つの原因だと考えられる。

金氏教科書の語学研究は北京語内部差異の問題に深く関わっており、今後継続して取り多面的に組んでいくことが必要だと考える。

研究資料

- 金国璞・平岩道知 1989 《談論新編：北京官話》 平岩道知
—— 1901 《士商叢談便覽》上巻 文求堂書店
—— 1902 《士商叢談便覽》下巻 文求堂書店
——・吳太寿 1902《支那交際往來公牘：北京語直譯附》 泰東同文局
—— 1903 《華言問答》 文求堂書店
——・諸岡三郎編 1903 《虎頭蛇尾》 諸岡三郎

- 改訂 吳启太・鄭永邦著 1903 《改訂官話指南》第一卷 文求堂書店
- 1904 《北京官話：今古奇觀第1編》 文求堂書店
- ・鎌田弥助 1907 《晉神談論新集》 文求堂書店
- ・瀬上恕治 1907 《華語分類撮要》 文求堂書店
- 1911 《北京官話：今古奇觀第2編》 文求堂書店

参考文献

- 太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』 江南書院
- 太田辰夫 1950 「清代の北京語について」『中国語学』第34号 日本中国語学会
- 太田辰夫 1965 「北京語の文法特点」『中国研究：經濟・文学・語学 久重福三郎先生坂本一郎先生還曆記念』久重福三郎先生坂本一郎先生還曆記念行事準備委員会
- 太田辰夫 1969 「近代漢語」（太田辰夫執筆）『中国語学新辞典』中国語学研究会編
- 太田辰夫 1975 「『兒女英雄伝』の副詞」『神戸外大論叢』第26卷 第3号
- 常瀛生 1993 《北京土話中的滿語》北京燕山出版社
- 周一民 1998 《北京口語語法》（詞法卷）語文出版社
- 山田忠司 2004 「關於『北京官話 今古奇觀』的語言」『文学部記要』第18（1）号 文教大学
- 山田忠司 2016 「太田辰夫の北京話研究」『中国語研究』第58号「中国語研究」編集委員会編
- 楊杏紅 2014 《東亞漢語史書系 日本明治時期北京官話課本語法研究》廈門大學出版社

『中国言語文化学研究』投稿規定

1. 投稿原稿は「研究論文」もしくは「研究ノート」とし、未公刊の完成原稿であるものとする。
2. 使用言語は「日本語」もしくは「中国語」とする。
3. 論文は、14 ページ以内とする。
4. MS Word（ワードソフト）の使用を基本とし、製作に費用を要する図版・特殊文字をなるべく避けることとする。
5. 「要旨」と「キーワード」を付すものとする。要旨は使用言語と異なる言語によるものとし、キーワードは5ワード以内とする。
6. タイトル、著者名には「英文」を付すものとする。
7. 投稿は電子メールにより編集委員宛に送付し、プリントアウトしたものも併せて提出するものとする。文字化けの恐れがあるデータについては使用ソフトを明記するものとする。
8. 2022 年度投稿の締め切りは 2023 年 1 月 30 日とする。
9. 掲載された論文等は、原則として電子化し、大東文化大学中国語学科ウェブサイトおよび大東文化大学機関リポジトリを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。ただし、執筆者が電子化・公開を希望しない場合は、当該論文等の電子化・公開を拒否することができる。
10. 執筆要領は下記の通りとする。
 - (1) 横組を主体とし、用紙は A4 サイズ、文字は 10.5 ポイントとする。
 - (2) 仕上がり紙面は横書きで「40 字×36 行」とする。
 - (3) 注は脚注（各ページの下に注を付ける）とし、注番号は本文の該当箇所に（右上）肩付き数字で、1、2、3、という数字表記を選択し、自動表記させるものとする。注は、いずれも全角、9 ポイントとする。
但し、図版等の関係で脚注処理が難しい場合は通常の注とする。

2021 年 11 月 20 日

大東文化大学大学院

外国語学研究科中国言語文化学専攻

『中国言語文化学研究』編集委員会

《中国言语文化学研究》投稿规定

1. 投稿原文限于尚未公开的“研究论文”或“研究笔记”。
2. 使用语言为日语或汉语任意一种。
3. 篇幅限于 14 页以内。
4. 使用 MS Word 软件编辑，尽量避免需要另付制作费用的图版及特殊文字。
5. 需附“内容提要”及“关键词”。“内容提要”用与正文不同的语言书写。“关键词”在五个之内。
6. 论文题目与作者姓名需附带英文。
7. 投稿时，需以电子邮件的方式将稿件发送给编辑委员，同时提交打印稿一份。可能发生乱码现象的稿件需注明所用的编辑软件。
8. 2022 年度投稿截止日为 2023 年 1 月 30 日。
9. 登载论文等原则上将制作为电子版，并通过大东文化大学中文系主页以及大东文化大学机关资料库进行网上公开。作者如不希望论文等电子化公开，本刊将尊重作者意愿。
10. 撰稿注意事项：
 - (1) 版面为横书，A4 型纸，文字大小为 10.5 号。
 - (2) 每页 36 行，每行 40 个字。
 - (3) 注释为脚注（即在各页下方作注）。文中注释编号在该处右上角选择数字“1、2、3”标记。注释字体为全角 9 号字。

若由于图版等原因不便使用脚注，则采用通常的注释方式。

2021 年 11 月 20 日

大东文化大学大学院

外国语学研究科中国言语文化学专业

《中国言语文化学研究》编辑委员会

執筆者紹介

- 佐藤 晴彦 神戸市立外国語大学名誉教授
張 黎 大阪産業大学教授
岩本 真理 大阪市立大学名誉教授
佐竹 保子 中国語学科特任教授・東北大学名誉教授
趙 葵欣 中国語学科准教授
胡 杰 中国語学科助教
洪 安瀾 閩南師範大学外国語学院講師
板垣 友子 杏林大学外国語学部特任教授
陳 小珍 浙江省麗水学院講師
大島 吉郎 中国語学科教授
孫 云偉 東洋大学非常勤講師
楊 璇 大学院中国言語文化学専攻博士課程後期課程
胡 春艷 大学院中国言語文化学専攻博士課程後期課程
東北石油大学外国語学院副教授
李 永春 東北石油大学人文科学学院副教授

編集後記

本論集は 2021 年度に開催した第 21 回、第 22 回学術シンポジウムでの講演並びに研究発表を論考として掲載するものです。第 22 回で講演頂いた佐藤晴彦先生は太田辰夫先生の高弟として日本における中国近世語の研究を長らくリードして来られ、その足跡は太田辰夫先生との対談とともに『中国語「知」のアーカイヴス②中国語、恩師、そして神戸』（2017 年好文出版）に詳述されています。『中国語表現のポイント 99』（1997 年好文出版）、『中国語表現文法 28 のポイント』（1999 年東方書店）は張黎先生との共著であり、両先生の浅からぬご縁を感じます。張黎先生は現代中国語文法研究会を主宰しておられ、2013 年より『中国語文法研究』（朋友書店）を刊行、日中間における文法理論の交流にご尽力貢献しておられます。岩本真理先生は 2017 年に語彙研究の集大成として大冊『南山俗語考』翻字と索引』を著しておられます。佐竹保子先生は『陶淵明影像 文学史と絵画史の交叉研究』（袁行霈著、翻訳）を上梓されたばかりです。ご多忙の中、ご講演頂きましたことを改めて感謝申し上げます。

2020 年度よりコロナ禍の影響を受け、当シンポジウムは Zoom によるリモート開催を余儀なくされておりますが、リモートならではの長所、利点を最大限に活用することで学術、研究の活性化、進展を図って参る所存です。コロナのみならず世情が緊迫の度合いを深めており、研究に専念する余裕も失われがちとはいえ、今後とも引き続き研究、教育の成果を問う場として本シンポジウム、論集が活用されることを祈念いたします。貴重な論考をお寄せ頂いた先生方、博士課程後期課程修了の方々、院生の皆様に感謝申し上げます。

本論集刊行に当たっては、大学院事務室渡邊菜美さんのご協力を得ました。記して感謝申し上げます。

(〇)

大東文化大学大学院

中国言語文化学研究 第 11 号

2022 年 3 月 30 日

編集発行

大東文化大学大学院 外国語学研究科 中国言語文化学専攻

〒175-8571 板橋区高島平 1-9-1

大東文化大学大学院事務室

Tel. 03-5399-7344 Fax 03-5399-7806

ISSN 2186-9146

JOURNAL OF CHINESE LANGUAGE AND CULTURE

Vol.11

Mar.2022

Graduate School of Foreign Language Studies
Daito Bunka University